

基本計画書（共同学科等）

事項	記 入 欄																												
計画の区分	研究科の設置																												
構成大学の設置者	国立大学法人 岐阜大学				国立大学法人 鳥取大学																								
構成大学の名称	岐阜大学大学院 (Graduate School of Gifu University)				鳥取大学大学院 (Graduate School of Tottori University)																								
構成大学の本部の位置	岐阜県岐阜市柳戸1番1				鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地																								
共同学科等の名称	共同獣医学研究科 [Joint Graduate School of Veterinary Sciences] 共同獣医学専攻 [Joint Major of Veterinary Sciences]																												
共同学科等の目的	生態系の健全性を含む動物や人の健康に関する幅広い分野の先端的研究を推進し、獣医学の高度化に貢献できる獣医学教育者および研究者を養成するとともに、高度な知識と技術、専門性と倫理観を有し、国際社会または地域社会における指導的役割を果たす獣医学専門家を育成する。																												
共同学科等の概要	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	修業年限	入学定員 (合計)	編入学定員 (合計)	収容定員 (合計)																
	6	—	24	5	—	20				4	11	—	44																
学位	博士（獣医学）																												
開設時期及び開設年次	平成31年4月 第1年次																												
教育課程 (各構成大学が開設する授業科目数)	講義	演習	実験・演習	計	講義	演習	実験・演習	計	講義	演習	実験・演習	計	講義 (合計)	演習 (合計)	実験・演習 (合計)	計													
	36科目	35科目	20科目	91科目	40科目	36科目	18科目	94科目	科目	科目	科目	科目	76科目	71科目	38科目	185科目													
教員組織の概要	専任教員等			兼任 教員等	専任教員等			兼任 教員等	専任教員等			兼任 教員等	専任教員等(合計)			兼任 教員等 (合計)													
	教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手											
	13人 (13)	13人 (13)	0人 (0)	0人 (0)	26人 (26)	0人 (0)	0人 (0)	12人 (12)	14人 (14)	2人 (2)	0人 (0)	28人 (28)	0人 (0)	4人 (4)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	25人 (25)	27人 (27)	2人 (2)	0人 (0)	54人 (54)	0人 (0)	4人 (4)			
	研究指導教員等			その他 の教員	研究指導教員等			その他 の教員	研究指導教員等			その他 の教員	研究指導教員等(合計)			その他 の教員 (合計)													
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計
13人 (13)	13人 (13)	0人 (0)	0人 (0)	26人 (26)	0人 (0)	0人 (0)	12人 (12)	14人 (14)	2人 (2)	0人 (0)	28人 (28)	0人 (0)	0人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	25人 (25)	27人 (27)	2人 (2)	0人 (0)	54人 (54)	0人 (0)	0人 (0)			
教員以外の 職員の概要	専任	兼任	兼任	任	計	専任	兼任	兼任	任	計	専任	兼任	兼任	任	計														
	事務職員	329人 (329)	11人 (11)	340人 (340)	288人 (288)	381人 (381)	669人 (669)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)																		
	技術職員	871人 (871)	224人 (224)	1,095人 (1,095)	1,089人 (1,089)	105人 (105)	1,194人 (1,194)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)																		
	図書館専門職員	7人 (7)	0人 (0)	7人 (7)	13人 (13)	0人 (0)	13人 (13)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)																		
	その他の職員	1人 (1)	0人 (0)	1人 (1)	3人 (3)	84人 (84)	87人 (87)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)																		
計	1,208人 (1,208)	235人 (235)	1,443人 (1,443)	1,393人 (1,393)	570人 (570)	1,963人 (1,963)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)																			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	専用 (合計)	共用 (合計)	共用する他の学校 等の専用 (合計)	計			
	校 舎 敷 地	192,757㎡	0㎡	0㎡	192,757㎡	250,060㎡	0㎡	0㎡	250,060㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	442,817㎡	0㎡	0㎡	442,817㎡			
	運 動 場 用 地	90,589㎡	0㎡	0㎡	90,589㎡	123,946㎡	0㎡	0㎡	123,946㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	214,535㎡	0㎡	0㎡	214,535㎡			
	小 計	283,346㎡	0㎡	0㎡	283,346㎡	374,006㎡	0㎡	0㎡	374,006㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	657,352㎡	0㎡	0㎡	657,352㎡			
	そ の 他	6,045,665㎡	9,051㎡	0㎡	6,054,716㎡	9,321,100㎡	0㎡	0㎡	9,321,100㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	15,366,765㎡	9,051㎡	0㎡	15,375,816㎡			
合 計	6,329,011㎡	9,051㎡	0㎡	6,338,062㎡	9,695,106㎡	0㎡	0㎡	9,695,106㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	16,024,117㎡	9,051㎡	0㎡	16,033,168㎡				
大学全体の収容定員 (うち共同学科に係る収容定員 を除いた数)					6,618人 (6,594)				5,682人 (5,662)											
教 室 等	講義室	演習室			実験実習室			講義室	演習室			実験実習室								
	86室	67室			575室			102室	75室			589室								
	情報処理学習施設		語学学習施設			情報処理学習施設			語学学習施設			情報処理学習施設		語学学習施設						
	(補助職員 0人)		3室 (補助職員 0人)			1室 (補助職員 0人)			3室 (補助職員 0人)			0室 (補助職員 人)								
専任教員研究室数		26室			28室			室			室									
図 書 ・ 設 備	図書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械器具	標本	図書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械器具	標本	図書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械器具	標本		
	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	[うち外国書]	
	冊	種	種	種	種	種	冊	種	種	種	種	種	冊	種	種	種	種	種	種	
905,757 [303,075]	24,032 [11,722]	7,268 [6,048]	4,331	6,487	2,238	692,225 [190,964]	32,971 [4,120]	5,327 [4,444]	5,699	32,015	32	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
(905,757 [303,075])	(24,032 [11,722])	(7,268 [6,048])	(4,331)	(6,487)	(2,238)	(692,225 [190,964])	(32,971 [4,120])	(5,327 [4,444])	(5,699)	(32,015)	(32)	([])	([])	([])	([])	([])	([])	([])	([])	
図 書 館	積 閲 覧 座 席 数			取 納 可 能 冊 数			積 閲 覧 座 席 数			取 納 可 能 冊 数			積 閲 覧 座 席 数			取 納 可 能 冊 数				
	9,951㎡			712			959,578			6,014㎡			890			651,333				
経費の見積り及び 維持方法の概要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次			
		第4年次	第5年次	第6年次		第4年次	第5年次	第6年次		第4年次	第5年次	第6年次		第4年次	第5年次	第6年次				
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学 生 1 人 当 り 金 納	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次			
		第5年次	第6年次			第5年次	第6年次			第5年次	第6年次			第5年次	第6年次					
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
	学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要		—			—			—			—			—					
	備 考		運営費交付金 等			運営費交付金 等			運営費交付金 等			運営費交付金 等			運営費交付金 等					

大 学 の 名 称 岐阜大学							
学 部 等 の 名 称	修業年限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学位 又 は 称号	開 設 年 度	所 在 地
【学 部】 教育学部	年	人	年次 人	人			岐阜県岐阜市柳戸1番1
学校教育教員養成課程	4	230	—	920	学士（教育学）	平成10年度	
特別支援学校教員養成課程	4	20	—	80	学士（教育学）	平成19年度	
地域科学部							岐阜県岐阜市柳戸1番1
地域政策学科	4	50	3年次 5	210	学士（地域科学）	平成18年度	
地域文化学科	4	50	3年次 5	210	学士（地域科学）	平成18年度	
医学部							岐阜県岐阜市柳戸1番1
医学科	6	110	—	654	学士（医学）	昭和39年度	平成27年度入学定員増（3人）
看護学科	4	80	3年次 10	340	学士（看護学）	平成12年度	
工学部							岐阜県岐阜市柳戸1番1
社会基盤工学科	4	60	—	240	学士（工学）	平成14年度	
機械工学科	4	130	—	520	学士（工学）	平成25年度	
化学・生命工学科	4	150	—	600	学士（工学）	平成25年度	
電気電子・情報工学科	4	170	—	680	学士（工学）	平成25年度	
機械システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成14年度	平成25年度より学生募集停止
応用化学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成14年度	平成25年度より学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成14年度	平成25年度より学生募集停止
生命工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成14年度	平成25年度より学生募集停止
応用情報学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成14年度	平成25年度より学生募集停止
機能材料工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成14年度	平成25年度より学生募集停止
人間情報システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成14年度	平成25年度より学生募集停止
（各学科共通）	—	—	3年次 30	60	学士（工学）		
応用生物科学部							岐阜県岐阜市柳戸1番1
応用生命科学課程	4	80	3年次 5	330	学士（応用生物科学）	平成23年度	
生産環境科学課程	4	80	3年次 5	330	学士（応用生物科学）	平成16年度	
共同獣医学科	6	30	—	180	学士（獣医学）	平成25年度	

既設学部等の状況	獣医学課程	6	—	—	—	学士（獣医学）	平成16年度	平成25年度より学生募集停止	
	【大学院】 教育学研究科 (教職大学院課程) 教職実践開発専攻 (修士課程) 心理発達支援専攻 総合教科教育専攻 教科教育専攻	2	25	—	50	教職修士（専門職）	平成20年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
		2	10	—	20	修士（教育学）	平成20年度		
		2	34	—	68	修士（教育学）	平成25年度		
		2	—	—	—	修士（教育学）	平成7年度		平成25年度より学生募集停止
	地域科学研究科 (修士課程) 地域政策専攻 地域文化専攻	2	12	—	24	修士（地域科学）	平成13年度		岐阜県岐阜市柳戸1番1
		2	8	—	16	修士（地域科学）	平成13年度		
	医学系研究科 (修士課程) 看護学専攻 (博士課程) 医科学専攻 (博士前期課程) 再生医科学専攻 (博士後期課程) 再生医科学専攻	2	8	—	16	修士（看護学）	平成17年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
		4	47	—	188	博士（医学）	平成14年度		
		2	—	—	—	修士（再生医科学）	平成14年度		平成29年度より学生募集停止
		3	6	—	18	博士（再生医科学）	平成14年度		
	工学研究科 (博士前期課程) 社会基盤工学専攻 機械システム工学専攻 応用化学専攻 電気電子工学専攻 生命工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度		岐阜県岐阜市柳戸1番1
		2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度	平成29年度より学生募集停止	
		2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度	平成29年度より学生募集停止	
		2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度	平成29年度より学生募集停止	
		2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度	平成29年度より学生募集停止	
		2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度	平成29年度より学生募集停止	

応用情報学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度	平成29年度より学生募集停止
機能材料工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度	平成29年度より学生募集停止
人間情報システム工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度	平成29年度より学生募集停止
数理デザイン工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度	平成29年度より学生募集停止
環境エネルギーシステム専攻 (博士後期課程)	2	—	—	—	修士（工学）	平成18年度	平成29年度より学生募集停止
生産開発システム工学専攻	3	7	—	21	博士（工学）	平成3年度	
物質工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	平成3年度	
電子情報システム工学専攻	3	4	—	12	博士（工学）	平成3年度	
環境エネルギーシステム専攻	3	13	—	39	博士（工学）	平成11年度	
自然科学技術研究科 (修士課程)							岐阜県岐阜市柳戸1番1
生命科学・化学専攻	2	82	—	164	修士（応用生物科学又は工学）	平成29年度	
生物生産環境科学専攻	2	44	—	88	修士（応用生物科学）	平成29年度	
環境社会基盤工学専攻	2	29	—	58	修士（工学）	平成29年度	
物質・ものづくり工学専攻	2	67	—	134	修士（工学）	平成29年度	
知能理工学専攻	2	81	—	162	修士（工学）	平成29年度	
エネルギー工学専攻	2	72	—	144	修士（工学）	平成29年度	
応用生物科学研究科 (修士課程)							岐阜県岐阜市柳戸1番1
応用生命科学専攻	2	—	—	—	修士（応用生物科学）	平成25年度	平成29年度より学生募集停止
生産環境科学専攻	2	—	—	—	修士（応用生物科学）	平成25年度	平成29年度より学生募集停止
連合農学研究科 (博士課程)							岐阜県岐阜市柳戸1番1
生物生産科学専攻	3	7	—	21	博士（農学）	平成3年度	
生物環境科学専攻	3	5	—	15	博士（農学）	平成3年度	
生物資源科学専攻	3	8	—	24	博士（農学）	平成3年度	
連合獣医学研究科 (博士課程)							岐阜県岐阜市柳戸1番1

獣医学専攻	4	6	—	66	博士（獣医学）	平成2年度	平成30年度入学定員減（△14人）
連合創薬医療情報研究科 （博士課程）							岐阜県岐阜市柳戸1番1
創薬科学専攻	3	3	—	9	博士（工学又は薬科学）	平成19年度	
医療情報学専攻	3	3	—	9	博士（医科学又は薬科学）	平成19年度	

校 舎	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計
	195,928㎡ (195,928 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	195,928㎡ (195,928 ㎡)

大 学 の 名 称							
鳥取大学							
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人			
【学 部】 地域学部							鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地
地域学科	4	170	—	680	学士（地域学）	平成29年度	
地域政策学科	4	—	—	—	学士（地域学）	平成16年度	平成29年度より学生募集停止
地域教育学科	4	—	—	—	学士（地域学）	平成16年度	平成29年度より学生募集停止
地域文化学科	4	—	—	—	学士（地域学）	平成16年度	平成29年度より学生募集停止
地域環境学科	4	—	—	—	学士（地域学）	平成16年度	平成29年度より学生募集停止
医学部							鳥取県米子市西町86番地
医学科	6	105	2年次 ₅	655	学士（医学）	昭和24年度	
生命科学科	4	40	—	160	学士（生命科学）	平成2年度	
保健学科						平成11年度	
看護学専攻	4	80	3年次 ₂	324	学士（看護学）	平成11年度	
検査技術科学専攻	4	40	—	160	学士（保健学）	平成11年度	
工学部							鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地
機械物理系学科	4	115	—	460	学士（工学）	平成27年度	
電気情報系学科	4	125	—	500	学士（工学）	平成27年度	
化学バイオ系学科	4	100	—	400	学士（工学）	平成27年度	
社会システム土木系学科	4	110	—	440	学士（工学）	平成27年度	
機械工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成元年度	平成27年度より学生募集停止

知能情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成元年度	平成27年度より学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成元年度	平成27年度より学生募集停止
物質工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成元年度	平成27年度より学生募集停止
生物応用工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成元年度	平成27年度より学生募集停止
土木工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成元年度	平成27年度より学生募集停止
社会開発システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成元年度	平成27年度より学生募集停止
応用数理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	平成7年度	平成27年度より学生募集停止
農学部							鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地
生命環境農学科	4	220	—	880	学士（農学）	平成29年度	
生物資源環境学科	4	—	—	—	学士（農学）	平成11年度	平成29年度より学生募集停止
共同獣医学科	6	35	—	210	学士（獣医学）	平成25年度	
獣医学科	6	—	—	—	学士（獣医学）	昭和24年度	平成25年度より学生募集停止
【大学院】 持続性社会創生科学研究科 (博士前期課程)							鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地
地域学専攻						平成29年度	
地域創生コース	2	10	—	20	修士（地域学）	平成29年度	
人間形成コース	2	10	—	20	修士（教育学）	平成29年度	
工学専攻	2	165	—	330	修士（工学又は学術）	平成29年度	
農学専攻	2	46	—	92	修士（農学）	平成29年度	
国際乾燥地科学専攻	2	20	—	40	修士（農学又は学術）	平成29年度	
地域学研究科 (修士課程)							鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地
地域創造専攻	2	—	—	—	修士（地域学）	平成19年度	平成29年度より学生募集停止
地域教育専攻	2	—	—	—	修士（教育学）	平成19年度	平成29年度より学生募集停止
医学系研究科 (修士課程)							鳥取県米子市西町86番地
臨床心理学専攻 (博士課程)	2	6	—	12	修士（臨床心理学）	平成21年度	

医学専攻 (博士前期課程)	4	30	—	120	博士 (医学)	平成16年度	
生命科学専攻	2	10	—	20	修士 (生命科学)	平成6年度	
機能再生医科学専攻	2	11	—	22	修士 (再生医科学)	平成15年度	
保健学専攻 (博士後期課程)	2	14	—	28	修士 (保健学)	平成16年度	
生命科学専攻	3	5	—	15	博士 (生命科学)	平成8年度	
機能再生医科学専攻	3	7	—	21	博士 (再生医科学)	平成15年度	
保健学専攻	3	4	—	12	博士 (保健学)	平成20年度	
工学研究科 (博士前期課程)							鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地
機械宇宙工学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	平成20年度	平成29年度より学生募集停止
情報エレクトロニクス専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	平成20年度	平成29年度より学生募集停止
化学・生物応用工学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	平成20年度	平成29年度より学生募集停止
社会基盤工学専攻 (博士後期課程)	2	—	—	—	修士 (工学)	平成20年度	平成29年度より学生募集停止
機械宇宙工学専攻	3	6	—	18	博士 (工学)	平成20年度	
情報エレクトロニクス専攻	3	6	—	18	博士 (工学)	平成20年度	
化学・生物応用工学専攻	3	4	—	12	博士 (工学)	平成20年度	
社会基盤工学専攻	3	5	—	15	博士 (工学)	平成20年度	
農学研究科 (修士課程)							鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地
フィールド生産科学専攻	2	—	—	—	修士 (農学)	平成21年度	平成29年度より学生募集停止
生命資源科学専攻	2	—	—	—	修士 (農学)	平成21年度	平成29年度より学生募集停止
国際乾燥地科学専攻	2	—	—	—	修士 (農学)	平成21年度	平成29年度より学生募集停止
連合農学研究科 (博士課程)							鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地
生産環境科学専攻	3	8	—	24	博士 (農学)	平成30年度	
生命資源科学専攻	3	7	—	21	博士 (農学)	平成30年度	

	国際乾燥地科学専攻	3	4	—	12	博士（農学）	平成30年度	
	生物生産科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	平成元年度	平成30年度より学生募集停止
	生物環境科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	平成元年度	平成30年度より学生募集停止
	生物資源科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	平成元年度	平成30年度より学生募集停止
	国際乾燥地科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	平成21年度	平成30年度より学生募集停止
校 舎	専用	共用		共用する他の 学校等の専用		計		
	132,192㎡ (132,192 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)		0㎡ (0 ㎡)		132,192㎡ (132,192 ㎡)		

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コリツカガクホクシツトツリダガク 国立大学法人 鳥取大学								
フリガナ大学の名称	トツリダガクダガクイン 鳥取大学大学院 (Graduate School of Tottori University)								
大学本部の位置	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地								
大学の目的	<p>鳥取大学は、創立以来今日まで、地域の人々の幸福のために、実学を中心に地域の発展に取り組んできた。砂丘農業の取組から発展して世界に展開する乾燥地研究に象徴されるように、地域のための取組の成果を活かして世界に貢献してきた。その根底にあるものは、地域に寄り添いながら世界を視野に入れ、つねに厳しい条件下におかれている人々に対する思いやりの心をもつ姿勢である。</p> <p>このような伝統を受け継いで、理論の修得と実践により問題解決と知的創造を行う「知と実践の融合」を基本の理念として、全学を上げた学際的取組により教育、研究、社会貢献を進め、活力をもった持続的な地域の創生につとめるとともに、環境科学、ライフサイエンス等の特色ある分野において研究拠点の形成を進め、持続的な世界の構築に貢献する大学を目指していく。そのために次の3つの目標を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成 2. 地球規模及び社会的課題の解決に向けた先端的研究の推進 3. 国際・地域社会への貢献及び地域との融合 <p>これらの目標の達成に向けて、基本理念である「知と実践の融合」のもとに、次のようなビジョンをもって活動を行う。</p> <p>【教育】 時代に必要で現代的教養と人間力を根底におく教育により、地域社会の課題解決や国際社会の理解を志向し、社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成に取り組む。</p> <p>【研究】 地域から世界に広がる研究フィールドにおいて、基礎研究のみならず、社会的課題の解決へ向けた実践研究を行う。責任ある研究活動を行うとともに、そこから得た知見を学術知にとどめることなく、知的資源として社会へ還元する。</p> <p>【社会貢献】 地域と一体となって教育研究を推進するとともに、広く社会に役立つ研究成果を創出し、地域のみならず国際社会に還元する。大学の資源を活用して地域の活性化、地域医療の充実に貢献する。</p> <p>本学は、地域学部、医学部、工学部及び農学部等で構成されており、執行部と各学部との意思疎通や学部間の共通認識が図りやすく、状況に応じて迅速に対応できるという特色を活かし、学長のリーダーシップの下に、学内の資源を有効に活用し、効率的・機動的な大学運営を推進して目標の達成に努める。</p>								
新設学部等の目的	生態系の健全性を含む動物や人の健康に関する幅広い分野の先端的研究を推進し、獣医学の高度化に貢献できる獣医学教育者および研究者を養成するとともに、高度な知識と技術、専門性と倫理観を有し、国際社会または地域社会における指導的役割を果たす獣医学専門家を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 農学部共同獣医学科 14条特例の実施
	共同獣医学研究科 [Joint Graduate School of Veterinary Sciences]	年	人	年次人	人		年月第年次	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	
	共同獣医学専攻 [Joint Major of Veterinary Sciences]	4	5	—	20	博士（獣医学）	平成31年4月第1年次		
計			5	—	20				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし								

教育課程	新設学部等の名称 共同獣医学研究科 共同獣医学専攻	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
		40 科目	36 科目	18 科目	94 科目	30 単位			
教	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
新設分	共同獣医学研究科 共同獣医学専攻（博士課程）		人 12 (12)	人 14 (14)	人 2 (2)	人 0 (0)	人 28 (28)	人 0 (0)	人 4 (4)
	計		12 (12)	14 (14)	2 (2)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	4 (4)
員	既		22 (24)	28 (33)	10 (9)	0 (1)	60 (67)	0 (0)	87 (87)
	工学専攻		50 (53)	42 (44)	5 (5)	33 (35)	130 (137)	0 (0)	82 (82)
組	農学専攻		28 (30)	15 (15)	6 (6)	5 (5)	54 (56)	0 (0)	65 (65)
	国際乾燥地科学専攻		13 (13)	16 (16)	1 (2)	3 (3)	33 (34)	0 (0)	69 (69)
設	医学系研究科 生命科学専攻		4 (4)	5 (5)	0 (0)	8 (8)	17 (17)	0 (0)	2 (2)
	機能再生医科学専攻		5 (5)	7 (7)	0 (0)	8 (8)	20 (20)	0 (0)	15 (15)
の	保健学専攻		19 (19)	5 (5)	13 (13)	15 (15)	52 (52)	0 (0)	4 (4)
	臨床心理学専攻		5 (5)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	14 (14)
概	医学系研究科 医学専攻		36 (36)	28 (28)	16 (16)	56 (56)	136 (136)	0 (0)	5 (5)
	生命科学専攻		5 (5)	7 (7)	0 (0)	8 (8)	20 (20)	0 (0)	1 (1)
要	機能再生医科学専攻		5 (5)	7 (7)	0 (0)	8 (8)	20 (20)	0 (0)	5 (5)
	保健学専攻		19 (19)	5 (5)	13 (13)	15 (15)	52 (52)	0 (0)	2 (2)
分	工学研究科 機械宇宙工学専攻		12 (12)	11 (11)	2 (2)	8 (8)	33 (33)	0 (0)	0 (0)
	情報エレクトロニクス専攻		14 (14)	11 (11)	1 (1)	8 (8)	34 (34)	0 (0)	0 (0)
要	化学・生物応用工学専攻		11 (12)	8 (9)	1 (1)	8 (9)	28 (31)	0 (0)	0 (0)
	社会基盤工学専攻		10 (12)	9 (10)	1 (1)	9 (10)	29 (33)	0 (0)	0 (0)
分	連合農学研究科 生産環境科学専攻		32 (32)	26 (26)	4 (4)	4 (4)	66 (66)	0 (0)	16 (16)
	生命資源科学専攻		23 (23)	12 (12)	1 (1)	4 (4)	40 (40)	0 (0)	28 (28)
要	国際乾燥地科学専攻		13 (13)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	28 (28)	0 (0)	16 (16)
	乾燥地研究センター		5 (5)	6 (6)	0 (1)	0 (2)	11 (14)	0 (0)	0 (0)
分	事務局		2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	4 (4)
	保健管理センター		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (0)
要	国際乾燥地研究教育機構		2 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	教育支援・国際交流推進機構		7 (8)	16 (17)	2 (2)	2 (2)	27 (29)	0 (0)	319 (319)
分	総合メディア基盤センター		2 (2)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	研究推進機構		2 (2)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	9 (9)	0 (0)	16 (16)
要	地域価値創造研究教育機構		0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	35 (35)
	染色体工学研究センター		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (9)
分	計		231 (237)	207 (215)	52 (52)	138 (143)	628 (647)	0 (0)	— (—)
	合計		251 (259)	220 (228)	90 (90)	273 (279)	834 (856)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計		大学全体			
	事 務 職 員		288 人 (288)	381 人 (381)	669 人 (669)					
	技 術 職 員		1,089 (1,089)	105 (105)	1,194 (1,194)					
	図 書 館 専 門 職 員		13 (13)	0 (0)	13 (13)					
	そ の 他 の 職 員		3 (3)	84 (84)	87 (87)					
	計		1,393 (1,393)	570 (570)	1,963 (1,963)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		大学全体			
	校 舎 敷 地	250,060㎡	0㎡	0㎡	250,060㎡					
	運 動 場 用 地	123,946㎡	0㎡	0㎡	123,946㎡					
	小 計	374,006㎡	0㎡	0㎡	374,006㎡					
	そ の 他	9,321,100㎡	0㎡	0㎡	9,321,100㎡					
	合 計	9,695,106㎡	0㎡	0㎡	9,695,106㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		大学全体			
		132,192㎡ (132,192㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	132,192㎡ (132,192㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	102室	75室	589室	3室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数		大学全体			
		共同獣医学研究科 共同獣医学専攻			28 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能のため、 大学全体の 数		
	共同獣医学研究科	692,225 [190,964] (692,225 [190,964])	12,971 [4,120] (12,971 [4,120])	5,327 [4,444] (5,327 [4,444])	5,699 (5,699)	32,015 (32,015)	32 (32)			
	計	692,225 [190,964] (692,225 [190,964])	12,971 [4,120] (12,971 [4,120])	5,327 [4,444] (5,327 [4,444])	5,699 (5,699)	32,015 (32,015)	32 (32)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		6,014㎡		891	651,333					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		3,321㎡		武道場、弓道場、陸上競技場、野球場、テニスコート、ラグビー兼サッカー場、水泳プール						
経 費 積 立 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
		設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	
		学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
学生納付金以外の維持方法の概要		—								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 鳥取大学									
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	地域学部	年	人	年次人	人		倍		鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	
	地域学科	4	170	—	340	学士（地域学）	1.06	平成29年度		
	地域創造コース	4	60	—	120	学士（地域学）	1.08	平成29年度		
	人間形成コース	4	55	—	110	学士（地域学）	1.07	平成29年度		
国際地域文化コース	4	55	—	110	学士（地域学）	1.05	平成29年度			

既設大学等の状況	地域政策学科	4	—	—	—	学士（地域学）	—	平成16年度	鳥取県米子市西町86番地	平成29年度より学生募集停止（地域政策学科，地域教育学科，地域文化学科，地域環境学科）	
	地域教育学科	4	—	—	—	学士（地域学）	—	平成16年度			
	地域文化学科	4	—	—	—	学士（地域学）	—	平成16年度			
	地域環境学科	4	—	—	—	学士（地域学）	—	平成16年度			
	医学部							1.00	鳥取県米子市西町86番地	平成28年度3年次編入学定員減（看護学専攻△8人，検査技術科学専攻△5人）	
	医学科	6	105	2年次 5	655	学士（医学）	1.00	昭和24年度			
	生命科学科	4	40	—	160	学士（生命科学）	1.01	平成2年度			
	保健学科							1.01			平成11年度
	看護学専攻	4	80	3年次 2	324	学士（看護学）	1.01	平成11年度			
	検査技術科学専攻	4	40	—	160	学士（保健学）	1.01	平成11年度			
	工学部							1.02	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	平成27年度より学生募集停止（機械工学科，知能情報工学科，電気電子工学科，物質工学科，生物応用工学科，土木工学科，社会開発システム工学科，応用数理工学科）	
	機械物理系学科	4	115	—	460	学士（工学）	1.03	平成27年度			
	電気情報系学科	4	125	—	500	学士（工学）	1.03	平成27年度			
	化学バイオ系学科	4	100	—	400	学士（工学）	1.02	平成27年度			
	社会システム土木系学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.02	平成27年度			
	機械工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	知能情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	電気電子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	物質工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	生物応用工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	土木工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	社会開発システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	応用数理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度			
	農学部							1.03	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	平成29年度より学生募集停止（生物資源環境学科）	
	生命環境農学科	4	220	—	440	学士（農学）	1.02	平成29年度			
	生物資源環境学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成11年度			
	共同獣医学科	6	35	—	210	学士（獣医学）	1.03	平成25年度			
	獣医学科	6	—	—	—	学士（獣医学）	—	昭和24年度	平成25年度より学生募集停止（獣医学科）		
	持続性社会創生科学研究科								鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地		
地域学専攻	2	20	—	40		0.62	平成29年度				
地域創生コース	2	10	—	20	修士（地域学）	0.45	平成29年度				
人間形成コース	2	10	—	20	修士（教育学）	0.80	平成29年度				
工学専攻	2	165	—	330	修士（工学又は学術）	1.21	平成29年度				
農学専攻	2	46	—	92	修士（農学）	0.97	平成29年度				
国際乾燥地科学専攻	2	20	—	40	修士（農学又は学術）	0.97	平成29年度				

既設大学等の状況	地域学研究科								鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地		
	地域創造専攻	2	—	—	—	修士（地域学）	—	平成19年度		平成29年度より学生募集停止（地域創造専攻，地域教育専攻）	
	地域教育専攻	2	—	—	—	修士（教育学）	—	平成19年度			
	医学系研究科								鳥取県米子市西町86番地		
	修士課程										
	臨床心理学専攻	2	6	—	12	修士（臨床心理学）	1.24	平成21年度			
	博士課程										
	医学専攻	4	30	—	120	博士（医学）	1.04	平成16年度			
	博士前期課程										
	生命科学専攻	2	10	—	20	修士（生命科学）	0.80	平成6年度			
	機能再生医科学専攻	2	11	—	22	修士（再生医科学）	1.40	平成15年度			
	保健学専攻	2	14	—	28	修士（保健学）	1.10	平成16年度			
	博士後期課程										
	生命科学専攻	3	5	—	15	博士（生命科学）	0.60	平成8年度			
	機能再生医科学専攻	3	7	—	21	博士（再生医科学）	0.32	平成15年度			
	保健学専攻	3	4	—	12	博士（保健学）	1.50	平成20年度			
	工学研究科									鳥取県鳥取市湖山町	
	博士前期課程										
	機械宇宙工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成20年度		平成29年度より学生募集停止（機械宇宙工学専攻，情報エレクトロニクス専攻，化学・生物応用工学専攻，社会基盤工学専攻）	
	情報エレクトロニクス専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成20年度			
	化学・生物応用工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成20年度			
	社会基盤工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成20年度			
	博士後期課程										
	機械宇宙工学専攻	3	6	—	18	博士（工学）	0.38	平成20年度			
	情報エレクトロニクス専攻	3	6	—	18	博士（工学）	0.44	平成20年度			
	化学・生物応用工学専攻	3	4	—	12	博士（工学）	1.08	平成20年度			
	社会基盤工学専攻	3	5	—	15	博士（工学）	0.40	平成20年度			
農学研究科									鳥取県鳥取市湖山町		
修士課程											
フィールド生産科学専攻	2	—	—	—	修士（農学）	—	平成21年度		平成29年度より学生募集停止（フィールド生産科学専攻，生命資源科学専攻，国際乾燥地科学専攻）		
生命資源科学専攻	2	—	—	—	修士（農学）	—	平成21年度				
国際乾燥地科学専攻	2	—	—	—	修士（農学）	—	平成21年度				
連合農学研究科									鳥取県鳥取市湖山町		
博士課程											
生産環境科学専攻	3	8	—	8	博士（農学）	1.25	平成30年度				
生命資源科学専攻	3	7	—	7	博士（農学）	0.71	平成30年度				
国際乾燥地科学専攻	3	4	—	4	博士（農学）	0.75	平成30年度				

既設大学等の状況	生物生産科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	—	平成元年度	平成30年度より学生募集停止（生物生産科学専攻，生物環境科学専攻，生物資源科学専攻，国際乾燥地科学専攻）
	生物環境科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	—	平成元年度	
	生物資源科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	—	平成元年度	
	国際乾燥地科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	—	平成21年度	
附属施設の概要	<p>名称：附属図書館 目的：教育・研究や学習に必要な図書館資料を収集・整理して利用に供するとともに，電子ジャーナルの導入，二次文献情報データベースの整理，情報リテラシー教育への参画などを通じて学内の学術情報の流通基盤として機能し，鳥取大学における教育・研究活動を支援することを目的とする。 所在地：中央図書館；鳥取市湖山町南4丁目101番地 医学図書館；米子市西町86番地 設置年月：昭和24年5月</p>								規模等（土地面積・建物面積）は別表のとおり
	<p>名称：附属幼稚園 目的：幼児を保育し，適当な環境を与えて，その心身の発達を助長するとともに，鳥取大学の教育計画に従って，教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い，兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。 所在地：鳥取市湖山町北2丁目465番地 設置年月：昭和42年6月（平成16年4月大学附属に転換）</p>								
	<p>名称：附属小学校 目的：初等普通教育を施し，併せて鳥取大学の教育計画に従って，教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い，兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。 所在地：鳥取市湖山町南4丁目101番地 設置年月：昭和26年4月（改称，平成16年4月大学附属に転換）</p>								
	<p>名称：附属中学校 目的：中等普通教育を施し，併せて鳥取大学の教育計画に従って，教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い，兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。 所在地：鳥取市湖山町南4丁目101番地 設置年月：昭和26年4月（改称，平成16年4月大学附属に転換）</p>								
	<p>名称：附属特別支援学校 目的：知的障害者及び軽度発達障害者に対して小学校，中学校又は高等学校に準ずる教育を施し，併せて特別な教育的ニーズに応じた支援を行い，また，鳥取大学の教育計画に従って，教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い，兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。 所在地：鳥取市湖山町西2丁目149番地 設置年月：昭和53年4月（附属養護学校を平成16年4月大学附属に転換，平成19年4月改称）</p>								
	<p>名称：地域学部附属芸術文化センター 目的：地域の芸術文化の振興並びに創造，発展，継承及びその活用による地域振興を目的とした地域貢献事業並びにこれと関連する研究・教育を行うことを目的とする。 所在地：鳥取市湖山町南4丁目101番地 設置年月：平成16年4月</p>								
	<p>名称：地域学部附属子どもの発達・学習研究センター 目的：地域学部の子どもの発達・学習に関する学際的な研究に一つのまとまった形を付与するとともに，教育・研究の枠組みを附属学校部と共有することを目的とする。 所在地：鳥取市湖山町南4丁目101番地 設置年月：平成26年4月</p>								
	<p>名称：医学部附属病院 目的：医学部附属施設として，患者を診療し，医学の教育と研究を行うことを目的とする。 所在地：米子市西町36番地の1 設置年月：昭和26年3月</p>								

附属施設の概要	<p>名称 :工学部ものづくり教育実践センター</p> <p>目的 :工学部附属の教育施設として、ものづくり教育を通じて科学技術とものづくりの重要性を啓発し、もって創造的人材の育成と併せて研究に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成16年4月</p>	
	<p>名称 :工学部附属クロス情報科学研究センター</p> <p>目的 :鳥取県内外の産学官が連携して情報科学等関連産業に係る高度な技術者を育成するとともにコア技術の研究に取り組み、地域産業の活性化に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成20年4月(附属電子ディスプレイ研究センターを平成29年4月改称)</p>	
	<p>名称 :工学部附属地域安全工学センター</p> <p>目的 :地域社会の安全・安心と持続的発展へ寄与するため、安全・防災システムの構築、地域公共システムの構築・整備や交通、防災および生活に関する地域情報のシステム化を目指すことを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成24年4月</p>	
	<p>名称 :工学部附属グリーン・サステナブル・ケミストリー研究センター</p> <p>目的 :グリーン・サステナブル・ケミストリーを実現し、省エネで廃棄物を出さない化学合成法、自然界で再生産できるエネルギーの開発、再生可能材料の創製について研究し、人類社会の持続的発展に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成24年10月</p>	
	<p>名称 :工学部附属先端融合研究センター</p> <p>目的 :情報、電気工学、バイオテクノロジーを中心に、機械物理系、化学生物系、土木社会基盤系等の各分野と融合する研究を推進するとともに、鳥取大学の他研究科・学部、センター等と連携して学際融合先端研究を行い、さらに、企業等からの研究者も積極的に受入れることにより、地域産業の活性化、研究開発拠点の形成、高度で学際的能力を持つ人材育成を行うことを主な目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成26年1月</p>	
	<p>名称 :農学部附属フィールドサイエンスセンター</p> <p>目的 :農地や森林などのフィールドを活用した研究・教育・地域貢献を実践すること、さらに農学部における総合的なフィールド科学の情報発信基地としての機能を担うことを目的とする。</p> <p>所在地 :湖山農場;鳥取市湖山町南4丁目101番地 大塚農場;鳥取市大塚3-1 教育研究林湖山の森;鳥取市湖山町西4丁目110番地 " 三朝の森;鳥取県東伯郡三朝町大谷 " 伯耆の森;鳥取県西伯郡伯耆町金屋谷 " 蒜山の森;岡山県真庭市蒜山上徳山</p> <p>設置年月 :昭和24年5月(附属農場、附属演習林を平成17年4月に統合)</p>	
	<p>名称 :農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター</p> <p>目的 :自然生態系の維持、植物の成長促進やストレス耐性の付与、環境汚染物質の浄化など多様な機能を持つ菌類きのこに関し、高レベルで特色のある体系的な教育と研究を進め、優秀な人材の育成と、産業の活性化や新産業の創出を目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成17年4月</p>	
	<p>名称 :農学部附属動物医療センター</p> <p>目的 :一般市民に対して動物診療を提供すると共に、獣医学の臨床教育および研究に資することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :昭和28年8月(附属家畜病院を平成22年4月改称)</p>	
	<p>名称 :農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター</p> <p>目的 :鳥インフルエンザなど社会的にインパクトの大きな鳥由来人獣共通感染症における防疫対策を確立し、国家および地方防疫に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成17年4月</p>	

附属施設の概要	<p>名称 : 農学部附属共同獣医学教育開発推進センター</p> <p>目的 : 農学部及び岐阜大学応用生物科学部による共同教育を有効、かつ、効率的に実施するための教育方法及び教育内容を改善・開発・調整すること、及び連携・共同獣医学教育に関する情報を発信することにより獣医学教育の質の向上・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 : 鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 : 平成25年4月</p>	
	<p>名称 : 医学系研究科臨床心理相談センター</p> <p>目的 : 地域住民に対する臨床心理相談及び臨床心理に関する援助活動並びに教育・研究を行うことを目的とする。</p> <p>所在地 : 米子市西町36番地の1</p> <p>設置年月 : 平成20年4月</p>	
	<p>名称 : 乾燥地研究センター</p> <p>目的 : 全国共同利用施設として、乾燥地の砂漠化防止及び開発利用に関する基礎的研究を行い、かつ、国立大学の教員その他の者で、この分野の研究に従事するものの利用に供することを目的とする。</p> <p>所在地 : 鳥取市浜坂1390番地</p> <p>設置年月 : 平成2年6月（農学部附属砂丘利用研究施設を転換し、設置）</p>	
	<p>名称 : 国際乾燥地研究教育機構</p> <p>目的 : 乾燥地や開発途上国等に関する研究・教育を全学体制で展開し、我が国トップの研究教育拠点を形成することを目的とする。</p> <p>所在地 : 鳥取市浜坂1390番地</p> <p>設置年月 : 平成27年1月</p>	
	<p>名称 : 教育支援・国際交流推進機構</p> <p>目的 : 鳥取大学における教育関係支援組織の連携により、機能的な組織を形成し、大学教育、学生支援等の充実及び国際交流の推進を図ることを目的とする。</p> <p>所在地 : 鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 : 平成20年4月（大学教育支援機構を平成29年4月改組）</p>	
	<p>名称 : 入学センター</p> <p>目的 : 教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、全学的な立場による、入学者選抜制度の改善及び入学者選抜の円滑な実施を図るとともに、本学への入学希望者に対する総合的な広報活動等及びアドミッションポリシーに対応した学生募集を行うことを目的とする。</p> <p>所在地 : 鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 : 平成15年4月（アドミッションセンターを平成19年6月改組）</p>	
	<p>名称 : 教育センター</p> <p>目的 : 教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、全学的な立場による、大学教育の円滑な実施を図るとともに、大学教育改善のための企画及び開発等を行い、大学教育及び学生支援の充実を寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 : 鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 : 平成15年4月（大学教育総合センターを平成20年4月改組）</p>	
	<p>名称 : 学生支援センター</p> <p>目的 : 教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、全学的な立場による、学生生活支援全般に係る事項について、企画・開発等を行い学生支援活動の充実を寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 : 鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 : 平成26年4月</p>	
	<p>名称 : 教員養成センター</p> <p>目的 : 教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、全学体制による教員養成等の円滑な実施を図るための企画・調整、教員養成に係るカリキュラムの開発・編成、教育実習の企画・立案及び現職教員の研修等を行うとともに、人間発達と学習能力形成に優れた質の高い実践的指導力を有する人材を養成し、その成果を広く地域に還元することを目的とする。</p> <p>所在地 : 鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 : 平成25年2月</p>	
	<p>名称 : キャリアセンター</p> <p>目的 : 教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、全学的な立場による、大学教育の円滑な実施を図るとともにキャリア教育及び就職支援等の充実を寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 : 鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 : 平成22年4月</p>	

附属施設の概要	<p>名 称 :国際交流センター</p> <p>目 的 :教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、本学の国際化について企画・立案するとともに、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成15年4月(留学生センターを平成16年4月改称)</p>	
	<p>名 称 :総合メディア基盤センター</p> <p>目 的 :本学の学内共同教育研究施設として、本学の情報ネットワーク及びセンターの電子計算機システムを管理運用し、本学における研究、教育その他の業務のための共同利用に供するとともに、情報処理の円滑かつ効率的な推進を図ることを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成11年4月(総合情報処理センターを平成16年4月改組)</p>	
	<p>名 称 :研究推進機構</p> <p>目 的 :本学における研究活動の効果的かつ創造的な実施のための研究環境の機能強化を推進し、本学の研究力の一層の向上を図るとともに、研究成果を社会に還元することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地 米子市西町86番地</p> <p>設置年月 :平成15年4月(生命機能研究支援センター、産学連携推進機構を平成30年4月に統合)</p>	
	<p>名 称 :地域価値創造研究教育機構</p> <p>目 的 :地域価値を創造するための地域参加型研究及び地域実践型教育を融合的かつ全学的に推進すること等により、全国に先駆けて人口減少、少子・高齢化、産業空洞化等が進む地域の創生に貢献することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成29年10月(産学・地域連携推進機構を改組)</p>	
	<p>名 称 :染色体工学研究センター</p> <p>目 的 :染色体工学技術を基盤として、学問的、社会的に国際競争力のある研究および人材育成を実践することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :米子市西町86番地</p> <p>設置年月 :平成21年4月</p>	
	<p>名 称 :保健管理センター</p> <p>目 的 :本学における学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を行い、健康の保持増進を図ることを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :昭和44年4月</p>	

(別表)

附属施設の規模等

〔鳥取地区〕		(単位: m ²)		
名 称	土 地	建 物		
		建面積	延面積	
保健管理センター	508,118 (※1)	348	343	
附属図書館		1,886	4,322	
地域学部 附属芸術文化センター, 附属子どもの発達・学習研究センターを含む		3,027	9,615	
工学部 ものづくり教育実践センター, 附属クロス情報科学研究センター, 附属地域安全工学センター, 附属グリーン・サステイナブル・ケミストリー研究センター, 附属先端融合研究センターを含む		10,227	33,504	
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(湖山農場), 附属菌類きのこ遺伝資源研究センター, 附属動物医療センター, 附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター, 附属共同獣医学教育開発推進センターを含む		12,797	25,763	
総合メディア基盤センター		428	830	
教員養成センター		282	530	
研究推進機構 地域価値創造研究教育機構を含む		1,119	2,658	
共通教育棟 入学センター, 教育センター, 学生支援センター, キャリアセンター, 国際交流センターを含む		3,396	9,869	
附属小学校, 附属中学校		5,830	11,437	
附属特別支援学校		18,587	2,807	3,445
附属幼稚園		4,297	1,106	1,075
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林湖山の森)		(※2) 46,693	1,036	4,060
乾燥地研究センター 国際乾燥地研究教育機構を含む	978,344	8,268	10,881	
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(大塚農場)	56,083	470	468	

〔米子地区〕		(単位: m ²)	
名 称	土 地	建 物	
		建面積	延面積
医学部(一) 附属図書館医学図書館を含む	36,760 (※3)	13,159	38,510
附属病院	52,928 (※4)	25,506	90,862
医学部(二) 研究推進機構, 染色体工学研究センターを含む	45,113	2,677	10,266

〔その他の地区〕		(単位: m ²)	
名 称	土 地	建 物	
		建面積	延面積
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林三朝の森)	1,865,902	0	0
附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林伯耆の森)	332,882	0	0
附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林蒜山の森)	5,732,636	1,268	1,372

※1 本部管理棟その他, 大学院連合農学研究科, 鳥取地区放射線施設, 職員宿舎を含む。

※2 国際交流会館, 職員宿舎を含む。

※3 職員宿舎を含む。

※4 職員宿舎を含む。

国立大学法人鳥取大学 設置認可等に関わる組織の移行表

	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
鳥取大学									
地域学部									
地域学科	170	-	680		170	-	680		
医学部									
医学科(6年制)	105	2年次	5	555	105	2年次	5	530	
生命科学科	40		-	160	40		-	160	
保健学科	120		3年次	2	120		0	480	3年次編入学定員変更(Δ2)
工学部									
機械物理系学科	115		-	460	115		-	460	
電気情報系学科	125		-	500	125		-	500	
化学バイオ系学科	100		-	400	100		-	400	
社会システム土木系学科	110		-	440	110		-	440	
農学部									
生命環境農学科	220		-	880	220		-	880	
共同獣医学科(6年制)	35		-	210	35		-	210	
計	1,140	2年次	5	4,769	1,140	2年次	5	4,740	
		3年次	2			3年次	0		
鳥取大学大学院									
持続性社会創生科学研究科									
地域学専攻(M)	20		-	40	20		-	40	
工学専攻(M)	165		-	330	165		-	330	
農学専攻(M)	46		-	92	46		-	92	
国際乾燥地科学専攻(M)	20		-	40	20		-	40	
医学系研究科									
医学専攻(4年制D)	30		-	120	30		-	120	
生命科学専攻(M)	10		-	20	10		-	20	
生命科学専攻(D)	5		-	15	5		-	15	
機能再生医科学専攻(M)	11		-	22	11		-	22	
機能再生医科学専攻(D)	7		-	21	7		-	21	
保健学専攻(M)	14		-	28	14		-	28	
保健学専攻(D)	4		-	12	4		-	12	
臨床心理学専攻(M)	6		-	12	6		-	12	
工学研究科									
機械宇宙工学専攻(D)	6		-	18	6		-	18	
情報エレクトロニクス専攻(D)	6		-	18	6		-	18	
化学・生物応用工学専攻(D)	4		-	12	4		-	12	
社会基盤工学専攻(D)	5		-	15	5		-	15	
連合農学研究科									
生産環境科学専攻(D)	8		-	24	8		-	24	
生命資源科学専攻(D)	7		-	21	7		-	21	
国際乾燥地科学専攻(D)	4		-	12	4		-	12	
計	378		-	872	378		-	872	
鳥取大学大学院									
持続性社会創生科学研究科									
地域学専攻(M)	20		-	40	20		-	40	
工学専攻(M)	165		-	330	165		-	330	
農学専攻(M)	46		-	92	46		-	92	
国際乾燥地科学専攻(M)	20		-	40	20		-	40	
医学系研究科									
医学専攻(4年制D)	30		-	120	30		-	120	
生命科学専攻(M)	10		-	20	10		-	20	
生命科学専攻(D)	5		-	15	5		-	15	
機能再生医科学専攻(M)	11		-	22	11		-	22	
機能再生医科学専攻(D)	7		-	21	7		-	21	
保健学専攻(M)	14		-	28	14		-	28	
保健学専攻(D)	4		-	12	4		-	12	
臨床心理学専攻(M)	6		-	12	6		-	12	
工学研究科									
機械宇宙工学専攻(D)	6		-	18	6		-	18	
情報エレクトロニクス専攻(D)	6		-	18	6		-	18	
化学・生物応用工学専攻(D)	4		-	12	4		-	12	
社会基盤工学専攻(D)	5		-	15	5		-	15	
連合農学研究科									
生産環境科学専攻(D)	8		-	24	8		-	24	
生命資源科学専攻(D)	7		-	21	7		-	21	
国際乾燥地科学専攻(D)	4		-	12	4		-	12	
計	383		-	892	383		-	892	
共同獣医学研究科									研究科の設置(意見伺い)
獣医学専攻(4年制D)	5		-	20	5		-	20	

教育課程等の概要（共同学科等）														
（共同獣医学研究科共同獣医学専攻）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態		専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	
研究科共通科目	生物情報解析学特論	1	岐阜大学	2			○		1					岐阜メディア
	研究倫理・知的財産特論	1	鳥取大学	1			○		1					鳥取メディア
	アカデミック・イングリッシュ	1	岐阜大学	1			○		1					岐阜メディア
	学際領域特別演習	1	鳥取大学・岐阜大学	1			○		2					集中 両大学が交互に開講（平成31年度は鳥取大学が開講）
	小計（4科目）	—	—	5	0	0	—		3	0	0	0	0	—
基盤的教育科目	神経科学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				岐阜メディア
	生体情報薬理学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				岐阜メディア
	病態生理学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				岐阜メディア
	腫瘍学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				岐阜メディア
	病原微生物学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				岐阜メディア
	ウイルス性人獣共通感染症学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				岐阜メディア
	食品環境衛生学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				岐阜メディア
	環境と感染症基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		2					岐阜メディア
	野生動物学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○			1				岐阜メディア
	難治性内科疾患基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		2	1				岐阜メディア
	小動物外科学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		1					岐阜メディア
	獣医麻酔外科学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○			3				岐阜メディア
	産業動物学基盤特別講義	1・2	岐阜大学	1			○		2	1				岐阜メディア
	獣医解剖学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○		1	1				鳥取メディア
	基礎獣医機能学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○		1	2				鳥取メディア
	細胞分化制御学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○				1			鳥取メディア
	獣医感染病理学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○		1	1				鳥取メディア
	実験動物学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○			1				鳥取メディア
	実験動物学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○		2					鳥取メディア
	細菌学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○		1	2				鳥取メディア
鳥類感染症学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○		2					鳥取メディア	
動物感染症予防学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○			1				鳥取メディア	
ウイルスおよびプリオンによる人獣共通感染症学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○			1				鳥取メディア	
動物感染症学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○				1			鳥取メディア	
獣医寄生虫病学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○			1				鳥取メディア	
獣医診断治療学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○		2					鳥取メディア	
家畜生殖工学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○		2					鳥取メディア	
難病診断治療学基盤特別講義	1・2	鳥取大学	1			○		2	1				鳥取メディア	
基盤特別演習	神経科学基盤特別演習	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				対面
	病態生理学基盤特別演習	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				対面
	腫瘍学基盤特別演習	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				対面
	病原微生物学基盤特別演習	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				対面
	ウイルス性人獣共通感染症学基盤特別演習	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				対面
	食品環境衛生学基盤特別演習	1・2	岐阜大学	1			○		1	1				対面
	環境と感染症基盤特別演習	1・2	岐阜大学	1			○		2					対面
	難治性内科疾患基盤特別演習	1・2	岐阜大学	1			○		2	1				対面
	獣医麻酔外科学基盤特別演習	1・2	岐阜大学	1			○			3				対面
	産業動物学基盤特別演習	1・2	岐阜大学	1			○		2	1				対面
	獣医解剖学基盤特別演習	1・2	鳥取大学	1			○		1	1				対面
	基礎獣医機能学基盤特別演習	1・2	鳥取大学	1			○		1	2				対面
	獣医感染病理学基盤特別演習	1・2	鳥取大学	1			○		1	1				対面
	実験動物学基盤特別演習	1・2	鳥取大学	1			○		2					対面
	細菌学基盤特別演習	1・2	鳥取大学	1			○		1	2				対面
	鳥類感染症学基盤特別演習	1・2	鳥取大学	1			○		2					対面
獣医診断治療学基盤特別演習	1・2	鳥取大学	1			○		2					対面	
家畜生殖工学基盤特別演習	1・2	鳥取大学	1			○		2					対面	
難病診断治療学基盤特別演習	1・2	鳥取大学	1			○		2	1				対面	
基盤特別実験	神経科学基盤特別実験	1・2	岐阜大学	2			○		1	1				対面
	病態生理学基盤特別実験	1・2	岐阜大学	2			○		1	1				対面
	腫瘍学基盤特別実験	1・2	岐阜大学	2			○		1	1				対面
	病原微生物学基盤特別実験	1・2	岐阜大学	2			○		1	1				対面
	ウイルス性人獣共通感染症学基盤特別実験	1・2	岐阜大学	2			○		1	1				対面
	食品環境衛生学基盤特別実験	1・2	岐阜大学	2			○		1	1				対面
	環境と感染症基盤特別実験	1・2	岐阜大学	2			○		2					対面
	難治性内科疾患基盤特別実験	1・2	岐阜大学	2			○		2	1				対面
	獣医麻酔外科学基盤特別実験	1・2	岐阜大学	2			○			3				対面
	産業動物学基盤特別実験	1・2	岐阜大学	2			○		2	1				対面
	獣医解剖学基盤特別実験	1・2	鳥取大学	2			○		1	1				対面
	基礎獣医機能学基盤特別実験	1・2	鳥取大学	2			○		1	2				対面
	獣医感染病理学基盤特別実験	1・2	鳥取大学	2			○		1	1				対面
	実験動物学基盤特別実験	1・2	鳥取大学	2			○		2					対面
	細菌学基盤特別実験	1・2	鳥取大学	2			○		1	2				対面
	鳥類感染症学基盤特別実験	1・2	鳥取大学	2			○		2					対面
獣医診断治療学基盤特別実験	1・2	鳥取大学	2			○		2					対面	
家畜生殖工学基盤特別実験	1・2	鳥取大学	2			○		2					対面	
難病診断治療学基盤特別実験	1・2	鳥取大学	2			○		2	1				対面	
小計（66科目）	—	—	—	0	85	0	—	—	25	24	2	0	0	0

スペシヤリスト養成科目	家畜衛生・公衆衛生科目群	養成コア科目	家畜衛生・公衆衛生特別講義Ⅰ	2・3	岐阜大学		1			○			2						岐阜メディア・オムニバス				
		家畜衛生・公衆衛生特別講義Ⅱ	2・3	鳥取大学	1		○		3	2									鳥取メディア・オムニバス 教授1名は岐阜大学				
		家畜衛生・公衆衛生特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		2									対面・オムニバス				
		家畜衛生・公衆衛生特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		2	2	1							対面・共同				
	スペシヤリスト特別講義	ウイルスの病原性発現機構の分子細胞生物学特別講義	2・3	岐阜大学	1			○		1										岐阜メディア			
		獣医感染症学特別講義	2・3	岐阜大学	1			○		1	1									岐阜メディア			
		公衆衛生学特別講義	2・3	岐阜大学	1			○		1										岐阜メディア			
		分子寄生虫学特別講義	2・3	岐阜大学	1			○			1									岐阜メディア			
		産業動物疾病診断学特別講義	2・3	岐阜大学	1			○		1										岐阜メディア			
		獣医繁殖学特別講義	2・3	鳥取大学	1			○		1										鳥取メディア			
		高病原性鳥インフルエンザ特別講義	2・3	鳥取大学	1			○		1										鳥取メディア			
動物感染症予防医薬品学特別講義		2・3	鳥取大学	1			○				1								鳥取メディア				
演習	感染学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○												鳥取メディア				
	獣医寄生病学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○												鳥取メディア				
	牛病学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○												鳥取メディア				
	獣医感染症学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1	1									学生移動・オムニバス				
	公衆衛生学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1	1									学生移動・オムニバス				
スペシヤリスト特別	産業動物疾病診断学特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		1										学生移動				
	獣医繁殖学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1										学生移動・オムニバス				
	高病原性鳥インフルエンザ特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1	1									学生移動・共同				
	獣医寄生病学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1	1									学生移動				
牛病学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1	1										学生移動				
One Health科目群	アスペシヤリスト養成コア	One Health特別講義Ⅰ	2・3	岐阜大学	1		○		2	2									岐阜メディア・オムニバス 教授2名は鳥取大学				
		One Health特別講義Ⅱ	2・3	鳥取大学	1		○		2	2										鳥取メディア・オムニバス 准教授2名は岐阜大学			
		One Health特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		2	3									対面・オムニバス			
		One Health特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		2										対面・オムニバス			
	スペシヤリスト特別講義	病原性ウイルス生態学特別講義	2・3	岐阜大学	1			○		1											岐阜メディア		
		ウイルス性人獣共通病原体と宿主（相互作用）特別講義	2・3	岐阜大学	1			○			1										岐阜メディア		
		野生動物の個体数管理特別講義	2・3	岐阜大学	1			○		1											岐阜メディア		
		野生動物管理学特別講義	2・3	岐阜大学	1			○			1										岐阜メディア		
		薬剤耐性スペシヤリスト特別講義	2・3	岐阜大学	1			○		1											岐阜メディア		
		獣医感染症実験病理学特別講義	2・3	鳥取大学	1			○		1	1										鳥取メディア・オムニバス		
		ウイルス工学特別講義	2・3	鳥取大学	1			○		1	1										鳥取メディア		
		新興・再興細菌感染症学特別講義	2・3	鳥取大学	1			○		1											鳥取メディア		
		インフルエンザ感染制御学（リスクアナリシス）特別講義	2・3	鳥取大学	1			○		1											鳥取メディア		
		ウイルス性人獣共通感染症の発生、診断と対策特別講義	2・3	鳥取大学	1			○		1	1										鳥取メディア		
		特別演習	病原性ウイルス生態学特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		1	1										学生移動・オムニバス	
			個体数管理特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		1	1										学生移動・オムニバス	
			薬剤耐性スペシヤリスト特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		1											学生移動	
			獣医感染症実験病理学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1	1										学生移動・共同	
			感染症対策に関するOne Health特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1	1										学生移動・オムニバス	
			鳥インフルエンザの確定診断特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1	1	1									学生移動・オムニバス	
難病治療・創薬科目群	アスペシヤリスト養成コア	難病治療・創薬特別講義Ⅰ	2・3	岐阜大学	1		○		8											岐阜メディア・オムニバス			
		難病治療・創薬特別講義Ⅱ	2・3	鳥取大学	1		○		7	1										鳥取メディア・オムニバス			
		難病治療・創薬特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		2	13										対面・オムニバス		
		難病治療・創薬特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		2	8	1									対面・オムニバス		
		スペシヤリスト特別講義	神経系の形態学・分子病態学特別講義	2・3	岐阜大学	1			○			2										岐阜メディア・オムニバス	
	難治性疾患病態生理特別講義		2・3	岐阜大学	1			○		1	1										岐阜メディア・オムニバス		
	創薬概論特別講義		2・3	岐阜大学	1			○		1	1										岐阜メディア・オムニバス		
	比較腫瘍学特別講義		2・3	岐阜大学	1			○		1	1										岐阜メディア・オムニバス		
	獣医分子内科学特別講義		2・3	岐阜大学	1			○		2	1										岐阜メディア・オムニバス		
	獣医外科・麻酔学特別講義		2・3	岐阜大学	1			○		1	2										岐阜メディア・オムニバス		
	生殖再生医療学特別講義		2・3	岐阜大学	1			○		1											岐阜メディア		
	トランスレーショナルリサーチ特別講義		2・3	岐阜大学	1			○				1									岐阜メディア		
	組織形態学特別講義		2・3	鳥取大学	1			○		1	1										鳥取メディア・オムニバス		
	獣医生体機能学特別講義		2・3	鳥取大学	1			○		1	2										鳥取メディア		
	遺伝情報制御学特別講義		2・3	鳥取大学	1			○				1										鳥取メディア	
	実験動物医学専門医養成特別講義		2・3	鳥取大学	1			○		1	1											鳥取メディア・共同	
	疾患モデル動物学特別講義		2・3	鳥取大学	1			○			1											鳥取メディア	
	獣医内科診断治療学特別講義		2・3	鳥取大学	1			○		1												鳥取メディア	
	獣医感染症内科学特別講義		2・3	鳥取大学	1			○			1											鳥取メディア	
	神経機能評価学特別講義		2・3	鳥取大学	1			○		1												鳥取メディア	
	獣医眼科学特別講義		2・3	鳥取大学	1			○			1											鳥取メディア	
	腫瘍治療学特別講義		2・3	鳥取大学	1			○		1	1											鳥取メディア・オムニバス	
	スペシヤリスト特別演習		神経科学・神経症候学特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		1	2										学生移動・オムニバス	
			難治性疾患病態生理特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		1	1										学生移動・オムニバス	
			電気生理学実験特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		1	1										学生移動・オムニバス	
			比較腫瘍学特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		1	1											学生移動・オムニバス
			獣医分子内科学特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		2	1											学生移動・オムニバス
			獣医外科・麻酔学特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		1	2											学生移動・オムニバス
			生殖再生医療学特別演習	2・3	岐阜大学	1			○		1												学生移動
			トランスレーショナルリサーチ特別演習	2・3	岐阜大学	1			○				1										学生移動
			組織形態学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1	1											学生移動・オムニバス
			獣医生体機能学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○		1	2											学生移動
		遺伝情報制御学特別演習	2・3	鳥取大学	1			○				1										学生移動	
実験動物医学専門医養成特別演習		2・3	鳥取大学	1			○		1	1											学生移動・共同		
獣医内科診断治療学特別演習		2・3	鳥取大学	1			○		1												学生移動		
獣医感染症内科学特別演習		2・3	鳥取大学	1			○			1											学生移動		
神経機能評価学特別演習		2・3	鳥取大学	1			○		1												学生移動		
画像診断学特別演習		2・3	鳥取大学	1			○		1												学生移動		
腫瘍治療学特別演習		2・3	鳥取大学	1			○		1	1											学生移動・オムニバス		
小計（81科目）					-		0	81	0	-				25	27	2	0	0	兼4				

研究推進科目	動物組織薬理学特別実験	2・3	岐阜大学	2				○	1	1									対面	
	難治性疾患病態生理特別実験	2・3	岐阜大学	2				○	1	1									対面	
	腫瘍学研究推進特別実験	2・3	岐阜大学	2				○	1	1									対面	
	獣医感染症学特別実験	2・3	岐阜大学	2				○	1	1									対面	
	病原性ウイルス生態学特別実験	2・3	岐阜大学	2				○	1	1									対面	
	公衆衛生学特別実験	2・3	岐阜大学	2				○	1	1									対面	
	環境と感染症特別実験	2・3	岐阜大学	2				○	2										対面	
	難治性内科疾患研究推進特別実験	2・3	岐阜大学	2				○	2	1									対面	
	獣医麻酔外科学研究推進特別実験	2・3	岐阜大学	2				○			3								対面	
	産業動物臨床応用学特別実験	2・3	岐阜大学	2				○	2	1									対面	
	組織形態学特別実験	2・3	鳥取大学	2				○	1	1									対面	
	獣医生体機能学特別実験	2・3	鳥取大学	2				○	1	2									対面	
	獣医神経病理学特別実験	2・3	鳥取大学	2				○	1	1									対面	
	実験動物生殖工学特別実験	2・3	鳥取大学	2				○	2										対面	
	微生物学特別実験	2・3	鳥取大学	2				○	1	2									対面	
	鳥類感染症学特別実験	2・3	鳥取大学	2				○	2										対面	
	獣医内科診断治療学特別実験	2・3	鳥取大学	2				○	2										対面	
	獣医繁殖学特別実験	2・3	鳥取大学	2				○	2										対面	
	難病診断治療学特別実験	2・3	鳥取大学	2				○	2	1									対面	
	演習科目	プログレスセミナーⅠ	2・3・4	岐阜大学	2				○	13	13									対面
		プログレスセミナーⅠ	2・3・4	鳥取大学	2				○	12	14	2								対面
		プログレスセミナーⅡ	2・3・4	岐阜大学	2				○	13	13									メディア等
		プログレスセミナーⅡ	2・3・4	鳥取大学	2				○	12	14	2								メディア等
小計 (23科目)	—	—	0	46	0	—	—	25	27	2	0	0	0	0						
アドバンスト教育科目	国内特別実践演習Ⅰ	2・3・4	岐阜大学	2				○	12	11										
	国内特別実践演習Ⅰ	2・3・4	鳥取大学	2				○	12	5										
	国内特別実践演習Ⅱ	2・3・4	岐阜大学	2				○	12	11										
	国内特別実践演習Ⅱ	2・3・4	鳥取大学	2				○	12	5										
	海外特別実践演習Ⅰ	2・3・4	岐阜大学	2				○	12	11										
	海外特別実践演習Ⅰ	2・3・4	鳥取大学	2				○	12	5										
	海外特別実践演習Ⅱ	2・3・4	岐阜大学	2				○	12	11										
	海外特別実践演習Ⅱ	2・3・4	鳥取大学	2				○	12	5										
	ジョイントワークショップ演習	2・3・4	岐阜大学	2				○	12	11										
	ジョイントワークショップ演習	2・3・4	鳥取大学	2				○	12	5										
小計 (10科目)	—	—	0	20	0	—	—	24	16	0	0	0	0	0						
合計 (184科目)				—	—	5	232	0	—	25	27	2	0	0	0	0	0	0	兼4	
学位又は称号		博士 (獣医学)		学位又は学科の分野		獣医学														
卒業要件及び履修方法				開設大学		開設単位数 (必修)		授業期間等												
<p>【修了要件及び履修方法】</p> <p>1. 修了要件は、共同獣医学研究科の教育課程において、30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する口述ないし筆記試験に合格することとする。なお、30単位以上のうち、10単位以上は相手大学が開設する授業科目の単位とする。</p> <p>2. 履修方法は、研究科共通科目を5単位、基盤的教育科目を7単位、スペシャリスト養成科目を8単位以上、研究推進科目を6単位、アドバンスト教育科目を4単位以上、それぞれ修得することとし、内訳は以下のとおりとする。</p> <p><研究科共通科目：必修、5単位></p> <ul style="list-style-type: none"> 生物情報解析学特論 1単位 研究倫理・知的財産特論 2単位 アカデミック・イングリッシュ 1単位 学際領域特別演習 1単位 <p><基盤的教育科目：選択必修、7単位></p> <ul style="list-style-type: none"> 基盤特別講義 4単位 主指導教員が開講する特別講義 (1科目1単位)、自大学の教員が開講する特別講義 (1科目1単位)、相手大学の教員が開講する特別講義 (2科目2単位) を選択必修とする。 基盤特別演習 1単位 主指導教員が開講する特別演習 (1科目1単位) を選択必修とする。 基盤特別実験 2単位 主指導教員が開講する特別実験 (1科目2単位) を選択必修とする。 <p><スペシャリスト養成科目：選択必修、8単位以上></p> <p>3つの各プログラムにおいて、各スペシャリスト養成コア科目 (特別講義及び特別演習)、スペシャリスト特別講義、スペシャリスト特別演習を以下のとおり選択必修とする。その他、他のプログラムのスペシャリスト特別講義を選択して履修できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> スペシャリスト養成コア科目 3単位 特別講義：自大学及び相手大学の教員が開講する特別講義 (2科目2単位) を選択必修とする。 特別演習：自大学の教員が開講する特別演習 (1科目1単位) を選択必修とする。 スペシャリスト特別講義 4単位 自大学及び相手大学の教員が開講する特別講義 (4科目4単位) を選択必修とする。 スペシャリスト特別演習 1単位 相手大学の教員が開講する特別演習 (1科目1単位) を選択必修とする。 <p><研究推進科目：選択必修、6単位></p> <ul style="list-style-type: none"> 研究推進特別実験 2単位 主指導教員が開講する特別実験 (1科目2単位) を選択必修とする。 演習科目 (プログレスセミナーⅠ・Ⅱ) 4単位 主指導教員及び自大学副指導教員が開講するセミナーⅠ (1科目2単位)、相手大学の副指導教員が開講するセミナーⅡ (1科目2単位) を選択必修とする。 <p><アドバンスト教育科目：選択、4単位以上></p> <p>アドバンスト特別演習として開講される以下の授業科目から2科目4単位以上を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内特別実践演習Ⅰ・Ⅱ 海外特別実践演習Ⅰ・Ⅱ ジョイントワークショップ演習 				岐阜大学	118 (3)	1学年の学期区分	2期													
				鳥取大学	120 (3)	1学期の授業期間	15週													
						1時限の授業時間	90分													

教 育 課 程 等 の 概 要																
(共同獣医学研究科共同獣医学専攻/鳥取大学)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手		
研究科共通科目	研究倫理・知的財産特論	1	2			○			1					鳥取メディア		
	学際領域特別演習	1	1				○		2					集中 両大学が交互に開講 (平成31年度は鳥取大学が開講) 教授1名は岐阜大学		
	小計(2科目)	-	3	0	0	-			3	0	0	0	0			
基盤的教育科目	基盤特別講義	獣医解剖学基盤特別講義	1・2	1			○		1	1				鳥取メディア		
		基礎獣医機能学基盤特別講義	1・2	1			○		1	2				鳥取メディア		
		細胞分化制御学基盤特別講義	1・2	1			○				1			鳥取メディア		
		獣医感染病理学基盤特別講義	1・2	1			○		1	1				鳥取メディア		
		実験動物疾病学基盤特別講義	1・2	1			○			1				鳥取メディア		
		実験動物学基盤特別講義	1・2	1			○		2					鳥取メディア		
		細菌学基盤特別講義	1・2	1			○		1	2				鳥取メディア		
		鳥類感染症学基盤特別講義	1・2	1			○		2					鳥取メディア		
		動物感染症予防学基盤特別講義	1・2	1			○			1				鳥取メディア		
		ウイルスおよびプリオンによる人獣共通感染症基盤特別講義	1・2	1			○			1				鳥取メディア		
		動物感染症学基盤特別講義	1・2	1			○				1			鳥取メディア		
		獣医寄生虫学基盤特別講義	1・2	1			○			1				鳥取メディア		
	獣医診断治療学基盤特別講義	1・2	1			○			2				鳥取メディア			
	家畜生殖工学基盤特別講義	1・2	1			○			2				鳥取メディア			
	雑病診断治療学基盤特別講義	1・2	1			○			2	1			鳥取メディア			
	基盤特別演習	獣医解剖学基盤特別演習	1・2	1				○		1	1				対面	
		基礎獣医機能学基盤特別演習	1・2	1				○		1	2				対面	
		獣医感染病理学基盤特別演習	1・2	1				○		1	1				対面	
		実験動物学基盤特別演習	1・2	1				○		2					対面	
		細菌学基盤特別演習	1・2	1				○		1	2				対面	
		鳥類感染症学基盤特別演習	1・2	1				○		2					対面	
		獣医診断治療学基盤特別演習	1・2	1				○		2					対面	
		家畜生殖工学基盤特別演習	1・2	1				○		2					対面	
	基盤特別実験	獣医解剖学基盤特別実験	1・2	2					○	1	1					対面
		基礎獣医機能学基盤特別実験	1・2	2					○	1	2					対面
		獣医感染病理学基盤特別実験	1・2	2					○	1	1					対面
		実験動物学基盤特別実験	1・2	2					○	2						対面
		細菌学基盤特別実験	1・2	2					○	1	2					対面
		鳥類感染症学基盤特別実験	1・2	2					○	2						対面
		獣医診断治療学基盤特別実験	1・2	2					○	2						対面
		家畜生殖工学基盤特別実験	1・2	2					○	2						対面
	雑病診断治療学基盤特別実験	1・2	2					○	2	1					対面	
	小計(33科目)	-	0	42	0	-			12	11	2	0	0	0		
家畜衛生・公衆衛生・公衆衛生科目群	家畜衛生・公衆衛生特別講義Ⅱ	家畜衛生・公衆衛生特別講義Ⅱ	2・3	1			○		3	2					鳥取メディア・オムニバス 教授1名は岐阜大学	
		家畜衛生・公衆衛生特別演習	2・3	1				○	2	2	1				対面・共同	
		獣医繁殖学特別講義	2・3	1			○		1						鳥取メディア	
	家畜衛生・公衆衛生特別演習	高病原性鳥インフルエンザ特別講義	2・3	1			○		1						鳥取メディア	
		動物感染症予防医薬品学特別講義	2・3	1			○			1					鳥取メディア	
		感染症の制圧特別講義	2・3	1			○				1				鳥取メディア	
		獣医寄生虫学特別講義	2・3	1			○				1				鳥取メディア	
		牛病学特別講義	2・3	1			○				1				鳥取メディア	
		獣医繁殖学特別演習	2・3	1				○		1					兼1 学生移動・オムニバス	
		高病原性鳥インフルエンザ特別演習	2・3	1				○		1	1				学生移動・共同	
	獣医寄生虫学特別演習	2・3	1				○			1				学生移動		
	牛病学特別演習	2・3	1				○			1				学生移動		
	One Health科目群	One Health特別講義Ⅱ	One Health特別講義Ⅱ	2・3	1			○		2	2					鳥取メディア・オムニバス 教授2名は岐阜大学
			One Health特別演習	2・3	1				○	2						対面・オムニバス
			獣医感染実験病理学特別講義	2・3	1			○		1	1					鳥取メディア・オムニバス
		トス特別講義Ⅱ	ウイルス工学特別講義	2・3	1			○			1					鳥取メディア
新興・再興細菌感染症学特別講義			2・3	1			○			1					鳥取メディア	
インフルエンザ感染制御学(リスクアナリシス)特別講義			2・3	1			○			1					鳥取メディア	
ウイルス性人獣共通感染症の発生、診断と対策特別講義			2・3	1			○				1				鳥取メディア	
獣医感染実験病理学特別演習			2・3	1				○		1	1				学生移動・共同	
感染症対策に関するOne Health特別演習			2・3	1				○		1	1				学生移動・オムニバス	
鳥インフルエンザの確定診断特別演習	2・3	1				○		1	1	1			学生移動・オムニバス			
雑病治療・創薬科目群	雑病治療・創薬特別講義Ⅱ	雑病治療・創薬特別講義Ⅱ	2・3	1			○		7	1					鳥取メディア・オムニバス	
		雑病治療・創薬特別演習	2・3	1				○	2	8	1				兼3 対面・オムニバス	
		組織形態学特別講義	2・3	1			○		1	1					鳥取メディア・オムニバス	
	スペシャリスト特別講義	獣医生体機能学特別講義	2・3	1			○		1	2					鳥取メディア	
		遺伝情報制御学特別講義	2・3	1			○				1				鳥取メディア	
		実験動物医学専門医養成特別講義	2・3	1			○		1	1					鳥取メディア・共同	
		疾患モデル動物学特別講義	2・3	1			○			1	1				鳥取メディア	
		獣医内科診断治療学特別講義	2・3	1			○			1					鳥取メディア	
		獣医感染症内科学特別講義	2・3	1			○				1				鳥取メディア	
		神経機能評価学特別講義	2・3	1			○			1					鳥取メディア	
		獣医眼科学特別講義	2・3	1			○				1				鳥取メディア	
		腫瘍治療学特別講義	2・3	1			○			1	1				鳥取メディア・オムニバス	

ス ペ シ ヤ リ ス ト 養 成 科 目	難 病 治 療 ・ 創 薬 科 目 群	組織形態学特別演習	2・3	1			○		1	1					学生移動・オムニバス
		獣医生体機能学特別演習	2・3	1			○		1	2					学生移動
		遺伝情報制御学特別演習	2・3	1			○				1				学生移動
		実験動物医学専門医養成特別演習	2・3	1			○		1	1					学生移動・共同
		獣医内科診断治療学特別演習	2・3	1			○		1						兼1 学生移動・共同(一部)
		獣医感染症内科学特別演習	2・3	1			○			1					学生移動
		神経機能評価学特別演習	2・3	1			○		1						学生移動
		画像診断学特別演習	2・3	1			○		1						兼1 学生移動・オムニバス
		腫瘍治療学特別演習	2・3	1			○		1	1					学生移動・オムニバス
		小計(43科目)			—	0	43	0	—	13	16	2	0	0	0
研 究 推 進 科 目	研 究 推 進 特 別 実 験	組織形態学特別実験	2・3	2			○	1	1					対面	
		獣医生体機能学特別実験	2・3	2			○	1	2					対面	
		獣医神経病理学特別実験	2・3	2			○	1	1					対面	
		実験動物生物工学特別実験	2・3	2			○	2						対面	
		微生物学特別実験	2・3	2			○	1	2					対面	
		鳥類感染症学特別実験	2・3	2			○	2						対面	
		獣医内科診断治療学特別実験	2・3	2			○	2						対面	
		獣医繁殖学特別実験	2・3	2			○	2						対面	
		難病診断治療学特別実験	2・3	2			○	2	1					対面	
	小計(11科目)			—	0	22	0	—	12	14	2	0	0	0	
育 ア ド バ ン ス ト 教 育	科 目 群	国内特別実践演習Ⅰ	2・3・4	2			○	12	5						
		国内特別実践演習Ⅱ	2・3・4	2			○	12	5						
		海外特別実践演習Ⅰ	2・3・4	2			○	12	5						
		海外特別実践演習Ⅱ	2・3・4	2			○	12	5						
		ジョイントワークショップ演習	2・3・4	2			○	12	5						
		小計(5科目)			—	0	10	0	—	12	5	0	0	0	0
合計(94科目)					—	3	117	0	—	14	16	2	0	0	兼4
学位又は称号		博士(獣医学)		学位又は学科の分野		獣医学									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
【修了要件及び履修方法】 1. 修了要件は、共同獣医学研究科の教育課程において、30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する口述ないし筆記試験に合格することとする。なお、30単位以上のうち、10単位以上は相手大学が開設する授業科目の単位とする。 2. 履修方法は、研究科共通科目を5単位、基盤的教育科目を7単位、スペシャリスト養成科目を8単位以上、研究推進科目を6単位、アドバンスト教育科目を4単位以上、それぞれ修得することとし、内訳は以下のとおりとする。 <研究科共通科目：必修、5単位> ・生物情報解析学特論・・・1単位 ・研究倫理・知的財産特論・・・2単位 ・アカデミック・イングリッシュ・・・1単位 ・学際領域特別演習・・・1単位 <基盤的教育科目：選択必修、7単位> ・基盤特別講義・・・4単位 主指導教員が開講する特別講義(1科目1単位)、自大学の教員が開講する特別講義(1科目1単位)、相手大学の教員が開講する特別講義(2科目2単位)を選択必修とする。 ・基盤特別演習・・・1単位 主指導教員が開講する特別演習(1科目1単位)を選択必修とする。 ・基盤特別実験・・・2単位 主指導教員が開講する特別実験(1科目2単位)を選択必修とする。 <スペシャリスト養成科目：選択必修、8単位以上> 3つの各プログラムにおいて、各スペシャリスト養成コア科目(特別講義及び特別演習)、スペシャリスト特別講義、スペシャリスト特別演習を以下のとおり選択必修とする。その他、他のプログラムのスペシャリスト特別講義を選択して履修できる。 ・スペシャリスト養成コア科目・・・3単位 特別講義：自大学及び相手大学の教員が開講する特別講義(2科目2単位)を選択必修とする。 特別演習：自大学の教員が開講する特別演習(1科目1単位)を選択必修とする。 ・スペシャリスト特別講義・・・4単位 自大学及び相手大学の教員が開講する特別講義(4科目4単位)を選択必修とする。 ・スペシャリスト特別演習・・・1単位 相手大学の教員が開講する特別演習(1科目1単位)を選択必修とする。 <研究推進科目：選択必修、6単位> ・研究推進特別実験・・・2単位 主指導教員が開講する特別実験(1科目2単位)を選択必修とする。 ・演習科目(プログレスセミナーⅠ・Ⅱ)・・・4単位 主指導教員及び自大学副指導教員が開講するセミナーⅠ(1科目2単位)、相手大学の副指導教員が開講するセミナーⅡ(1科目2単位)を選択必修とする。 <アドバンスト教育科目：選択、4単位以上> アドバンスト特別演習として開講される以下の授業科目から2科目4単位以上を選択する。 ・国内特別実践演習Ⅰ・Ⅱ ・海外特別実践演習Ⅰ・Ⅱ ・ジョイントワークショップ演習								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

別記様式第2号（その2の2）

教育課程等の概要（共同学科等）																
(岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科)																
(鳥取大学農学部共同獣医学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
一般教育科目	初年次セミナー	1前	岐阜大学	2			○			5	3					
	大学入門ゼミ	1前	鳥取大学	2			○			14						
	大学教育導入演習Ⅰ	1前	鳥取大学	1				○		14	14	3	2	兼2	学生移動	
	大学教育導入演習Ⅱ	2前	岐阜大学	1				○		15	13		7		学生移動	
	教養基礎力養成演習	1後	岐阜大学	2				○		7	7				一部教員移動	
	教養基礎力養成演習	1後	鳥取大学	2				○		5	5		2		一部教員移動	
	小計（6科目）	—	—	10	0	0	—	—	—	29	27	3	9	0	兼2	
	人文・社会科学科目群	哲学入門	1・2前	岐阜大学		2		○								兼2
		哲学・倫理学	1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼1
		宗教学	1・2前・後	岐阜大学		2		○								兼2
日本人と宗教		1・2後	鳥取大学		2		○								兼1	
倫理学		1・2後	岐阜大学		2		○								兼2	
文学		1・2後	岐阜大学		2		○								兼2	
文学		1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼4	
心理学入門		1・2前	岐阜大学		2		○								兼1	
心理学		1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼2	
美術論		1・2前・後	岐阜大学		2		○								兼4	
芸術入門		1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼6	
法学入門		1・2前	岐阜大学		2		○								兼2	
法学入門		1・2前	鳥取大学		2		○								兼1	
日本国憲法		1・2前	岐阜大学		2		○								兼4	
憲法学		1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼1	
経済学入門		1・2前	岐阜大学		2		○								兼2	
経済学		1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼3	
地理学入門		1・2前・後	岐阜大学		2		○								兼2	
教育論		1・2前・後	岐阜大学		2		○								兼7	
教育社会学		1・2後	鳥取大学		2		○								兼1	
社会総合		1・2後	岐阜大学		2		○								兼1	
政治学		1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼3	
科学論（科学論入門：近代的自然観と自然科学）		1・2前	岐阜大学		2		○								兼2	
科学哲学		1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼1	
教育論（学校の社会的意味を問う）		1・2後	岐阜大学		2		○								兼1	
経営学入門（経営学とは何か）		1・2前	岐阜大学		2		○								兼1	
経済学入門（くらしと経済との関係）		1・2前	岐阜大学		2		○								兼1	
社会・経済統計-数字に見る日本の経済社会-		1・2前	鳥取大学		2		○								兼1	
経済学史（経済学の発生とその展開）		1・2後	岐阜大学		2		○								兼1	
20世紀史Ⅰ		1・2前	鳥取大学		2		○								兼1	
20世紀史Ⅱ		1・2後	鳥取大学		2		○								兼1	
中国・朝鮮半島史（中国史）		1・2後	岐阜大学		2		○								兼2	
歴史学		1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼4	
国際法（国際法入門）		1・2前	岐阜大学		2		○								兼2	
海外安全マネジメント		1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼1	
小計（35科目）	—	—	—	0	70	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼71	
自然科学科目群	基礎代数学	1・2前・後	岐阜大学		2		○								兼2	
	代数学入門	1・2後	鳥取大学		2		○								兼1	
	基礎解析学	1・2前	岐阜大学		2		○								兼3	
	解析学教程Ⅱ	1後	鳥取大学		2		○								兼1	
	教養の物理学	1・2前・後	岐阜大学		2		○			1					兼4	
	教養の化学	1・2前・後	岐阜大学		2		○								兼5	
	化学C	1・2後	鳥取大学		2		○								兼1	
	生物学入門	1・2前・後	岐阜大学		2		○			1	2				兼1	
	分類・生態から分子まで：昆虫学入門	1・2前	鳥取大学		2		○								兼1	
	教養の生物学	1・2前・後	岐阜大学		2		○			7	5				兼1	
	脳の世紀-脳・心・病気-	1・2前・後	鳥取大学		2		○								兼15	
	宇宙地球科学入門	1・2後	岐阜大学		2		○								兼1	
	地球科学（新しい地球観の基礎）	1・2後	鳥取大学		2		○								兼6	
	基礎数学	1前	岐阜大学		2		○								兼1	
	解析学教程Ⅰ	1・2前	鳥取大学		2		○								兼1	

	物理学 I	1前	岐阜大学	2				○											兼1	
	物理学入門 I	1・2前	鳥取大学	2				○											兼1	
	物理学 II	1後	岐阜大学	2	2			○											兼1	
	物理学入門 II - 基礎電磁気学-	1・2後	鳥取大学	2	2			○											兼1	
	化学 I	1前	岐阜大学	2				○				2								
	化学 I A	1・2前	鳥取大学	2				○											兼1	
	化学 II	1後	岐阜大学	2	2			○				1								
	化学 II A	1・2後	鳥取大学	2	2			○											兼1	
	生物学 I	1前	岐阜大学	2	2			○				2	3						兼2	
	生物学 I A	1・2前	鳥取大学	2	2			○				1								
	生物学 II	1後	岐阜大学	2	2			○				4	5							
	生物学 II A	1・2後	鳥取大学	2	2			○				1	1			1				
	地学	2前	岐阜大学	2	2			○											兼1	
	地球科学 (地質・地形・固体地球物理学の基礎)	1・2前	鳥取大学	2	2			○											兼6	
	小計 (29科目)	—		16	42	0		—			6	12	0	1	0				兼59	
複合領域科目群	自分らしいキャリア設計 I	1・2前	岐阜大学	2	2			○											兼1	
	自分らしいキャリア設計 II	1・2後	岐阜大学	2	2			○											兼1	
	キャリア入門	1・2前	鳥取大学	2	2			○											兼5	
	岐阜県の方言	1・2後	岐阜大学	2	2			○											兼1	
	日本語構造論	1・2後	鳥取大学	2	2			○											兼1	
	生活と金融・人生設計と資産形成	1・2後	岐阜大学	2	2			○											兼1	
	くらしの経済・法律講座	1・2前	鳥取大学	2	2			○											兼1	
	現代社会を支える企業	1・2後	岐阜大学	2	2			○											兼1	
	地域就業論	1・2後	鳥取大学	2	2			○											兼1	
	生命倫理学	2後	岐阜大学	2	2			○											兼2	
	生命倫理と法	1・2後	鳥取大学	2	2			○											兼1	
	情報リテラシ	1前	鳥取大学	2	2			○											兼6	
	初心者のためのコンピュータプログラミング入門	1・2後	鳥取大学	2	2			○											兼1	
	未来を拓く先端化学	1・2前	鳥取大学	2	2			○											兼14	
	健康とQOL	1・2前	岐阜大学	2	2			○											兼5	
	スポーツ生理学入門	1・2後	鳥取大学	2	2			○											兼1	
	医学史	1・2前	岐阜大学	2	2			○											兼13	
	健康と疾病	1・2前	鳥取大学	2	2			○											兼7	
	栄養と運動	1・2後	岐阜大学	2	2			○											兼1	
	ウェルネスとシェイプアップ	1・2前・後	鳥取大学	2	2			○											兼1	
	社会の中の看護	1・2後	岐阜大学	2	2			○											兼4	
	健康科学と応急手当	1・2前	鳥取大学	2	2			○											兼1	
	医療と生命	1・2前	岐阜大学	2	2			○											兼1	
	医学と生命科学	1・2前	鳥取大学	2	2			○											兼15	
	健康科学講義	1・2前	岐阜大学	2	2			○				2							兼13	
	スポーツ演習	1・2前	岐阜大学	2	2			○				3	1						兼19	
健康スポーツ科学実技	1・2前・後	鳥取大学	1	1			○											兼9		
現代のまちづくりと住民	1・2後	岐阜大学	2	2			○											兼1		
岐阜大学の教育研究と運営	1・2前	岐阜大学	2	2			○				4							兼11		
鳥取大学を知る	1・2前	鳥取大学	2	2			○											兼15		
	小計 (30科目)	—		0	59	0		—			6	1	0	0	0					
外国語科目群	英語 1	1前	岐阜大学	1				○											兼22	
	英語 2	1後	岐阜大学	1				○											兼23	
	英語 3	2前	岐阜大学	1				○											兼12	
	英語 4	2前	岐阜大学	1				○											兼11	
	科学英語	2後	岐阜大学	2				○											兼1	
	コミュニケーション英語A	1前	鳥取大学	1				○											兼13	
	コミュニケーション英語B	1前	鳥取大学	1				○											兼16	
	実践英語A	1後	鳥取大学	1				○											兼11	
	実践英語B	1後	鳥取大学	1				○											兼15	
	総合英語 I	2前	鳥取大学	1				○											兼16	
	総合英語 II	2後	鳥取大学	1				○											兼12	
		小計 (11科目)	—		12	0	0		—		0	0	0	0	0					兼39
	第二外国語	ドイツ語 I	1前	岐阜大学	1				○											兼8
		ドイツ語 II	1後	岐阜大学	1				○											兼8
ドイツ語基礎 I		1前	鳥取大学	1				○											兼3	
ドイツ語基礎 II		1後	鳥取大学	1				○											兼3	
フランス語 I		1前	岐阜大学	1				○											兼3	
フランス語 II		1後	岐阜大学	1				○											兼4	
フランス語基礎 I		1前	鳥取大学	1				○											兼2	
フランス語基礎 II		1後	鳥取大学	1				○											兼2	
ポルトガル語 I		1前	岐阜大学	1				○											兼1	
ポルトガル語 II		1後	岐阜大学	1				○											兼1	

		スペイン語基礎Ⅰ	1前	鳥取大学	1			○							兼2			
		スペイン語基礎Ⅱ	1後	鳥取大学	1			○							兼2			
		中国語Ⅰ	1前	岐阜大学	1			○							兼6			
		中国語Ⅱ	1後	岐阜大学	1			○							兼7			
		中国語基礎Ⅰ	1前	鳥取大学	1			○							兼5			
		中国語基礎Ⅱ	1後	鳥取大学	1			○							兼5			
		朝鮮・韓国語Ⅰ	1前	岐阜大学	1			○							兼1			
		朝鮮・韓国語Ⅱ	1後	岐阜大学	1			○							兼1			
		韓国語基礎Ⅰ	1前	鳥取大学	1			○							兼3			
		韓国語基礎Ⅱ	1後	鳥取大学	1			○							兼3			
		小計(20科目)	—		0	20	0	—		0	0	0	0	0	兼30			
専門 教育 科目	齊一 教育 科目 群	導 入 科 目 群	獣医学概論Ⅰ	1前	岐阜大学	1			○			5				鳥大メディア		
			獣医学概論Ⅱ	1前	鳥取大学	1			○			7		1			岐大メディア	
			獣医倫理・動物福祉学	4後	岐阜大学	1			○			6					オムニバス	
			獣医倫理・動物福祉学	4後	鳥取大学	1			○			6				オムニバス		
			獣医事法規	4前	岐阜大学	1			○							兼1		
			獣医事法規	4前	鳥取大学	1			○			1				集中		
			小計(4科目)	—		4	0	0	—		25	0	1	0	0	兼1		
基礎 獣 医 学 科 目 群	基 礎 獣 医 学 科 目 群	獣医解剖学Ⅰ	1後	岐阜大学	2			○			1	1						
		獣医解剖学Ⅰ	1後	鳥取大学	2			○			1							
		獣医解剖学Ⅱ	2前	岐阜大学	2			○			1	1						
		獣医解剖学Ⅱ	2前	鳥取大学	2			○			1							
		獣医解剖学実習	2前	岐阜大学	2					○	1	1						
		獣医解剖学実習	2前	鳥取大学	2					○	1							
		獣医組織学Ⅰ	2後	岐阜大学	1					○	1	1					鳥大メディア	
		獣医組織学Ⅰ	2後	鳥取大学	1					○	1							
		獣医組織学Ⅱ	2後	岐阜大学	1					○	1	1						
		獣医組織学Ⅱ	2後	鳥取大学	1					○	1							
		獣医組織学実習	2後	岐阜大学	1						○	1	1					
		獣医組織学実習	2後	鳥取大学	1						○	1						
		発生学Ⅰ	3前	岐阜大学	1					○	1	1						鳥大メディア
		発生学Ⅱ	3前	鳥取大学	1					○	1	1						岐大メディア
		獣医生理学Ⅰ	1後	岐阜大学	2					○	1	1						
		獣医生理学Ⅰ	1後	鳥取大学	2					○	1	1						
		獣医生理学Ⅱ	2前	岐阜大学	2					○	1	1						鳥大メディア
		獣医生理学Ⅲ	2後	鳥取大学	2					○	1	1						岐大メディア
		獣医生理学実習	2後	岐阜大学	2						○	1	1					一部教員移動
		獣医生理学実習	2後	鳥取大学	2						○	1	1					一部教員移動
		獣医生化学Ⅰ	1前	鳥取大学	2					○	1							岐大メディア
		獣医生化学Ⅱ	1後	鳥取大学	2					○	1	1						岐大メディア
		獣医生化学実習	1後	岐阜大学	1						○	3	3					一部教員移動
		獣医生化学実習	1後	鳥取大学	1						○	1	1					一部教員移動
		獣医薬理学Ⅰ	2後	岐阜大学	2					○	1	1						
		獣医薬理学Ⅰ	2後	鳥取大学	2					○	1	1						
		獣医薬理学Ⅱ	3前	鳥取大学	1					○	1	1						教員移動
		獣医薬理学Ⅲ	3前	岐阜大学	1					○	1	1						教員移動
獣医薬理学実習	3前	岐阜大学	1						○	1	2							
獣医薬理学実習	3前	鳥取大学	1						○	1	1							
動物遺伝育種学	2後	岐阜大学	2					○	1			1				鳥大メディア		
動物行動学	2前	岐阜大学	2					○			1					鳥大メディア		
実験動物学	3前	鳥取大学	2					○	1	1						岐大メディア		
実験動物学実習	3前	岐阜大学	1						○	15	15	3				兼1		
実験動物学実習	3前	鳥取大学	1						○	1	1					オムニバス		
放射線生物学	3後	鳥取大学	1					○	1							鳥大メディア		
		小計(24科目)	—		37	0	0	—		15	15	3	1	0	兼1			
病 態 獣 医 学 科 目 群	病 態 獣 医 学 科 目 群	獣医病理学Ⅰ	3前	岐阜大学	3			○			1	1						
		獣医病理学Ⅰ	3前	鳥取大学	3			○			1	1						
		獣医病理学Ⅱ	3後	鳥取大学	2			○			1	1					岐大メディア	
		獣医病理学Ⅲ	3後	岐阜大学	2			○			1	1					鳥大メディア	
		獣医病理学実習Ⅰ	3前	岐阜大学	1					○	1	1						
		獣医病理学実習Ⅱ	3後	岐阜大学	1					○	1	1						兼1
		獣医病理学実習Ⅲ	3前	鳥取大学	1					○	1	1						一部鳥大メディア
		獣医病理学実習Ⅳ	3後	鳥取大学	1					○	1	1						一部岐大メディア
		獣医免疫学	2後	岐阜大学	2					○	14	13						鳥大メディア、オムニバス
		獣医微生物学Ⅰ	2前	岐阜大学	1					○	1	1						
		獣医微生物学Ⅱ	2前	鳥取大学	1					○	1	1						
		獣医微生物学Ⅲ	2前	岐阜大学	1					○	1	1						
		獣医微生物学Ⅳ	2前	鳥取大学	1					○	1	1						
		獣医微生物学Ⅴ	2後	鳥取大学	1					○	1	1						教員移動

	獣医微生物学Ⅳ	2後	鳥取大学	1			○			1	1					教員移動	
	獣医微生物学実習Ⅰ	2前	岐阜大学	1				○		2	2						
	獣医微生物学実習Ⅱ	2後	岐阜大学	1						2	2						
	獣医微生物学実習Ⅰ	2前	鳥取大学	1				○		1	1						
	獣医微生物学実習Ⅱ	2後	鳥取大学	1						1	1						
	家禽疫病学	4前	鳥取大学	2			○			2	1					教員移動	
	魚病学	4前	岐阜大学	2			○								兼1	鳥大メディア、兼中	
	動物感染症学Ⅰ	3前	岐阜大学	2			○			15	13				兼1	オムニバス	
	動物感染症学Ⅰ	3前	鳥取大学	2			○			2		1					
	動物感染症学Ⅱ	3後	岐阜大学	3			○			15	13					オムニバス	
	動物感染症学Ⅱ	3後	鳥取大学	3			○			2		1					
	獣医寄生虫病学Ⅰ	3前	岐阜大学	2			○			1	1						
	獣医寄生虫病学Ⅰ	3前	鳥取大学	2			○				1						
	獣医寄生虫病学Ⅱ	3後	岐阜大学	1			○			1	1					教員移動	
	獣医寄生虫病学Ⅲ	3後	鳥取大学	1			○				1					教員移動	
	獣医寄生虫病学実習	3後	岐阜大学	1				○		1	1						
	獣医寄生虫病学実習	3後	鳥取大学	1				○			1						
	小計(20科目)	—		31	0	0	—			14	17	4	0	0	兼2		
応用獣医学 科目群	動物衛生学Ⅰ	4後	岐阜大学	1			○			2							
	動物衛生学Ⅰ	4後	鳥取大学	1			○			1	1						
	動物衛生学Ⅱ	4後	鳥取大学	1			○			1	1						
	動物衛生学実習	4後	岐阜大学	1				○		2	2						
	動物衛生学実習	4後	鳥取大学	1				○		1	1		1				
	公衆衛生学総論	3前	岐阜大学	1			○			1	1						
	公衆衛生学総論	3前	鳥取大学	1			○			1	1						
	公衆衛生学実習	3後	岐阜大学	1				○		1	1					一級学生移動集中方式	
	公衆衛生学実習	3後	鳥取大学	1				○		1	1					一級学生移動集中方式	
	食品衛生学Ⅰ	3後	岐阜大学	1			○			1							
	食品衛生学Ⅰ	3後	鳥取大学	1			○			1	1						
	食品衛生学Ⅱ	3後	岐阜大学	1			○			1						鳥大メディア	
	食品衛生学実習	4前	岐阜大学	1				○		1							
	食品衛生学実習	4前	鳥取大学	1				○		1	1						
	環境衛生学Ⅰ	3前	岐阜大学	1			○			2	1						
	環境衛生学Ⅰ	3前	鳥取大学	1			○			1	1						
	環境衛生学Ⅱ	3前	岐阜大学	1			○			2	1					教員移動	
	獣医毒性学Ⅰ	3後	鳥取大学	1			○			1	1					鳥大メディア	
	獣医毒性学Ⅱ	3後	岐阜大学	1			○			1	1					岐阜メディア	
	獣医毒性学実習	3後	岐阜大学	1				○		1	1						
	獣医毒性学実習	3後	鳥取大学	1				○		1	1						
人獣共通感染症学Ⅰ	3後	岐阜大学	1			○			1	1							
人獣共通感染症学Ⅰ	3後	鳥取大学	1			○			1	1							
人獣共通感染症学Ⅱ	3後	鳥取大学	1			○			1	1					岐阜メディア		
獣疫学	4前	岐阜大学	2			○			3							鳥大メディア	
野生動物医学	4前	岐阜大学	2			○			1	1						教員移動	
小計(17科目)	—		19	0	0	—			11	9	0	1	0	0			
臨床獣医学 科目群	獣医内科学総論	4前	岐阜大学	1			○			1	1						
	獣医内科学総論	4前	鳥取大学	1			○			1	1						
	獣医臨床病理学	4前	岐阜大学	1			○			1	1						
	獣医臨床病理学	4前	鳥取大学	1			○			1							
	臓器別総論Ⅰ	4後	鳥取大学	1			○			3	3					岐阜メディア	
	臓器別総論Ⅱ	4後	鳥取大学	1			○			3	3					岐阜メディア	
	臓器別総論Ⅲ	4後	岐阜大学	1			○			3	3					鳥大メディア	
	臓器別総論Ⅳ	4後	岐阜大学	1			○			3	3						
	臓器別総論Ⅳ	4後	鳥取大学	1			○			3	2		1				
	臓器別総論Ⅴ	4後	岐阜大学	2			○			3	3					鳥大メディア	
	臓器別総論Ⅵ	4後	岐阜大学	1			○			3	3						
	臓器別総論Ⅵ	4後	鳥取大学	1			○			3	3						
	臓器別各論Ⅰ	5前	鳥取大学	1			○			3	3					岐阜メディア	
	臓器別各論Ⅱ	5前	岐阜大学	1			○			3	3					鳥大メディア	
	臓器別各論Ⅲ	5前	岐阜大学	1			○			3	3					鳥大メディア	
	臓器別各論Ⅳ	5前	岐阜大学	1			○			3	3						
	臓器別各論Ⅳ	5前	鳥取大学	1			○			3	1		1				
	臓器別各論Ⅴ	5前	鳥取大学	2			○			3	3					岐阜メディア	
	臓器別各論Ⅵ	5前	岐阜大学	1			○			3	3						
	臓器別各論Ⅵ	5前	鳥取大学	1			○			3	3						
	眼科学各論	5前	鳥取大学	1			○			1	1						岐阜メディア
	獣医臨床行動学	4前	岐阜大学	1			○										兼1
獣医臨床行動学	4前	鳥取大学	1			○										兼1	
獣医外科学総論	4前	岐阜大学	1			○			3	3							

	獣医外科学総論	4前	鳥取大学	1			○		1	2	1		兼1		
	獣医手術学総論	4前	岐阜大学	1			○		3	3			兼1		
	獣医手術学総論	4前	鳥取大学	1			○		1	2	1				
	獣医麻酔学	4前	岐阜大学	1			○		3	3					
	獣医麻酔学	4前	鳥取大学	1			○		1	2	1				
	獣医画像診断学総論	4後	岐阜大学	1			○		1	1				鳥大メディア	
	獣医画像診断学各論	5前	鳥取大学	1			○		1	1				岐大メディア	
	産業動物臨床学Ⅰ	4前	岐阜大学	1			○		1	2				鳥大メディア	
	産業動物臨床学Ⅱ	4前	鳥取大学	1			○		2	2				岐大メディア	
	馬臨床学	5前	岐阜大学	1			○						兼1	鳥大メディア、集中	
	臨床繁殖学Ⅰ	4前	鳥取大学	2			○		1			2		鳥大メディア	
	臨床繁殖学Ⅱ	4後	岐阜大学	2			○		1	1				岐大メディア	
	小動物内科学実習Ⅰ	4前	岐阜大学	1				○	3	3		1			
	小動物内科学実習Ⅰ	4前	鳥取大学	1				○	2	1					
	小動物内科学実習Ⅱ	4後	岐阜大学	1				○	3	3		1			
	小動物内科学実習Ⅱ	4後	鳥取大学	1				○	2	1					
	小動物外科学実習	4前	岐阜大学	1				○	3	3		1			
	小動物外科学実習	4前	鳥取大学	1				○	1	2	1			兼1	
	獣医画像診断学実習	4後	岐阜大学	1				○	1	1					
	獣医画像診断学実習	4後	鳥取大学	1				○	1	1					
	産業動物臨床実習	4前	岐阜大学	1				○	1	2				学生移動集中方式	
	臨床繁殖学実習Ⅰ	4前	岐阜大学	1				○	1	1					
	臨床繁殖学実習Ⅰ	4前	鳥取大学	1				○	1			2			
	臨床繁殖学実習Ⅱ	4後	岐阜大学	1				○	1	1					
	臨床繁殖学実習Ⅱ	4後	鳥取大学	1				○	1			2			
	総合参加型臨床実習Ⅰ	5前	岐阜大学	1				○	8	8		3			
	総合参加型臨床実習Ⅰ	5前	鳥取大学	1				○	4	3	1	2			
	総合参加型臨床実習Ⅱ	5前	岐阜大学	1				○	8	8		2			
	総合参加型臨床実習Ⅱ	5前	鳥取大学	1				○	4	3	1	2			
	総合参加型臨床実習Ⅲ	5後	岐阜大学	1				○	8	8		2			
	総合参加型臨床実習Ⅲ	5後	鳥取大学	1				○	4	3	1	2			
	総合参加型臨床実習Ⅳ	5後	岐阜大学	1				○	8	8		2			
	総合参加型臨床実習Ⅳ	5後	鳥取大学	1				○	4	3	1	2			
	小計 (37科目)	—		41	0	0	—		29	27	3	7	0	兼3	
専修教育科目群	卒業研究	5前・後	岐阜大学	7				○	15	13		3			
	卒業研究	5～6通	鳥取大学	7				○	14	14	3	2		兼2	
	卒業研究プレゼン演習	6後	岐阜大学	1				○	15	13		3		鳥大一部メディア	
	卒業研究プレゼン演習	6後	鳥取大学	1				○	14	14	3	2		岐大一部メディア	
	国際獣医事英語購読	6前	岐阜大学	2				○	3						
	国際獣医事英語購読	6前	鳥取大学	2				○	2	2					
	公衆・家畜衛生インターンシップ実習	5前	岐阜大学	1				○	1						集中
	公衆・家畜衛生インターンシップ実習	5前	鳥取大学	1				○	1						集中
	動物と法概論	6前	鳥取大学	1				○							兼7
	小計 (5科目)	—		12	0	0	—		29	27	3	5	0	兼9	
選択科目	先端基礎獣医学特別講義	5後	岐阜大学	1				○	3	3					
	先端基礎獣医学特別講義	5後	鳥取大学	1				○	4	4					
	新興・再興感染症制御学特別講義	5後	岐阜大学	1				○	3	3					
	新興・再興感染症制御学特別講義	5後	鳥取大学	1				○	3	3	1	2		兼1	
	産業動物疾病予防管理学特別講義	5後	岐阜大学	1				○	2	2				一部教員移動	
	産業動物疾病予防管理学特別講義	5後	鳥取大学	1				○	2	2		1		一部教員移動	
	高度小動物臨床学特別講義	5後	岐阜大学	1				○	3	3					
	高度小動物臨床学特別講義	5後	鳥取大学	1				○	3	2	1	1			
	リスクアセスメント特別講義	6前	岐阜大学	1				○	3						
	リスクアセスメント特別講義	6前	鳥取大学	1				○	3						
	集団獣医療学特別講義	6前	岐阜大学	1				○	2	2					一部教員移動
	集団獣医療学特別講義	6前	鳥取大学	1				○	2	2		1		一部教員移動	
	高度臨床腫瘍学特別講義	6前	岐阜大学	1				○	3	3					一部教員移動
	高度臨床腫瘍学特別講義	6前	鳥取大学	1				○	3	3					兼1
	病態モデル動物学特別講義	6前	岐阜大学	1				○	3	3					一部教員移動
	病態モデル動物学特別講義	6前	鳥取大学	1				○	3	3					一部教員移動
	公共獣医事特別講義	6前	岐阜大学	1				○	5						兼3
	産業動物疾病病理診断特別演習	5前	鳥取大学	1				○	2	2					学生移動集中方式
	生態保全管理学特別演習	6前	岐阜大学	1				○	2	2					学生移動集中方式
獣医学インターンシップ演習	5後	岐阜大学	1				○	1						集中	
獣医学インターンシップ演習	5後	鳥取大学	1				○	1						集中	
国際獣医学インターンシップ演習	5後	岐阜大学	1				○	1						集中	
国際獣医学インターンシップ演習	5後	鳥取大学	1				○	1						集中	
小計 (13科目)	—		0	13	0	—		29	27	2	5	0	兼5		
合計 (251科目)	—		182	204	0	—		29	27	3	5	0	兼222		

学位又は称号	学士（獣医学）	学位又は学科の分野	獣医学関係	
卒業要件及び履修方法		開設大学	開設単位数（必修）	授業期間等
【卒業要件及び履修方法】 1. 卒業要件単位は、合計191単位以上とする。 2. 一般教養科目は、43単位以上とし、内訳は以下のとおりとする。 ①大学教育導入科目群 6単位 ②人文・社会科学科目群 8単位以上 ③自然科学科目群 12単位以上 ④複合領域科目群 9単位以上 ⑤外国語科目群 8単位 3. 専門教育科目は、148単位以上とし、内訳は以下のとおりとする。 ①導入科目群 4単位 ②基礎獣医学科目群 37単位 ③病態獣医学科目群 31単位 ④応用獣医学科目群 19単位 ⑤臨床獣医学科目群 41単位 ⑥専修教育科目群（必修科目） 12単位 ⑦専修教育科目群（選択科目） 4単位以上		岐阜大学	243(131)	1学年の学期区分 2学期
		鳥取大学	230(128)	1学期の授業期間 15週
				1時限の授業時間 90分

授業科目の概要（共同学科等）				
(共同獣医学研究科共同獣医学専攻)				
科目区分	開設大学	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	岐阜大学	生物情報解析学特論	実験及び調査により得られたデータについて、基本的な取り扱い方、データの種類に応じた適切な統計手法の選択方法等を講述し、実例に基づいた実践的な統計解析演習を行う。また、遺伝子配列解析の手法、データベースに蓄積された配列情報に対するホモロジー解析とそれを利用した生体分子の構造予測・機能解析についても解説し、バイオインフォマティクスの基礎を学ぶ。	双方向授業
	鳥取大学	研究倫理・知的財産特論	生命科学分野の研究に携わる研究者として必要な倫理観、および知的財産の活用、知的財産マネジメントに必要な知識を講述する。 生命科学分野全般および獣医学関連分野を取り巻く倫理的問題とその対応、研究者として理解すべき動物実験および動物福祉のあり方、基礎研究から臨床研究へのトランスレーションリサーチにおける倫理指針、研究者、技術者として知っておかなければならない知的財産の基礎知識と知的財産マネジメント、著作権や特許等に関連する法令について講述する。	双方向授業
	岐阜大学	アカデミック・イングリッシュ	英語によるコミュニケーションに必要な基本的事項、プレゼンテーションを行う際の心構え、効果的なプレゼン手法、質疑・応答時に注意を払うべき事項等について講述し、実際に演習を行うことにより実践力を身につける。一部の講義及び演習は外国人講師により開講する。	双方向授業
	鳥取大学・岐阜大学	学際領域特別演習	大学院で学ぶ者として基本的な事項の習得を目指す授業である。また、他大学の教員や学生と交流し、研究内容を知ることにより、視野をひろげ、創造力を深める。 岐阜および鳥取両大学の配置学生が一堂に会して研究計画の発表を行う。主指導及び副指導教員だけでなく他分野の教員からの助言・指導も受ける。また、獣医学関連分野に関わる大学院生にとって基本的な事項に関する内容を講述する。 (8 山口 剛士) 両大学が交互に開講する。 (41 海野 年弘) 両大学が交互に開講する。	集中
基盤的教育科目	基盤特別講義	岐阜大学	神経科学基盤特別講義 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業
		岐阜大学	生体情報薬理学基盤特別講義 腸管および膀胱を構成している平滑筋細胞の膜には薬物や内因性生理活性物質が結合する受容体が発現している。平滑筋の最も重要な役割は収縮である。本講義では内因性生理活性物質が平滑筋を収縮させるまでの仕組みを解説する。	双方向授業

基盤的教育科目	基盤特別講義	岐阜大学	病態生理学基盤特別講義	特定の疾患や臓器に限定することなく、様々な事例を取り上げて考察する。データを重要視し、病態を説明する道筋を理解する。仮説を立てること、およびその仮説を立証するための方法を思考する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業
		岐阜大学	腫瘍学基盤特別講義	一般診療で遭遇することの多い腫瘍性疾患について講義する。続いて、病理形態学的診断の考え方を理解し、一般的な標本の作製法、標本の観察および診断法を講じる。また、腫瘍類似病変との鑑別についても解説する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業
		岐阜大学	病原微生物学基盤特別講義	病原微生物学の代表的な教科書を用い、病原微生物学の基礎を学ぶ。受講者はそれぞれの項目に関してレポートを提出する。教科書は選定中であるが、洋書を用いる予定である。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業
		岐阜大学	ウイルス性人獣共通感染症学基盤特別講義	人獣共通感染症の全体像と新興再興感染症との関連性について理解させた上で、ウイルス性の同感染症に関する知識（病原体、疫学、感染環、感染経路、社会的インパクト、制御・対策）について実例を交えながら講述する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業
		岐阜大学	食品環境衛生学基盤特別講義	食品、および環境衛生学に関わる歴史、事例、対策等を学ぶ。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業
		岐阜大学	環境と感染症基盤特別講義	集団飼育と野生動物における感染症の特徴について学び、年齢、生活環境と感染症の関与について理解する。また、感染症制御のために開発されてきた疫学解析手法と応用に関して理解する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業
		岐阜大学	野生動物学基盤特別講義	生物多様性を理解する上で基盤となる生態学、野生動物の生態・形態・生理機能の基礎的知識を理解する。さらに、野生動物の捕獲や疾病、野生動物の保全や管理、法制度について学び、獣医学の知識や技術と結びつけて理解・考察する。	双方向授業
		岐阜大学	難治性内科疾患基盤特別講義	難治性内科疾患の病態解明に向けた研究を立案する上で必要な基礎を身につける。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業
		岐阜大学	小動物外科学基盤特別講義	骨および軟骨代謝の分子生物学的動態を解説する。ついで各運動器疾患の診断法および治療法について、まず従来法を解説した後、最近の動向について解説する。	双方向授業
岐阜大学	獣医麻醉外科学基盤特別講義	本特別講義では、獣医麻醉外科学の基盤的な内容の講義を実施する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業		

基盤的教育科目	基盤特別講義	岐阜大学	産業動物学基盤特別講義	産業動物に関連する畜産業、畜産製品、飼養、飼料、繁殖、疾患に至るまで、それぞれの具体的事例を挙げ、それらに係わる知識及び技術について講義する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業
		鳥取大学	獣医解剖学基盤特別講義	脊椎動物の生体を形成する細胞、組織、器官の各レベルでの発生、分化、形態形成の過程とその機構を理解する。また、各細胞、組織、器官間の機能的関連についても講義する。 はじめに、生体を構成する様々な細胞（一般細胞、配偶子）について講義する。その後、組織（上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織）、およびそれらが形成する器官の特徴について説明する。最後に、細胞や組織間で行われている相互作用（インタラクション）の特徴について講義をし、細胞、組織、器官の発生、分化、形成を包括的に理解する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
		鳥取大学	基礎獣医機能学基盤特別講義	脊椎動物の器官、組織、細胞レベルにおける形態、生理機能及び薬物反応メカニズムについて、基盤となる概念を学習する。本講義では、これらの内容を理解するための基礎的実験技術についても解説する。 脊椎動物における神経系、内分泌系及び循環器系の特徴とその生理機能並びに薬理作用機序を理解することにより、正常動物の生理機能から薬物反応まで幅広い知識を習得させる。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
		鳥取大学	細胞分化制御学基盤特別講義	動物の成長や生殖等を制御するホルモンの合成・分泌器官「下垂体」の細胞構成とその成り立ちについて学ぶ。特に、多様な幹・前駆細胞からホルモン産生細胞を始め下垂体の全細胞が構築されていく仕組み（細胞分化）を理解する。 下垂体の発生過程における細胞構成の劇的な変化を概説する。また、下垂体における幹・前駆細胞の多様性やどの細胞がどのような調節を受けて下垂体に存在する全ての細胞へと分化していくか、各回毎に別の細胞に注目して解説する。さらに、下垂体疾患に対する再生医療の可能性について概説する。	双方向授業
		鳥取大学	獣医感染病理学基盤特別講義	動物の感染症を中心に病理学的所見・類似疾患と鑑別ポイントを概説し、感染病理学の基盤的知識を習得させることを目的とする。 パワーポイントスライドを活用した講義形式により、代表的な動物の感染症について説明する。特に、循環器（特に心臓・血管）、呼吸器（特に肺）、消化器（特に腸と肝臓）、免疫器官（特に脾臓とリンパ節）、泌尿器（特に腎臓）、神経系（特に脳脊髄）に病変を形成する疾患とその特徴について解説する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業
		鳥取大学	実験動物疾病学基盤特別講義	各種実験動物の感染性疾患・非感染性疾患についての基本的知識をはじめ、特に近年国内外で問題となっている疾病について講義を行う。また、それら疾病の制御のための方法や飼育管理・施設管理について多角的に解説する。 各種実験動物の感染性疾患や非感染性疾患について基礎知識を学ぶ。また、特に近年国内外で問題となっている疾病やその発生状況等について把握する。各種疾病の診断方法や病理について理解する。疾病防御と関連づけて、実験動物の飼育管理法の実際について学ぶ。さらに、実験動物の微生物コントロールの意義や方法について学び、特に人獣共通感染症のリスクと対策について理解を深める。	双方向授業

基盤的教育科目	基盤特別講義	鳥取大学	実験動物学基盤特別講義	<p>本講義では、動物実験を行う際に必要な基本的な技術や知識について学ぶ。実験動物に関する愛護や倫理などの重要な項目に関しては、上記に加え最新の知見についても紹介する。これらを体系的に学習することにより、動物実験を行う上で必要な事柄について理解を深めることを目的とする。</p> <p>実験動物の愛護や3Rに代表される倫理を学ぶことで、動物実験を取り巻く社会状況を理解する。また各種実験動物の特性を理解し、適正な動物の取り扱いや動物実験とそれに関わる知識を習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	双方向授業
		鳥取大学	細菌学基盤特別講義	<p>動物と密接に関わる細菌について、分類・型別・ビルレンス因子・遺伝学・抗菌薬耐性等に関する最新の知見を概説し、細菌感染症の発生との関連を論考する。細菌に関する近年のトピックスを講義する。目まぐるしく再編成が続く細菌分類学の変遷及び現状、宿主動物における病原性に関与する因子として注目される付着機構及び宿主動物に影響を及ぼす蛋白質分子の分泌機構、正常菌叢と宿主動物との関係、病態解明の基盤となる解析手法、抗菌薬耐性、分子疫学的解析手法について解説する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	双方向授業
		鳥取大学	鳥類感染症学基盤特別講義	<p>鳥類は、病原微生物の宿主および媒介動物として重要な役割を果たしている。本講義では鳥類のウイルス感染症を例に、病態発現の分子機構と分子疫学に関する基礎および応用、その解析手法について講述する。鳥類のウイルス感染症を概説し、いくつかの具体例を通し宿主寄生体関係の分子基盤、病原性発現に関与する寄生体および宿主因子の解明に至る解析手法を紹介すると共に得られた成績の実例を示し、そこから得られる情報や解釈について考える。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	双方向授業
		鳥取大学	動物感染症予防学基盤特別講義	<p>産業動物の健康状態には、多種多様な病原微生物による感染症が影響をおよぼす。産業動物の生産性を維持・促進するために、飼育現場では消毒薬やワクチン等の動物用医薬品が利用されている。本講義では、飼養衛生管理における、動物用医薬品等を用いた感染症予防策ならびに感染源対策について学ぶ。</p> <p>獣医薬事関連法規および動物用医薬品の有効性と安全性の確保に関する制度について教示した後、消毒薬による疾病予防、産業動物の生体防御機構および主要な感染性疾患の感染源や感染経路など動物感染症予防に関する基本的要因について教授する。</p>	双方向授業
		鳥取大学	ウイルスおよびプリオンによる人獣共通感染症基盤特別講義	<p>人獣共通感染症は人と動物の両者に感染する病原体によるものである。近年問題となっている新興・再興感染症には多くの人獣共通感染症が含まれることもあり、公衆衛生上重要視される。本講義では、人獣共通感染症のなかでも、特にウイルスおよびプリオンによって引き起こされるものについて講義する。</p> <p>講義では各回において1つの人獣共通感染症を取り上げ、病原体の性状・生態、感染・伝播経路、症状、予防や治療法についての解説する。</p>	双方向授業
		鳥取大学	動物感染症学基盤特別講義	<p>動物の感染症の中で、昨今特に社会的に大きな影響を与えている疾病に焦点を当て、疾病自体の概説に加え、これまでの発生の経緯や今後の対応における獣医師の役割について考える。</p> <p>各回の講義では、取り上げる感染症の基本的情報を概説すると共に、本内容に関するDVDや実際の報道（新聞、インターネット記事など）を参照して理解を深める。加えて、報道内容を一般のおよび専門的双方の立場から検討し、各感染症のコントロールのために果たすべき獣医師の役割について理解する。</p>	双方向授業

基盤的教育科目	基盤特別講義	鳥取大学	獣医寄生虫病学基盤特別講義	寄生虫の大きな分類、形態、発育環、およびその伝播方法と宿主体内における生存戦略について学ぶ。寄生虫学分野では、原生動物から節足動物に至る多種多様な分類群の生物が含まれるため、寄生虫の生活環と宿主との関係について、一般論を理解する。寄生虫の基礎的な分類、形態、発育環の多様性について学び、それらの伝播方法と宿主体内での寄生生態について理解する。さらに、それらの寄生虫による病害発生の機序やその対策についての考え方を身につける。	双方向授業
		鳥取大学	獣医診断治療学基盤特別講義	動物における特定の内科的疾患における診断法と治療法に関する基礎および臨床学的事項について学ぶ。特に、特定難病を理解し、内科診断および治療薬の有効性を理解する。動物の内科的疾患の病態生理・生化学ならびにその診断法と治療法に関する基礎および臨床学的事項について講述する。特に、生活習慣病、老年病、呼吸循環器病、腎臓病の最新情報および特定の難病として肥満、高脂血症、発作性神経障害および神経内分泌疾患について講義する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
		鳥取大学	家畜生殖工学基盤特別講義	産業動物、伴侶動物及び実験動物の生殖工学に関する基本的知識を習得する。また、生殖工学に関する最近の知見について、国内外の文献等を使用して講義を行う。産業動物、伴侶動物及び実験動物の生殖工学の理解を深めることを目標とする。牛、馬、豚、犬、猫及び実験小動物について、精子、卵子及び胚（受精卵）を用いた生殖工学技術を解説する。精子については性別別及び顕微授精、卵子については卵胞発育、卵子成熟及びクローニング、胚（受精卵）については低温保存及び胚移植を解説する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
		鳥取大学	難病診断治療学基盤特別講義	腫瘍をはじめとする難病に関する基礎および臨床研究の成果が報告されている最新の国内外の研究論文を引用しつつ、パワーポイント等を用いてプレゼンし、各種疾患に対する基礎的および最新の診断および治療法について講義する。本講義の最初の2回は、腫瘍をはじめとする難病に関する診断に関して、一般的な各種画像診断技術の理論、適応症例、読影および画像解析方法について解説する。残りの6回は、主に腫瘍に関する治療に関して、いわゆる3大治療以外の各種治療法についてその理論、治療方法および適応症例について解説する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
	基盤特別演習	岐阜大学	神経科学基盤特別演習	文献情報取得のためのデータベース活用法、研究手技を理解するためのバイオインフォマティクス活用法を習得して自ら活用し、必要な論文を決めて共に読解する。土台となる知識に関して足りない事柄を掘り下げ、得られた知識・知見を口頭発表する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	病態生理学基盤特別演習	教科書レベルの事実を基盤として、病態を説明するための思考力を養成する演習を行う。提示された実験データや検査結果をどのように活用して結論を導くべきか考える。仮説を立て、その仮説を立証するためにどのような実験を組むべきか考え、他の受講者にプレゼンテーションし討論する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	

基盤的教育科目	基盤特別演習	岐阜大学	腫瘍学基盤特別演習	講義で概説した内容について、実際の患者データ等を用いて演習することで、知識を深める。続いて、腫瘍の病理形態学的診断の進め方、標本の作製法および診断書の作成方法を学び、各臓器ごとの基礎的な観察ポイントや診断のプロセスを実際の病理標本観察をもとに解説する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	病原微生物学基盤特別演習	病原微生物学の代表的な教科書、主要な原著論文を題材として、議論レポートを作成する。最終的には、自身の研究計画立案に役立てることを最終目標とする。教科書は選定中であるが、洋書を用いる予定である。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	ウイルス性人獣共通感染症学基盤特別演習	ウイルス性人獣共通感染症の発生・流行の実際例をモデルに、起因病原体、疫学、発生機序、流行形態、社会的影響等について分析し、分析結果から同感染症の制御・防疫のための施策について考察する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	食品環境衛生学基盤特別演習	食品、および環境衛生学に関わる歴史、事例をもとに、演習形式で対策の実践を学ぶ。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	環境と感染症基盤特別演習	飼育動物と野生動物の間で双方向で伝播する感染症を取り上げ、課題に対して多面的に自ら調べ結論を導く演習を行う、最新の知見を元に疾病の対策を考え、他の受講者に対してプレゼンテーションを行う。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	難治性内科疾患基盤特別演習	伴侶動物の難治性内科疾患について、分子レベルでの病態発生機序、先端的な診断法および治療法に関する基礎的事項について演習する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	獣医麻酔外科学基盤特別演習	獣医麻酔外科学に関する文献を講読し、獣医麻酔外科学について理解するとともに、研究計画を立案する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	産業動物学基盤特別演習	産業動物について、現状、畜産業、畜産製品、飼養、飼料、繁殖、疾患について、問題を抽出、列挙する。問題点を分析し、問題解決のための提案させる。最後にその提案についてディスカッションし、評価する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		鳥取大学	獣医解剖学基盤特別演習	基礎獣医学の一分野である解剖学（組織学、発生学、細胞学を含む）の内容について理解を深めるために生体の細胞、組織、器官の発生、再生、修復および組織内（間）のインタラクションに関する科学論文や総説を精読し、それらについてのプレゼンテーションを行う。 はじめに、解剖学に関するテーマを設定し、最新の知見を検索する。続いて、その研究の背景や、解析手法、得られた成果、結果から導くことができる事象についてプレゼンテーション資料を作成し、紹介した後質疑応答を行う。さらに、その内容についてのレポートを作成し、解剖学に関する知識を深める。 履修学生に対し担当教員を決定する。	

基盤的教育科目	基盤特別演習	鳥取大学	基礎獣医機能学基盤特別演習	<p>基礎生理学及び基礎薬理学的内容について理解し、議論を深めるため、細胞生理やシグナル伝達機構および薬物反応に関する学術論文や総説を教材として用い、それらを精読した後にプレゼンテーションを行う。論文の内容を理解し、プレゼンテーションを行うことにより、最新の科学的知見を理解する能力とそれらを説明する能力を修得する。本演習では、生理学・薬理学領域の最新の学術論文あるいは総説を精読し、その内容を紹介するためプレゼンテーション資料を作成し、個別に発表と質疑応答を行う。更に、その内容についてのレポートを作成する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	獣医感染病理学基盤特別演習	<p>動物の感染症についての獣医病理学的解析を中心とした過去の研究報告ならびに最新の研究報告を講読して、受講者が取り組む研究計画へ活かすことを目指す演習である。動物感染症・人獣共通感染症についての学術論文の講読と内容に関する討議を演習形式で行い、受講者自身が取り組む研究への応用を立案すること、また他者の研究内容に触れて、広い視野を持って課題を解決する能力を養う。</p> <p>履修学生に対して担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	実験動物学基盤特別演習	<p>本演習では、動物実験を行う上で基本的かつ重要な項目である実験動物の管理と運営、動物愛護および法令に関する指針についてディスカッション方式で学ぶ。特に本演習では、近年その重要度が増している実験動物の獣医学的ケアの重要性について理解することを目的とする。実験動物の適性な管理や動物愛護および倫理について学ぶと共に、動物実験を取り巻く法令、規範および原則について学ぶ。特に動物実験を行う際に求められる獣医師の役割について、獣医学的ケアの観点から考察する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	細菌学基盤特別演習	<p>細菌学に関する最新のトピックス及び情報を題材とした英文資料を講読し、その内容を発表し批判的検討を加えることにより、英語による論理的思考及び学術的論考の基礎を涵養する。細菌の分類、型別、病原因子、抗菌薬耐性、バクテリオファージに関する各英文資料（総説、原著論文、単行本等）の内容を、それぞれ3回の授業において学生がスライド等を用いて発表し、教員が内容の理解のため助言指導する。また、資料の内容に対する批判的検討を行う。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	鳥類感染症学基盤特別演習	<p>鳥類を宿主とする寄生体の病態発現や分子疫学に関する基礎および応用的研究の状況をおよび分子生物学解析法について講述し、受講学生は模擬データを用いた解析等を通し実践的な力を身につける。鳥類を宿主とする寄生体の侵襲による病態発現や分子疫学に関する基礎および応用的研究技術について、近年の事例をもとに実際の解析手法を紹介する。受講学生は得られた成績を考察し、実践的な解析手法を学ぶ。授業では、できるだけ多くの事例を通し病原体の取扱いや分子生物学解析法を実践的に教授する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	

基盤的教育科目	基盤特別演習	鳥取大学	獣医診断治療学基盤特別演習	<p>小動物臨床分野における最新の診断法と治療技術の演習を実施し、特定難病や遺伝性疾患の高度な診断と治療が可能となる能力を養成する。</p> <p>生活習慣病、老年病、循環器病、神経病における診断法と治療法に関する演習を行う。特に、特定難病や遺伝性疾患である心筋症、肥満の血液検査法、生化学的検査法、遺伝子診断法、超音波診断法、ラジオイムノアッセイの演習を行う。また、難治性てんかんに対する内科診断と治療法に関する演習を実施する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	家畜生殖工学基盤特別演習	<p>産業動物、伴侶動物及び実験動物の生殖工学の基礎及び応用的な演習である。生殖工学を利用した獣医学的観点から、生殖工学による学術的、産業的なメリット／デメリット及び改善や開発が必要な技術について討議、議論（演習）を行う。</p> <p>産業動物、伴侶動物及び実験動物の生殖工学手法について議論により理解を深めることを目標とする。</p> <p>家畜生殖工学概論、家畜生殖工学の技術解説、家畜生殖工学の応用事例、家畜及び実験動物における生殖工学技術の最新の知見と獣医領域の展望について、精子、卵子及び胚（受精卵）を対象として演習を実施する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	難病診断治療学基盤特別演習	<p>腫瘍をはじめとする難病に関して、最新の国内外の研究論文を用いて基礎実験および臨床データについてパワーポイント等を用いて討論し、各種疾患ごとに適切な診断および治療法を選択できるように理解を深める。</p> <p>本演習の最初の4回は、腫瘍をはじめとする難病に関する診断に関して、一般的な各種画像診断技術の基礎および臨床研究について議論する。残りの11回は、主に腫瘍に関する治療に関して、いわゆる3大治療以外の各種治療法について基礎および臨床研究について議論する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
	基盤特別実験	岐阜大学	神経科学基盤特別実験	<p>生体組織の機能評価に関して、まず解剖学的土台となる結果を得るための基本的実験手技を習得する。それを踏まえ、生体組織の機能評価の土台となっている基本的な電気生理学的実験手技一般について習得する。</p> <p>履修学生に対して担当教員を決定する。</p>	
		岐阜大学	病態生理学基盤特別実験	<p>課題に沿って仮説を設定し、動物を使った実験により仮説を検証する。実験を行うための基本事項を修得する。実験のデザイン、実験条件の設定のための予備実験の実施、本実験の実施、データのまとめと解析、プレゼンテーションまで実施する。</p> <p>履修学生に対して担当教員を決定する。</p>	
		岐阜大学	腫瘍学基盤特別実験	<p>動物病院にて、実際の症例を見ることで知識を深める。さらに病理標本の作製を体験した後に、腫瘍の形態学的変化と分子レベルの変化を、標本の観察を通して学ぶ。また、病理標本の遺伝子解析等の分子レベルでの解析のより広い応用とその限界も学ぶ。</p> <p>履修学生に対して担当教員を決定する。</p>	
岐阜大学		病原微生物学基盤特別実験	<p>担当教員の研究室で取り扱っている病原微生物をモデルとして、微生物の病原性解析の基盤的技術を習得する。最終的には、受講者の研究計画立案、研究遂行に役立てることを最終目標とする。</p> <p>履修学生に対して担当教員を決定する。</p>		

基盤的教育科目	基盤特別実験	岐阜大学	ウイルス性人獣共通感染症学基盤特別実験	代表的なウイルス性人獣共通感染症である狂犬病を例に、実際の発症個体を想定し、マウスモデルと低病原性の固定毒ウイルスを使って、ウイルスの分離、同定、解析に係わる実習を行う。最後に、データについて口頭発表し、受講者相互で質疑応答を行う。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	食品環境衛生学基盤特別実験	食品、および環境衛生学に関わる獣医公衆衛生学の実験、解析に必要な手技を学ぶ。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	環境と感染症基盤特別実験	飼育動物と野生動物の間で双方向で伝播する感染症に関する検査結果に基づき、適正なサンプリング方法、検査方法を習得する。そして、その検査結果に基づいて感染症制御計画に関する提案書を作製し、提案書の問題を理解することを目的とする。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	難治性内科疾患基盤特別実験	伴侶動物の難治性内科疾患について、分子レベルでの病態発生機序、先端的な診断法および治療法に関する基礎的事項について実験を行う。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	獣医麻酔外科学基盤特別実験	基盤特別演習において立案した研究計画をもとに、実験を組み立て、実験を実施することによってその手技を習得する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		岐阜大学	産業動物学基盤特別実験	基本的で限られた問題を与え、その中から一つの問題を選択させ、その問題を解決するための実験を計画、実行させ、最後にその一連の工程を評価、検証させる。 履修学生に対して担当教員を決定する。	
		鳥取大学	獣医解剖学基盤特別実験	生体組織の形態学的解析に必要な標本作製のための技術や原理を理解し、習得する。また、目的に合った検索技術を選択し実践できる能力を養成する。おもに光学顕微鏡用（一般染色、特殊染色、免疫組織化学、in situ ハイブリダイゼーション）の試料の作成、検出方法の原理や技術を学ぶ。また、電子顕微鏡用試料（走査型電顕）の作成もおこなう。その後、得られた組織標本の観察、計測、解析を行い、組織標本作成の原理や一連の流れを理解し、技術を習得する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
		鳥取大学	基礎獣医機能学基盤特別実験	生体より摘出した組織や細胞を用いて、生理機能や薬物応答を調べることにより、新たな生理活性や薬理活性を探索する基礎的能力を養成する。これらの手法を理解・修得することにより、個体レベルでの生理学的及び薬理的機能についての理解を醸成する。本実験では、主に脊椎動物より分離した組織や単離細胞を用いて、それらの生理機能や薬物反応についての基本技術を理解し、習得する。得られた結果について、データ解析、プレゼンテーション及びレポートを作成し、基礎生理・薬理学知識と論文作成のための能力向上を図る。 履修学生に対し担当教員を決定する。	

基盤的教育科目	基盤特別実験	鳥取大学	獣医感染病理学基盤特別実験	<p>動物の感染症の病原体を動物または培養細胞へ接種する、材料の保存・採取の方法、標本作成、染色の方法について学習・実践して、基本的手技を習得させることを目的とする。</p> <p>感染病原体を動物（または培養細胞）に接種する方法、材料採取の方法、免疫組織化学的あるいは細胞染色の方法について実際に作業を行い、それらの基本手技を習得する。さらに病原体が有する病原性を調べるために必要な方法について、受講者自身の考えをまとめさせ、それを実現するための方法と問題点について討議することを通じて、感染症の制圧のための基盤的技術と思考力を養う。</p> <p>履修学生に対して担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	実験動物学基盤特別実験	<p>動物実験を適切に行う為には、実験動物の取り扱い（ハンドリング）から各種実験動物の解剖学的な構造など、幅広い技術が要求される。これらのことから、実験動物に関する一連の手技について実習形式で学習することにより、適切な動物実験技術を体得する。特にマウスを中心としたげっ歯類に関する実験動物の保定や麻酔等、基本的な実験手技を習得する。また実験動物の一般的な微生物学的検査に加え、特に発生工学技術を実施することにより、動物実験に関する手技全体について理解する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	細菌学基盤特別実験	<p>細菌学実験に関する基礎的技能及び手技を身につけるため実験を行うとともに、結果を分かりやすく公表するための図表の作成を行い結果について考察する。</p> <p>湿熱滅菌・乾熱滅菌・ガス滅菌等の原理及び適用、無菌操作の意義、各種培地の調製法、感染性疾患の仮想的集団事例を設定し臨床検体及び環境検体からの病原細菌の分離、分離菌株の血清型別・DNA型別に基づく疫学解析法、薬剤感受性試験及び抗菌薬耐性の菌株間伝達並びにその遺伝学的解析法等に関する実験を実施し、実験結果について討論する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	鳥類感染症学基盤特別実験	<p>鳥類における感染症学分野で学位論文作成に必要な基礎的実験技術やその背景となる理論を実技を通して理解し習得する。</p> <p>鳥類感染症学分野で必要とされる、病原体の基本的取扱いや感染実験、関連法規、病原体遺伝子の検出、その解析などの実験技術やその背景となる理論について、実技を通して教授する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	獣医診断治療学基盤特別実験	<p>動物の内科的疾患の診断と治療に関する基礎的および応用的な実験を行い、特定疾患や難病に対する病態および診断法と治療法を理解させるとともに、新たな診断治療技術の開発や評価能力を学ぶ。</p> <p>動物の内科的疾患の診断と治療に関する基礎的および応用的なアプローチによる実験を実施する。特に、生活習慣病、老年病、高脂血症、循環器病、腎臓病、神経病の最新情報、特定難病や遺伝性疾患である肺高血圧症、心筋症、高コレステロール血症、ストレス関連因子について実験する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	

基盤的教育科目	基盤特別実験		鳥取大学	家畜生殖工学基盤特別実験	<p>家畜における生殖工学手技の習得を行う。生殖細胞の採取・培養、生殖細胞の凍結保存技術、胚の作製、卵子・胚の操作など、基礎から比較的高度な手技や方法についての技術の習得を実験で行う。生殖工学の基礎的及び一般的技術の習得を目標とする。</p> <p>生殖細胞（精子、卵子、胚）の取扱い、精子の検査、卵子・胚の培養及び検査、精子・卵子・胚の低温保存（冷蔵、凍結）及びマイクロマニピュレータを使用する顕微操作を中心に実験を実施する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
			鳥取大学	難病診断治療学基盤特別実験	<p>腫瘍をはじめとする難病に関する診断方法の基礎と特殊診断方法についてその技術を習得する。また、新規治療法を開発する上で、必要な基礎的な実験室の使用法、試薬の調整方法および実験動物の取り扱い方法を理解した上で、in vitroおよびin vivo実験における実験手技を習得する。</p> <p>本実験の最初の8回は、腫瘍をはじめとする難病に関する診断に関して実験動物を用いて各種画像の撮影方法、読影および解析方法を習得する。残りの11回は、in vitroおよびin vivo実験において、治療方法および解析装置を用いて治療効果の判定方法を習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
スペシャリスト養成科目	家畜衛生・公衆衛生科目群	スペシャリスト養成コア科目	岐阜大学	家畜衛生・公衆衛生特別講義 I	<p>（概要）家畜伝染病や大規模食中毒等の発生予防と家畜伝染病発生時の防疫や大規模食中毒等発生時に、リーダーとして適切に対処するために必要となる家畜衛生および公衆衛生分野での技術と知識を地方自治体の協力を得て実施する実践的演習を通して習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全7回） （44 猪島 康雄／4回） 以下の項目について講義を行う。(1) 動物衛生行政の実際、(2) 感染症制御の実際、(3) 検疫による防疫の実際、(4) 公衆衛生行政と実際</p> <p>（38 大場 恵典／3回） 以下の項目について講義を行う。(1) 農場GAP、食肉・食品加工場GMP、HACCP、食品販売所の衛生管理の実際、(2) 疫学の実際、(3) 海外の事情</p>	双方向授業 オムニバス方式

スペシャリスト養成科目	家畜衛生・公衆衛生科目群	スペシャリスト養成コア科目	鳥取大学	家畜衛生・公衆衛生特別講義Ⅱ	<p>(概要) 家畜伝染病や大規模食中毒等の発生予防と家畜伝染病発生時の防疫や大規模食中毒等が発生時に、リーダーとして適切に対処するために必要となる家畜衛生および公衆衛生分野の技術と知識の基礎を講述する。家畜衛生については、寄生虫やウイルスを原因とする疾病、野生動物と疾病との関わり、臨床と家畜衛生について実例を挙げ解説する。公衆衛生分野については、主に国内や地方自治体による公衆衛生行政について講述する。</p> <p>本講義では、主に以下の4項目に関する事項を教授する。</p> <p>(1) 動物用医薬品、(2) 問題となる感染症制御の基礎、(3) 感染症伝播における野生動物の役割と制御、(4) 国内の動物衛生や公衆衛生行政の概要</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (8 山口 剛士/2回) 以下の項目について講義を行う。(1) 国内の動物衛生、(2) 野生動物と家畜衛生 (21 笛吹 達史/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) 動物用医薬品と家畜衛生 (18 金 京純/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) 寄生虫・衛生害虫と家畜衛生 (38 大場 恵典/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) 臨床と家畜衛生 (6 伊藤 壽啓/2回) 以下の項目について講義を行う。(1) 国内の公衆衛生行政概要、(2) 地方自治体における公衆衛生行政 (8 山口 剛士・6 伊藤 壽啓/1回) (共同) 以下の項目について講義を行う。(1) 総括</p>	双方向授業 オムニバス方式・共同(一部)
			岐阜大学	家畜衛生・公衆衛生特別演習	<p>(概要) 家畜伝染病や大規模食中毒等の発生予防と家畜伝染病発生時の防疫や大規模食中毒等発生時に、リーダーとして適切に対処するために必要となる家畜衛生および公衆衛生分野での技術と知識を地方自治体の協力を得て実施する実践的演習を通して習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (44 猪島 康雄/7回) 以下の項目について演習を行う。(1) 病原体の適切な取扱い、同定と診断、(2) 病原体の輸送、(3) 食中毒菌の取扱いと同定、(4) 食中毒ウイルスの取扱いと同定、(5) 食品加工場でのHACCPの実際、(6) 食品関連施設への立ち入りの実際、(7) 大規模食中毒発生時の机上演習</p> <p>(38 大場 恵典/7回) 以下の項目について演習を行う。(1) 個人の感染症防護、防護具取扱いの基礎、(2) 畜産現場での飼養衛生管理基準、(3) 家畜伝染病発生時における対応の机上演習、(4) 家畜伝染病発生時における対応の実動演習、(5) 野生動物や野生動物由来サンプルの取扱い、(6) 農場HACCP、(7) 農場立ち入り検査の実際</p> <p>(38 大場 恵典・44 猪島 康雄/1回) (共同) 以下の項目について講義を行う。(1) 総括</p>	オムニバス方式・共同(一部)
			鳥取大学	家畜衛生・公衆衛生特別演習	<p>家畜伝染病や大規模食中毒等の発生予防と家畜伝染病発生時の防疫や大規模食中毒等発生時に、リーダーとして適切に対処するために必要となる家畜衛生および公衆衛生分野での技術と知識を地方自治体の協力を得て実施する実践的演習を通して習得する。</p> <p>本演習は、主に以下の5項目について教授する。</p> <p>(1) 病原体の適切な取扱い、(2) 農場での飼養衛生管理基準の実際、(3) 家畜伝染病発生時における対応、(4) 食中毒原因菌やウイルスの適切な取扱い、(5) 大規模食中毒発生時における適切な対応</p> <p>上記の内容を5名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同

スペシヤリスト養成科目	家畜衛生・公衆衛生科目群	スペシヤリスト特別講義	岐阜大学	ウイルスの病原性発現機構の分子細胞生物学特別講義	ウイルスの病原性発現機構を理解し、考察するために必要な基礎として、ウイルスの細胞内増殖の詳細、細胞間伝播、細胞指向性、感染動物体内での増殖および集団内伝播と防疫について学ぶ。	双方向授業
			岐阜大学	獣医感染症学特別講義	獣医感染症学分野の代表的な教科書の内容を基に、代表的な感染症の概要、病態発現機序を学習する。受講者は、それぞれの項目に関してレポートを提出する。教科書は選定中であるが、洋書を用いる。	双方向授業
			岐阜大学	公衆衛生学特別講義	ヒトの健康に影響を及ぼす各種の要因について歴史、事例、対策、国内、世界の動向を学ぶ。	双方向授業
			岐阜大学	分子寄生虫学特別講義	少数の寄生虫を例として取り上げ、その寄生虫が人や家畜に病原性を示すメカニズムについて理解させる。受講者は、教員が自ら興味を持った、あるいは教員が指定する論文等の資料を事前に熟読して授業に参加することを前提とし、その資料に示された事実をもとに理解を深める。	双方向授業
			岐阜大学	産業動物疾病診断学特別講義	牛を中心とした疾患について、症状から、問診、臨床検査をもとに候補となる疾患を列挙し、総合的・客観的に確定診断に至る知識及び手技について講義する。	双方向授業
			鳥取大学	獣医繁殖学特別講義	家畜の繁殖機能、繁殖障害の診断と治療を多角的に講義する。繁殖機能の講義では、生殖器の構造と機能、内分泌、雌の繁殖生理、雄の繁殖生理、交配・受精・着床、妊娠と分娩に関する最新の知見を解説する。繁殖障害の講義では、最新の診断法と治療法を解説する。 産業動物及び伴侶動物の繁殖疾患の診断および病態解明の理論や技術を理解することを目標とする。 牛、馬、豚、犬及び猫について、臨床繁殖の理論と技術（繁殖生理・繁殖機能、繁殖障害・不妊症治療・繁殖機能の人為的調整）を講義する。	双方向授業
			鳥取大学	高病原性鳥インフルエンザ特別講義	感染症発生時における基本的対処と感染症制御の基本的な考え方を紹介すると共に、高病原性鳥インフルエンザの国内発生を実例として、原因ウイルスの性状、迅速診断技術や封じ込めの考え方を概説する。講義の中では家禽だけでなく野鳥や動物園動物における本病発生時の封じ込めについても実例をもとに解説する。感染症発生時における基本的対処と感染症制御の基本的な考え方について、高病原性鳥インフルエンザの国内発生例をもとに、原因ウイルスの性状、迅速診断技術や封じ込めの考え方を概説する。	双方向授業
			鳥取大学	動物感染症予防医薬品学特別講義	産業動物の生産性に影響する多様な感染性疾病に対し、日本では、種々のワクチン製剤が認可され、予防対策に活用されている。本講義では、畜産における感染症予防の重要性を理解するため、これらワクチン製剤について学ぶ。 日本における動物用医薬品の製造販売承認、再審査や再評価などの許認可制度につづき、牛、豚、馬、鶏、魚類等の産業動物用に認可された、ウイルス感染症や細菌感染症のワクチン製剤について、それらの開発にいたった経緯、製法、使用方法から副作用報告の状況まで教示する。	双方向授業

スペシャリスト養成科目	家畜衛生・公衆衛生科目群	スペシャリスト特別講義	鳥取大学	感染症の制圧特別講義	人類はこれまで様々な感染症と対峙し、一部についてはその制圧やコントロールに成功している。感染症対策の歴史における法制度の整備や診断体制の確立の変遷を理解し、今後感染症の撲滅に与る能力を有する人材の育成を目指す。 本講義では各感染症との人類の戦いの歴史に触れ、今後撲滅が期待される疾病について、その意義や戦略を考える。前半では現在までにコントロールされてきた感染症について概説する。後半では、現在撲滅に向けて対応が試みられている疾病を取り上げ、講義に加えて受講者に能動的に対策を考えさせる機会を設ける。	双方向授業
			鳥取大学	獣医寄生虫病学特別講義	獣医臨床、および公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、診断、治療、予防および宿主の防御機構について理解する。また、寄生虫による病害発生の機序、流行の現状と疫学、実践されている様々な対策法について学ぶ。 家畜および人獣共通寄生虫の重要種について、それらの病原性、診断、治療および対策について学び、人や家畜の病原体としての重要性だけでなく、生物の多様性、様々な生存・伝播戦略を宿主の行動や食物連鎖とともに理解する。	双方向授業
			鳥取大学	牛病学特別講義	牛の個体診療において重要でありながら省かれることの多い「臨床検査」に関して、細胞診、画像診断法（X線検査、超音波検査、CT検査、MRI検査、内視鏡検査）、バイオプシー検査を中心に解説し、また二次診療病院における手術法についても紹介する。 各講義時間ごとにスライドを用いて講義を行う。講義には実際の症例情報を用い、質疑応答形式の座学で講義を進める。各講義ごとの配布資料を事前に配り、予習・復習を行ってもらう。	双方向授業
		スペシャリスト特別演習	岐阜大学	獣医感染症学特別演習	（概要）細菌学およびウイルス学における知見が、感染症制圧にどのように活用されているかを学び、感染症のスペシャリストとしての基盤を得る。 （オムニバス方式／全15回） （53 大屋 賢司／7回） 以下の項目について演習を行う。(1) 細菌感染症に分子診断・道程に関する演習、(2) 細菌感染と自然免疫に関する演習、(3) 細菌感染と獲得免疫に関する演習、(4) 細菌毒素に関する演習、(5) 細菌の分泌装置に関する演習、(6) 薬剤耐性菌に関する演習、(7) 病原細菌に関する研究立案 （33 福士 秀人／8回） 以下の項目について演習を行う。(1) ウイルスの構造に関する演習、(2) ウイルスの細胞への侵入機構に関する演習、(3) ウイルスの細胞内増殖に関する演習、(4) ウイルスの細胞内増殖と自然免疫に関する演習、(5) ウイルスの成熟に関する演習、(6) 組換えウイルス構築と応用に関する演習、(7) ウイルスゲノム解析に関する演習、(8) ウイルス学に関する研究立案	学生移動 オムニバス方式

スペシヤリスト養成科目	家畜衛生・公衆衛生科目群	スペシヤリスト特別演習	岐阜大学	公衆衛生学特別演習	<p>(概要) 獣医公衆衛生学について演習形式で学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (44 猪島 康雄/7回) 以下の項目について演習を行う。(1) 食品由来感染症学特別演習Ⅰ、(2) 食品由来感染症学特別演習Ⅱ、(3) 食品由来感染症学特別演習Ⅲ、(4) 食品由来感染症学特別演習Ⅳ、(5) 環境由来感染症学特別演習Ⅰ、(6) 環境由来感染症学特別演習Ⅱ、(7) 環境由来感染症学特別演習Ⅲ</p> <p>(54 高島 康弘/7回) 以下の項目について演習を行う。(1) 原虫由来感染症学特別演習Ⅰ、(2) 原虫由来感染症学特別演習Ⅱ、(3) 原虫由来感染症学特別演習Ⅲ、(4) 原虫由来感染症学特別演習Ⅳ、(5) 蠕虫由来感染症学特別演習Ⅰ、(6) 蠕虫由来感染症学特別演習Ⅱ、(7) 蠕虫由来感染症学特別演習Ⅲ</p> <p>(44 猪島 康雄・54 高島 康弘/1回) (共同) 以下の項目について演習を行う。(1) 総合討論</p>	学生移動 オムニバス方式・共同 (一部)
			岐阜大学	産業動物疾病診断学特別演習	<p>牛を中心とした疾患について、症状から、問診、臨床検査をもとに候補となる疾患を列举し、総合的・客観的に確定診断に至る知識及び手技について確認する。それぞれの症状別に具体的な症例を挙げ、グループごとに検討し、その結果をプレゼンテーションする。グループごとのプレゼンテーションをもとに全体で討議する。また、研究テーマとなりそうな事象を挙げ、検討、討議させる。</p>	学生移動
			鳥取大学	獣医繁殖学特別演習	<p>(概要) 産業動物及び伴侶動物の繁殖機能及び繁殖障害に関する最新の知見について、国内外の文献等を使用して学術的、産業的なメリット/デメリット及び改善や開発が必要な技術について討議、議論(演習)を行う。</p> <p>産業動物及び伴侶動物の繁殖機能と繁殖疾患の知識をアップデートして議論により理解を深めることを目標とする。</p> <p>牛、馬、豚、犬及び猫の繁殖機能(発情周期、生殖周期、発情、妊娠)及び繁殖障害に関する最新の知見について、論文講読により演習を実施する。</p> <p>(オムニバス/全15回) (10 菱沼 貢/11回) 家畜の繁殖機能及び繁殖障害総論、馬、豚、犬及び猫の繁殖機能及び繁殖障害に関する演習を実施する。 (1) 家畜の繁殖機能及び繁殖障害総論、(2) 馬の繁殖機能に関する最近の知見、(3) 馬の繁殖障害に関する最近の知見、(4) 豚の繁殖機能に関する最近の知見、(5) 豚の繁殖障害に関する最近の知見、(6) 犬の繁殖機能に関する最近の知見(発情周期)、(7) 犬の繁殖機能に関する最近の知見(生殖周期)、(8) 犬の繁殖障害に関する最近の知見(発情)、(9) 犬の繁殖障害に関する最近の知見(妊娠)、(10) 猫の繁殖機能に関する最近の知見、(11) 猫の繁殖障害に関する最近の知見</p> <p>(30 西村 亮/4回) 牛の繁殖機能及び繁殖障害に関する演習を実施する。 (1) 牛の繁殖機能に関する最近の知見(発情周期)、(2) 牛の繁殖機能に関する最近の知見(生殖周期)、(3) 牛の繁殖障害に関する最近の知見(発情)、(4) 牛の繁殖障害に関する最近の知見(妊娠)</p>	学生移動 オムニバス方式

スペシヤリスト養成科目	家畜衛生・公衆衛生科目群	スペシヤリスト特別演習	鳥取大学	高病原性鳥インフルエンザ特別演習	鳥インフルエンザウイルス感染症の診断、分離・同定および分離ウイルスの輸送、BSL3施設での操作など、実社会で実際に行われている作業について、セミナー参加、見学およびシミュレーションを通し体験的に習得する。 高病原性鳥インフルエンザの診断、分離・同定および分離ウイルスの輸送について、BSL3施設での操作など、実社会で実際に行われている作業について、セミナー参加、見学およびシミュレーション作業を行う。受講学生は、これらの理論と実際を体験的に学ぶ。 上記の内容を2名の教員が分担せず共同で行う。	学生移動 共同
			鳥取大学	獣医寄生虫病学特別演習	獣医臨床、および公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、診断、治療、予防および宿主の防御機構について理解する。また、寄生虫による病害発生の機序、流行の現状と疫学、実践されている様々な対策法について学ぶ。 獣医臨床および公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、診断、治療、予防、および宿主の防御機構について学ぶ。各種寄生虫の環境および宿主動物における発育、宿主間の伝播様式について学び、人や家畜の病原体としての重要性だけでなく、生物の多様性、様々な生存・伝播戦略を宿主の行動や食物連鎖とともに理解する。	学生移動
			鳥取大学	牛病学特別演習	牛臨床現場における実践演習として、鳥取大学動物医療センターで診断した症例の臨床データを基に診断・治療のプロトコルを立てる。また、実際の症例がある場合には、診断過程や治療過程を実践してもらう。 (1) 各講義時間ごとにスライドを用いて、質疑応答形式の座学で講義を進める。各講義ごとの配布資料を事前に配り、予習・復習を行ってもらう。(2) 実際の症例が来院した場合には、画像検査を含め、実際に診療に参加する。(3) 論文作成技術の向上をめざし、産業動物臨床学に関連した論文をピックアップし、レビュー形式でその内容をまとめる。	学生移動
One Health科目群	スペシヤリスト養成コア科目	岐阜大学	One Health特別講義 I	(概要) One Healthの概念とその歴史、国連機関や国内外の獣医師会と医師会の取組について概説する。また、One Healthで最も関心が高いと思われる人獣共通感染症とOne Healthとの関係について論考する。 One Healthの基本的な概念とその歴史的経緯、国内外の関連機関における取組を概説する。続いて、One Healthにおいて最も関心が高いと思われる人獣共通感染症について概説し、One Healthとの関係を論考する。 (オムニバス方式/全8回) (53 大屋 賢司/3回) 以下の項目について講義を行う。(1) One Healthの概念・歴史、(2) 世界獣医師会の取組、(3) まとめ (52 伊藤 直人/2回) 以下の項目について講義を行う。(1) One Healthと人獣共通感染症1-感染症の伝播に関わる要因、(2) One Healthと人獣共通感染症2-対策と課題 (5 森田 剛仁/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) 日本における医学と獣医学の取組 (4 村瀬 敏之/2回) 以下の項目について講義を行う。(1) WHO/FAO/OIEの取組、特にサーベイランス体制の強化、(2) WHO/FAO/OIEの取組、特に診断方法の改善と質の向上	双方向授業 オムニバス方式	

<p>スペシャリスト養成科目</p>	<p>One Health科目群</p>	<p>スペシャリスト養成コア科目</p>	<p>鳥取大学</p>	<p>One Health特別講義 II</p>	<p>(概要) One Healthに関連する多様な課題のうち食糧供給、化学物質、環境衛生、野生動物、薬剤耐性菌、寄生虫性疾患について概説し、これらの課題に対応する方策のひとつとしてのリスクアナリシスの概念を概説する。</p> <p>One Healthに関連する諸課題として、食糧供給、化学物質、環境衛生、野生動物、薬剤耐性菌、寄生虫性疾患を取り上げ概説する。また、これらの解決に向けた方策のひとつとしてのリスクアナリシスの概念について論考する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (5 森田 剛仁／2回) 以下の項目について講義を行う。(1) One Healthと化学物質、(2) One Healthと環境衛生</p> <p>(4 村瀬 敏之／3回) 以下の項目について講義を行う。(1) One Healthと薬剤耐性菌、(2) One Healthと寄生虫性疾患、(3) リスクアナリシス</p> <p>(53 大屋 賢司／1回) 以下の項目について講義を行う。(1) One Healthと野生動物</p> <p>(52 伊藤 直人／1回) 以下の項目について講義を行う。(1) One Healthと食糧供給</p> <p>(4 村瀬 敏之・5 森田 剛仁／1回) (共同) 以下の項目について講義を行う。(1) 授業のまとめ</p>	<p>双方向授業 オムニバス方式・共同 (一部)</p>
			<p>岐阜大学</p>	<p>One Health特別演習</p>	<p>(概要) One Healthに関する最新のトピックス及び情報を題材とした英文を講読し、その内容を発表し批判的検討を加えることにより、論理的思考及び学術的論考の基礎を涵養する。また、病原体を取り扱う施設・設備を実際に使用し、実践的能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (53 大屋 賢司／3回) 以下の項目について演習を行う。(1) 食料供給とOne Healthに関する文献講読1、(2) 食料供給とOne Healthに関する文献講読2、(3) 食料供給とOne Healthに関する文献講読3</p> <p>(47 浅野 玄／3回) 以下の項目について演習を行う。(1) 環境衛生とOne Healthに関する文献講読1、(2) 環境衛生とOne Healthに関する文献講読2、(3) 環境衛生とOne Healthに関する文献講読3</p> <p>(34 杉山 誠／3回) 以下の項目について演習を行う。(1) 人獣共通感染症に関する文献講読1、(2) 人獣共通感染症に関する文献講読2、(3) 人獣共通感染症に関する文献講読3</p> <p>(39 浅井鉄夫／3回) 以下の項目について演習を行う。(1) 薬剤耐性菌に関する文献講読1、(2) 薬剤耐性菌に関する文献講読2、(3) 薬剤耐性菌に関する文献講読3</p> <p>(52 伊藤直人／3回) 以下の項目について演習を行う。(1) 病原体を取り扱う施設・設備の使用に関する演習1、(2) 病原体を取り扱う施設・設備の使用に関する演習2、(3) 病原体を取り扱う施設・設備の使用に関する演習3</p>	<p>オムニバス方式</p>

スペシヤリスト養成科目	One Health科目群	スペシヤリスト養成コア科目	鳥取大学	One Health特別演習	<p>(概要) One Healthに関する最新のトピックス及び情報を題材とした英文を講読し、その内容を発表し批判的検討を加えることにより、論理的思考及び学術的論考の基礎を涵養する。また、病原体を取り扱う施設・設備を実際に使用し、実践的能力を身につける。</p> <p>One Healthに関する諸課題のうち、食糧供給、環境衛生、人獣共通感染症、薬剤耐性菌に関する各英文資料(総説、原著論文等)の内容を、それぞれ3回の授業において発表し、教員が内容の理解のため助言指導する。また、資料の内容に対する批判的検討を行う。また、病原体を取り扱う施設・設備を実際に使用し、仕様や原理を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4 村瀬 敏之/9回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) 食料供給とOne Healthに関する課題の把握と検討する文献資料の選択、(2) 食料供給とOne Healthに関する文献資料の内容の発表、(3) (2)の文献資料に関する批判的検討、(4) 薬剤耐性菌に関する課題の把握と検討する文献資料の選択、(5) 薬剤耐性菌に関する文献資料の内容の発表、(6) (5)の薬剤耐性菌に関する文献資料に関する批判的検討、(7) 安全キャビネットの使用に関する演習、(8) P3施設の使用に関する演習、(9) 病原体の輸送に関する演習</p> <p>(5 森田 剛仁/6回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) 環境衛生とOne Healthに関する課題の把握と検討する文献資料の選択、(2) 環境衛生とOne Healthに関する文献資料の内容の発表、(3) (2)の文献資料に関する批判的検討、(4) 人獣共通感染症に関する課題の把握と検討する文献資料の選択、(5) 人獣共通感染症に関する文献資料の内容の発表、(6) 人獣共通感染症に関する文献資料に関する批判的検討</p>	オムニバス方式		
					岐阜大学	病原性ウイルス生態学特別講義	病原性ウイルスの自然界での生態について、その常在性、媒介動物、病原性獲得、流行要因等の観点から、講述する。	双方向授業
					岐阜大学	ウイルス性人獣共通病原体と宿主(相互作用)特別講義	ウイルス-受容体間の相互作用を含む、様々なウイルス-宿主因子間相互作用を理解した上で、その意義について考える。さらに、これらの相互作用の観点から、ウイルスの馴化について考察する。また、ウイルス-宿主間相互作用の理解が、ウイルス感染症の治療薬の開発につながることを実例を挙げながら解説する。	双方向授業
					岐阜大学	野生動物の個体数管理特別講義	中・大型哺乳類の生物学的特性や生息状況に関わる歴史を踏まえ、各種の被害の現状を解説する。次いで、関連する国内外の法律や制度、対応策を説明する。具体的な対応策については、その効果や課題の詳細を論じ、新たな事態に対する適応能力の育成を目指す。	双方向授業
					岐阜大学	野生動物管理学特別講義	野生動物管理の理念やそのシステムと法制度を学んだ後、個体数過剰により被害が問題になっている動物種、逆に個体数が減少して保全が必要な動物種について、その具体的な手法について学ぶ。	双方向授業
岐阜大学	薬剤耐性スペシヤリスト特別講義	スワンレポートにはじまる薬剤耐性菌の議論を総合的に理解する。薬剤耐性対策に関する行動計画を理解し、国際社会と国内の薬剤耐性対策の方向性を把握するとともに、科学的知見に基づくリスク分析について理解する。	双方向授業					

スペシャリスト養成科目	One Health 科目群	スペシャリスト特別講義	鳥取大学	獣医感染実験病理学特別講義	<p>(概要) 獣医病理学的知識を応用して、各種動物感染症ならびに人獣共通感染症の病理学的重要事項について学習し、感染症の制圧に貢献するスペシャリストの養成を目的とした講義である。</p> <p>パワーポイントスライド、学術論文、インターネットを活用した講義形式により、代表的な動物の感染症・人獣共通感染症の特徴について説明する。また類似疾患の病理学的な鑑別ポイントについて解説するとともに、グローバルな視点で最新の感染症の流行状況やその対策についてリアルタイムに学習・考察する。</p> <p>(オムニバス形式／全8回) (17 寸田 祐嗣／4回) 以下の項目について講義を行う。(1) インTRODク ション(本講義の目的;講義の進め方を説明)、(2) 狂犬病の特徴とその問題点、最新の研究知見、(3) インフルエンザの特徴とその問題点、最新の研究知見、(4) 結核の特徴とその問題点、最新の研究知見</p> <p>(5 森田 剛仁／4回) 以下の項目について講義を行う。(1) プリオン病の特徴とその問題点、最新の研究知見、(2) 新興感染症の最新の例(出血熱、ジカ熱など)、(3) 感染性因子による腫瘍性疾患の最新の知見、(4) まとめと総合討論</p>	双方向授業 オムニバス方式
			鳥取大学	ウイルス工学特別講義	<p>ウイルス感染症における感染機構ならびに病原性発揮機構の最新の知見を概説するとともに、ウイルスを用いた組換えウイルス作出技術に関する知識およびその倫理的な運用方法について論考する。</p> <p>感染症対策には原因病原体の特徴を詳しく理解する必要がある。本講義では微生物学からさらに発展した感染理論および病原性発揮機構を解析するための工学的的手法を解説する。ウイルス実験に必須な培養細胞技術と無菌操作およびウイルス培養、遺伝子増幅、リバースジェネティクス法を用いた組換え体作出およびその検証について具体的事例を交えながら講義する。</p>	双方向授業
			鳥取大学	新興・再興細菌感染症学特別講義	<p>細菌を原因とする、新しく出現した、あるいは再び発症数が増加している感染症(新興・再興感染症)の特徴、主な疾患の原因菌の特徴、注目される抗菌薬耐性機構に関する最新の知見を概説するとともに、早期診断及び蔓延防止対策について論考する。</p> <p>新興・再興感染症は、新しく出現した、あるいは再び発症数が増加している感染症である。多くは人獣共通のウイルス感染症であるが、細菌が原因のものも存在する。本講義では、おもな新興・再興細菌感染症ならびに注目される薬剤耐性菌及びその耐性機構を概説する。加えてこれらの疾患の診断法、サーベイランス、発生や病原体の検出に係る情報共有のネットワークの構築に関する最近の状況を解説する。</p>	双方向授業
			鳥取大学	インフルエンザ感染制御学(リスクアナリシス)特別講義	<p>代表的な人獣共通感染症であるインフルエンザを題材として、その公衆衛生上の重要性を生態学および環境学的側面から理解し、そこから感染予防対策上の問題点を抽出して、その解決策を導き出す能力を修得する。</p> <p>典型的なウイルス性人獣共通感染症であるインフルエンザを代表例として、比較ウイルス学的観点から、その原因ウイルスの病原性獲得変異機構、宿主域制限因子の分子基盤、パンデミックウイルスの出現予測や流行リスク分析、バイオテロ問題まで、最新情報をもとに解説する。</p>	双方向授業

スペシヤリスト養成科目	One Health 科目群	鳥取大学	ウイルス性人獣共通感染症の発生、診断と対策特別講義	近年、鳥インフルエンザ、重症急性呼吸器症候群（SARS）、牛海綿状脳症（BSE）等、人にとっては新たな病原体による人獣共通感染症が多数出現し、大きな問題となっている。本講義では、なかでもウイルス感染による人獣共通感染症について、過去の発生を具体例として取りあげて学習する。講義では各回において1つのウイルス性人獣共通感染症を取りあげる。学術論文等から得た具体的な情報を基に、過去の発生事例における状況、疫学、診断、対策等について学習する。	双方向授業
		岐阜大学	病原性ウイルス生態学特別演習	（概要）人や動物に病気を起こすウイルスの実態から、同ウイルスの自然界での生態の観点から解析し、感染環について検討する。さらに、感染環を絶つための方策及び同感染症の効果的診断法・制御策・予防策について考察する。 （オムニバス方式／全15回） （34 杉山 誠／8回） 以下の項目について演習を行う。(1) 病原性ウイルスと感染巣の実際の理解、(2) インフルエンザウイルスと鳥類物、(3) フラビウイルス感染症と鳥類、(4) Bウイルスとサル、(5) SARSウイルスとコウモリ、(6) MERSウイルスとヒトコブラクダ、(7) SFTSウイルスと動物（愛玩・野生）、(8) 総合的なまとめ （52 伊藤 直人／7回） 以下の項目について演習を行う。(1) 狂犬病・リッサウイルスと野生動物、(2) エボラウイルスと野生動物、(3) マールブルグウイルスと野生動物、(4) ヘニパウイルスとオオコウモリ、(5) クリミアコンゴ出血熱と家畜、(6) ハンタウイルス感染症とネズミ、(7) アレナウイルスとネズミ	学生移動 オムニバス方式
		岐阜大学	個体数管理特別演習	（概要）我が国の中・大型哺乳類においては、生息環境の好転に起因する増加傾向が続いている。この演習では、中・大型哺乳類の個体数管理に関する諸政策の把握を目的に、現行の「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（以下、鳥獣保護管理法）」と「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針（以下、基本指針）」に関わる輪読と討論、プレゼンテーションを行う。 （オムニバス形式／全15回） （37 鈴木 正嗣／11回） 以下の項目について演習を行う。(1) 「鳥獣保護管理法」の輪読、(2) 「基本指針」の輪読、(3) 「指定管理鳥獣捕獲等事業者制度」をテーマとする討論、(4) 3回目の討論結果に関わるプレゼンテーション、(5) 「認定鳥獣捕獲等事業者」をテーマとする討論、(6) 5回目の討論結果に関わるプレゼンテーション、(7) 「ニホンジカ」をテーマとする討論、(8) 7回目の討論結果に関わるプレゼンテーション、(9) 「カワウ」をテーマとする討論、(10) 9回目の討論結果に関わるプレゼンテーション、(11) 総合討論 （47 浅野 玄／4回） 以下の項目について演習を行う。(1) 「特定鳥獣保護管理計画」をテーマとする討論、(2) 1回目の討論結果に関わるプレゼンテーション、(3) 「特定希少鳥獣管理計画」をテーマとする討論、(4) 3回目の討論結果に関わるプレゼンテーション	学生移動 オムニバス方式
		岐阜大学	薬剤耐性スペシヤリスト特別演習	抗菌剤の慎重使用に関する国際的な議論について、これまでに学習した知識や経験に基づいて考察するとともに、将来的な薬剤耐性対策の方向性について学習する。他の受講者に対してプレゼンテーションを行う。	学生移動

スペシャリスト養成科目	One Health 科目群	スペシャリスト特別演習	鳥取大学	<p>獣医感染実験病理学特別演習</p> <p>獣医病理学的知識を応用して、感染症の診断・制圧に貢献するためのスペシャリストを目指すための演習である。組織標本と正立顕微鏡、バーチャルスライドシステムを活用して組織病変を実際に観察して、病理組織学的所見を記録し、考慮すべき診断名を挙げる演習を行う。さらに、確定診断のために必要な特殊検査や鑑別すべき疾患を含めて、説明する演習を行う。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。</p>	学生移動 共同
			鳥取大学	<p>感染症対策に関するOne Health特別演習</p> <p>(概要) 学生が本籍を置く大学でない相手大学の教員研究室に滞在することにより、One Healthに基づく感染症対策の取組を実践する上での課題を整理する際に必要とされる客観的なデータ解釈、論理的思考、批判的検討に係る能力を涵養する。 以下の事項を演習により実施する。 (1) 感染性微生物の取扱いに関する演習を行う。(2) 獣医学・医学関連機関等が公表する感染症の統計データの解析を行う。(3) 科学雑誌に公表されている感染症対策に関する論文を題材に、論理構成やデータ提示方法の改善点を検討する。(4) One Healthに基づく感染症対策における課題の整理を行う。(5) 上記課題解決に向けた対策や研究の立案を行う。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (4 村瀬 敏之/7回) 以下の項目について演習を行う。(1) 感染性微生物の取扱い：バイオセーフティ、(2) 感染性微生物の取扱い：輸送、(3) 細菌感染症対策関連論文の講読、(4) 細菌感染症対策関連論文からみた課題抽出、(5) 感染症対策における課題の整理、(6) 感染症対策における課題解決に向けた対策の立案、(7) (6)の発表および討論</p> <p>(16 尾崎 弘一/8回) 以下の事項について演習を行う。(1) 感染性微生物の取扱い：バイオセキュリティ、(2) 感染症関連統計データの収集、(3) 感染症関連統計データの解析、(4) 感染症関連統計データからみた課題抽出、(5) ウイルス感染症対策関連論文の講読、(6) ウイルス感染症対策関連論文からみた課題抽出、(7) 感染症対策における課題解決に向けた研究計画の立案、(8) (7)の発表および討論</p>	学生移動 オムニバス方式

<p>スペシャリスト養成科目</p>	<p>One Health 科目群</p>	<p>スペシャリスト特別演習</p>	<p>鳥取大学 鳥インフルエンザの確定診断特別演習</p>	<p>(概要) 昨今、野生の水鳥で鳥インフルエンザの事例が報告されており、各自治体の獣医師が発見当初の対応をする場合がある。本演習ではこのような事態に対処するために必要な手技を身に付ける。 感染実験を行うにあたって必要な知識を講義で学んだ後、BSL2施設内で、鶏を用いたウイルス感染実験を、防護服の着用などBSL3を模した要領で行う。本実験を通して、ウイルスの迅速診断法や分離法等について学ぶ。受講者は結果を「模擬的な確定診断」として、レポートに纏めて提出する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 伊藤 壽啓/2回) 感染実験を行うにあたって必要な知識を講義する。 (1) 感染実験を行うにあたってのガイダンス、(2) 感染実験室の使用法</p> <p>(28 曾田 公輔/6回) BSL2施設内で、鶏を用いたウイルス感染実験を、防護服の着用などBSL3を模した要領で行う。(1) 鳥類へのウイルス接種、(2) スワブの採材法、(3) 迅速診断キットの使用法、(4) 鳥類の解剖、(5) 臓器乳剤の作成法、(6) 検体の輸送</p> <p>(19 伊藤 啓史/7回) ウイルスの迅速診断法や分離法等について習得させる。(1) 発育鶏卵を用いたウイルス分離、(2) 赤血球凝集試験、(3) 赤血球凝集阻止試験、(4) NI試験(抗原抗体反応)、(5) NI試験(発色反応および判定)、(6) 遺伝子検査法(ウイルスRNA抽出およびRT-PCR法)、(7) 遺伝子検査法(HA開裂部位のアミノ酸配列の決定)</p>	<p>学生移動 オムニバス方式</p>
<p>難病治療・創薬科目群</p>	<p>スペシャリスト養成コア科目</p>	<p>岐阜大学</p>	<p>難病治療・創薬特別講義 I</p>	<p>(概要) 獣医学を基盤とする基礎研究の成果を動物のみならずヒト臨床へ応用させ、その結果生じたヒトおよび獣医臨床領域における問題点をさらに基礎研究へとフィードバックさせる能力を備えたトランスレーショナルリサーチャー養成に特化した内容を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (42 志水 泰武/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) ストレスによる下痢や便秘の解消を目指す (41 海野 年弘/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) ムスカリン受容体の細胞内情報伝達機構 (39 浅井 鉄男/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) 薬剤耐性菌の疫学 (33 福士 秀人/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) 動物ウイルス感染症の発症メカニズム解明と診断法開発 (36 山添 和明/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) 骨髄間質細胞を用いた難治性骨折の治療 (35 鬼頭 克也/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) 止血異常の病態解明 (45 前田 貞俊/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) 動物のアレルギー疾患 (43 森 崇/1回) 以下の項目について講義を行う。(1) がんとmicroRNA</p>	<p>双方向授業 オムニバス方式</p>

スペシヤリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシヤリスト養成コア科目	鳥取大学	難病治療・創薬特別講義Ⅱ	<p>(概要) 獣医学を基盤とする基礎研究の成果を動物のみならずヒト臨床へ応用させ、その結果生じたヒトおよび獣医臨床領域における問題点をさらに基礎研究へとフィードバックさせる能力を備えたトランスレショナルリサーチャー養成に特化した内容を学習する。</p> <p>細胞から生体までを取り扱う基礎獣医学的観点を始めとして、先端獣医臨床へと応用できる講義を受講することにより、トランスレショナルリサーチの理解とその能力を醸成させる。特に、生体の様々な調節機構を理解し、それらを基盤として臨床診断および治療へと結びつけるための最新の知識を修得させる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (2 保坂 善真／1回) 機械的ストレスが生体機能に及ぼす影響について講述する。</p> <p>(14 北村 直樹／1回) 生体内の水分調節機構について、生理機能と病態について講述する。</p> <p>(3 太田 利男／1回) 神経および感覚受容器の障害によって発現する感覚異常について、その発現機序と治療標的について講述する。</p> <p>(11 竹内 崇／1回) ミルク由来の多機能タンパク質の作用機序ならびに創薬への応用性について講述する。</p> <p>(10 菱沼 貢／1回) 哺乳動物において発生する種々の生殖器疾患とその薬物治療について講述する。</p> <p>(9 岡本 芳晴／1回) 温熱化学療法をはじめとする最新のがん治療法について講述する。</p> <p>(1 日笠 喜朗／1回) 心筋症等の循環器疾患の新たな診断方法ならびにその治療方法について講述する。</p> <p>(12 今川 智敬／1回) CTおよびMRIを応用した最新の画像診断技術による腫瘍の診断法について講述する。</p>	双方向授業 オムニバス方式
-------------	------------	---------------	------	--------------	--	------------------

スペシヤリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシヤリスト養成コア科目	岐阜大学	難病治療・創薬特別演習	<p>(概要) 分子・細胞レベルから生体まるごとを扱う中で身につけた生命現象を総合的に把握する力を基盤に、獣医療の高度化を推進し、高度診療拠点機能を通じて難治性疾患治療に関わるリーダーとして分野を超えて問題を探究、解決し、異分野を橋渡しする能力を備えたトランスレーショナルリサーチャー養成のための演習を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (48 齋藤 正一郎/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 嗅覚系の神経発生 (55 椎名 貴彦/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 消化管運動を制御する神経系の役割 (49 松山 勇人/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 過敏性腸症候群の病態機構 (53 大屋 賢司/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) クラミジアの感染機構 (50 酒井 洋樹/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) イヌ血管肉腫の病理発生の解明と治療 (52 伊藤 直人/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 狂犬病ウイルスの病原性発現機構 (47 浅野 玄/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 外来種と避妊ワクチン (57 西飯直仁/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 糖尿病の病態解明と治療法の確立 (54 高島康弘/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 原虫症の予防・診断・治療法の確立 (51 神志那 弘明/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 犬の変性性脊髄症の病態解明と治療法の開発 (46 渡邊 一弘/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 犬・猫の歯周疾患における歯周組織再生治療 (38 大場 恵典/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 産業動物における遺伝性疾患の診断・治療・予防 (40 村瀬哲磨/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) 不妊症精子の発症要因解析と新規治療法 (56 高須 正規/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) トランスレーショナルリサーチのための実験動物 (58 柴田 早苗/1回) 以下の項目について演習を行う。(1) アミノ酸輸液を用いた周術期低体温予防法</p>	オムニバス方式
-------------	------------	---------------	------	-------------	--	---------

スペシャリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシャリスト養成コア科目	<p>鳥取大学 難病治療・創薬特別演習</p>	<p>(概要) 分子・細胞レベルから個体レベルを扱う中で身につけた生命現象を総合的に把握する力を基盤に、獣医療の高度化を推進し、高度診療拠点機能を通じて難治性疾患治療に関わるリーダーとして分野を超えて問題を探究、解決し、異分野を橋渡しする能力を備えたトランスレーショナルリサーチャー養成のための演習を実施する。</p> <p>この演習では基礎獣医学的視点から細胞や個体を俯瞰し、最先端臨床研究へと結びつけることが出来る幅広い範囲を網羅し、基礎から臨床研究への架け橋となる内容を理解する。特に薬物治療・創薬に必要な薬物の特性と病態への影響を中心に、様々な病態への応用性について理解を深めさせる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 割田 克彦/1回) がん細胞に特異的な代謝機能の変化を応用した新たながん制御方法について理解させる。 (27 樋口 雅司/1回) 下垂体幹細胞の起源ならびにその分化機序について理解させる。 (14 北村 直樹/1回) 体性感覚ニューロンと感覚器官の機能評価について理解させる。 (15 高橋 賢次/1回) 種々の細胞増殖因子の作用と病態への関与について理解させる。 (22 原田 和記/1回) 動物用抗菌剤の活性評価を目的とした薬理パラメータの意義について理解させる。 (29 辻野 久美子(兼)/1回) アトピー性皮膚炎自然発症モデルを用いた病態解析方法について理解させる。 (23 大崎 智弘/1回) がんに対する光線力学的診断と治療法について理解させる。 (24 伊藤 典彦/1回) 新規色素性角膜炎の治療法について理解させる。 (25 東 和生/1回) キチン質を利用した生体材料の開発とその評価法を理解させる。 (12 今川 智敬/1回) MRI撮像の原理と特殊撮像方法について理解させる。 (30 西村 亮(兼)/1回) 黄体の生理機能に基づいた繁殖障害制御法を理解させる。 (11 竹内 崇/2回) (1) 慢性腎不全モデル動物を用いた病態評価法について理解させる。(2) 総合討論 (24 柄 武志/1回) 病態発現における薬剤耐性遺伝子と病原性について理解させる。 (31 村端 悠介(兼)/1回) 吸入麻酔における麻薬性鎮痛薬の有効性を理解させる。</p>	オムニバス方式
スペシャリスト特別講義		岐阜大学	神経系の形態学・分子病態学特別講義	<p>(概要) 中枢神経系の形態ならびに伝導路を理解し、これを土台として中枢神経系における病態メカニズムについて理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (48 齋藤 正一郎/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 中枢神経系の正常形態、(2) 神経投射路の基本、(3) 感覚性伝導路、(4) 運動性伝導路</p> <p>(51 神志那 弘明/全4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 神経変性疾患の病態、(2) 脊髄損傷の分子病態、(3) 中枢神経と末梢神経の再生能力、(4) 神経変性疾患の治療</p>	双方向授業 オムニバス方式

スペシヤリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシヤリスト特別講義	岐阜大学	難治性疾患病態生理特別講義	<p>(概要) 臨床的に問題となっている難治性疾患を対象として、その病態生理を講義する。特に、消化管の異常を取り上げ、不明な機序を考察することを重要視する。痛覚過敏と消化管運動の異常の関連について、最新の研究成果を交えて解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (42 志水 泰武/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 消化管運動制御の基本、(2) 下痢と便秘の病態生理、(3) 過敏性腸症候群の病態、(4) 総合討論</p> <p>(55 椎名 貴彦/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 痛覚過敏の発生機序、(2) 排便異常の発生機序、(3) 痛覚過敏と排便異常の相互関係、(4) ストレスと排便異常の相互関係</p>	双方向授業 オムニバス方式
			岐阜大学	創薬概論特別講義	<p>(概要) 創薬・育薬のプロセスについて講義する。特に、新薬開発に関わる実験手法、評価方法、ドラッグデザイン、分子設計、関連法規、また、既存の薬の新たな利用を目指すドラッグ・リポジショニングの考え方等について講述する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (49 松山 勇人/3回) 以下の項目について講義を行う。(1) 創薬におけるプロセス、(2) 非臨床試験、(3) 臨床試験</p> <p>(41 海野 年弘/5回) 以下の項目について講義を行う。(1) 医薬品製造プロセス、(2) 関連法規、(3) ドラッグデザイン、(4) ドラッグリポジショニング、(5) まとめ</p>	双方向授業 オムニバス方式
			岐阜大学	比較腫瘍学特別講義	<p>(概要) 本講義は基盤的教育科目での腫瘍学特別講義の上に成り立ち、犬および猫の腫瘍性疾患で比較的発生がまれであるが、重要と考えられる疾患や、診断、治療において重要なポイントについて解説を行う。本講義の目的は、腫瘍性疾患について基本的な知識を習得している学生が、さらに知識を深め、日常的に遭遇する多くの腫瘍に対して正しい知識を習得することである。また、現在研究されている、実験的な治療等についても解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (50 酒井 洋樹/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 腫瘍病理学総論、(2) 消化管腫瘍の病理学、(3) 泌尿器系腫瘍の病理学、(4) 内分泌腫瘍の病理学</p> <p>(43 森 崇/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 消化管腫瘍の治療、(2) 泌尿器系腫瘍の治療、(3) 内分泌腫瘍の治療、(4) 腫瘍随伴症候群</p>	双方向授業 オムニバス方式

スペシヤリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシヤリスト特別講義	岐阜大学	<p>（概要） 獣医内科学を専門とする高度獣医療研究者を養成するための特別講義として、特に伴侶動物の先天性血液凝固異常、免疫介在性皮膚疾患、内分泌異常に焦点を当て、分子レベルでの病態発生機序、先端的な診断法および治療法について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） (45 前田 貞俊／4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 疾患の分子病態、(2) 免疫介在性皮膚疾患に関する基礎知識、(3) 免疫介在性皮膚疾患の診断、治療、(4) 分子標的治療</p> <p>(57 西飯 直仁／2回) 以下の項目について講義を行う。(1) 内分泌異常に関する基礎知識、(2) 内分泌異常の診断、治療</p> <p>(35 鬼頭 克也／2回) 以下の項目について講義を行う。(1) 先天性凝固異常に関する基礎知識、(2) 先天性凝固異常の診断、治療</p>	<p>双方向授業 オムニバス方式</p>	
			岐阜大学	<p>（概要） 小動物における外科学・麻酔学について講義する。外科学については、特に再生医療や歯科口腔外科について解説する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） (36 山添 和明／2回) 以下の項目について講義を行う。(1) 難治性骨軟骨疾患の病態と治療法、(2) 疫学的研究への診断法の活用</p> <p>(46 渡邊 一弘／3回) 以下の項目について講義を行う。(1) 歯牙口腔解剖と口腔内検査・局所麻酔法、(2) 歯科口腔X線撮影法、(3) 歯周病</p> <p>(58 柴田 早苗／3回) 以下の項目について講義を行う。(1) 犬の麻酔と鎮痛、(2) 猫の麻酔と鎮痛、(3) 豚の麻酔と鎮痛</p>	<p>双方向授業 オムニバス方式</p>	
			岐阜大学	<p>生殖再生医療学特別講義</p>	<p>再生医療（幹細胞研究の歴史、再生医療の歴史、細胞製剤に関連する法律など）および生殖医療の両者について理解した後、再生医療の生殖医療への応用について考察する。</p>	<p>双方向授業</p>
			岐阜大学	<p>トランスレーショナルリサーチ特別講義</p>	<p>獣医学からみたトランスレーショナル研究に関して説明し、その特徴を講義する。また、様々な分野を有する獣医学が、どのように異なる分野の言語を翻訳し、分野間の橋渡しをするかを議論する。さらに、この橋渡しに必要な技術を紹介し、トランスレーショナル研究に関する理解を深める。</p>	<p>双方向授業</p>

スペシヤリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシヤリスト特別講義	鳥取大学	組織形態学特別講義	<p>(概要) 脊椎動物の発生過程において、上皮系組織と間葉系組織を構成する細胞は正常な形態形成に重要な役割を演じている。本講義では、上皮系組織および間葉系組織に焦点を当て、正常な形態形成の過程とその機構を理解する。また、個体の正常発生からの逸脱についても最新の知見を交えて講義を行う。</p> <p>はじめに、上皮系組織および間葉系組織の全体像を講義する。続いて、これらの組織が形成する器官の特徴について説明する。さらに、個体の発生異常について形態学的、分子生物学的な視点から詳説し、上皮系および間葉系の両組織に関する総合的な理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (2 保坂 善真/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 個体発生における間葉系組織、(2) 間葉組織の形態学的特徴、(3) 間葉系組織と器官形成、(4) 正常発生における上皮間葉転換の役割</p> <p>(13 割田 克彦/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 個体発生における上皮系組織、(2) 上皮系組織の形態学的特徴、(3) 上皮系組織と器官形成、(4) 形態異常に関わる因子</p>	双方向授業 オムニバス方式
			鳥取大学	獣医生体機能学特別講義	<p>生体機能の恒常性は様々な組織や細胞によって維持されている。特に、神経細胞や分泌細胞は神経伝達物質やホルモンを介して恒常性の維持に重要な役割を演じている。多くの疾患や病態発現は恒常性の乱れが原因であり、その原因や分子メカニズムは解明されつつあるものの、未だ不明な点も多い。本講義では、神経系や分泌系が持つ生理機能や薬物応答に焦点を当て、恒常性制御における生理機構、シグナル伝達機構及び治療薬などを含む薬理作用メカニズムについて遺伝子レベルから個体レベルにわたる基礎的内容から最新の情報までを教授する。</p> <p>生体には体内環境の恒常性を維持するため、また種々の外部環境からの刺激に応答するための神経系や分泌系が働いている。これらの生理機能を理解するための分子基盤とその解析法について概説し、更に、恒常性を回復させる薬物応答の基となるシグナル伝達機構について論理的に理解し、研究への応用へと進展させる。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	双方向授業
			鳥取大学	遺伝情報制御学特別講義	<p>遺伝情報を調べる分子生物学的解析法は基礎獣医学から臨床獣医学まで不可欠である。本講義では遺伝子の構造、発現および機能解析法について原理と手順を学び、実際の研究や診断における使用例を理解する。分子生物学の基礎を概説する。また、遺伝子の構造、発現およびその調節ならびに機能の解析に利用されている分子生物学的解析法の原理を各回一つの手法を取り上げて解説するとともに、実際の疾患を例にして診断や治療への応用について概説する。</p>	双方向授業
			鳥取大学	実験動物医学専門医養成特別講義	<p>実験動物分野における獣医師の果たす役割は大きく、要求される業務内容も日々増加している。そのため動物実験に関する基礎的な内容のみならず、より高度な知識等が現場では要求される。以上のことから本講義では特に、実験動物医学専門医を養成することを目的として授業を行う。</p> <p>動物実験において特に重要な実験動物代替法や3Rに関する問題点について検討すると共に、関連法規や基準についても検討する。また実験動物の感染症と疾患についてより理解を深めると共に、発生工学的手法に関する専門的な知識について学ぶ。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で行う。</p>	双方向授業 共同

スペシャリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシャリスト特別講義	鳥取大学	疾患モデル動物学特別講義	疾患モデル動物の概念とその作出方法や主な疾患モデル動物の特徴や応用について講義を行う。また、近年の生命科学研究分野で主流となっている遺伝子改変動物の作製技術やその管理についての詳細と実例を解説する。 疾患モデル動物の概念と作出法等について総論を学ぶ。また、腫瘍・免疫・代謝等に関連する代表的な疾患モデル動物の特徴や応用について理解する。発生工学的手法の基本について学び、トランスジェニック・ノックアウト・ゲノム編集等、各種の遺伝子改変技術について理解し、その実例を知る。これら遺伝子改変動物を用いた実験に関連する法令・規則や実際の飼養管理方法について理解する。	双方向授業
			鳥取大学	獣医内科診断治療学特別講義	小動物臨床分野における特定難病の原因と病態を理解させ、先端的な診断法および治療法を学ぶことにより、臨床分野における難病研究と診断および治療法のスペシャリストを養成することを目標とする。 呼吸循環器疾患の特定難病の原因、病態、診断法および治療法に関する基礎および臨床的事項についての講義を行なう。特に肺高血圧症、心筋症および血栓症については、重点的に最新情報を講義するとともに、それらの特異的な診断法および治療法について講義する。	双方向授業
			鳥取大学	獣医感染症内科学特別講義	伴侶動物の細菌感染症に対する抗菌治療に際して、必要となる薬剤耐性菌（特に多剤耐性菌）に関する知識と抗菌薬の科学的根拠に基づいた使用方法について講義を行う。 伴侶動物における薬剤耐性菌に関する最新知見について講義する。また、抗菌薬の薬物動態学-薬力学（PK/PD）理論についても紹介し、その応用法についても説明する。さらに、薬剤耐性菌に対する対策として、抗菌薬の適正使用や慎重使用、院内感染対策についても講義する。	双方向授業
			鳥取大学	神経機能評価学特別講義	神経疾患における神経機能の客観的評価方法について概説する。具体的には感覚誘発電位、視覚誘発電位、聴覚誘発電位、末梢神経電動速度などの電気生理学的手法をベースに、病態を正確に把握するための神経機能評価と疾患ごとの特徴について理解する。 中枢神経系、末梢神経系、運動器および感覚器の異常を検出するための電気生理学的手法として、感覚誘発電位、視覚誘発電位、聴覚誘発電位、脳膜電位、神経伝導速度、誘発筋電図および脳波の原理について講述し、客観的診断プロセスを修得する。	双方向授業
			鳥取大学	獣医眼科学特別講義	獣医眼科疾患を8回に分け講義する。各疾患領域を体系的網羅的に解説する。さらに、大学病院の専門外来に来院された実際の症例を題材にする。現病歴と初診時所見を提示した後、受講者も加わり診断の確定、加療計画の策定をすすめる。 最初に、対象疾患の理解に必要な眼の構造と機能を概説する。加えて各種動物間に存在する相違を比較する。続いて、各疾患を体系的網羅的に解説する。受講者とともに組み立てる症例提示では、客観的事実に基づき論理的に診断を確定する。さらに、診断された疾患に有効な加療計画を策定する。現病歴・症状・検査所見（結果）と診断・加療計画（考察）を明確に分離することを心がける。必要に応じて、各疾患に関連する最新の知見が書かれた論文を紹介する。	双方向授業

スペシャリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシャリスト特別講義	鳥取大学 腫瘍治療学特別講義	<p>(概要) 腫瘍細胞の特徴とその診断治療法ならびに免疫学的特徴について概説した後、腫瘍細胞と動物の各臓器における腫瘍に対して、最新の国内外の基礎および臨床研究の成果報告を引用しつつ、パワーポイント等を用いてプレゼンし、各種腫瘍に対する基礎的および最新の診断および治療法について講義する。本講義の最初の3回は、総論として新規に解明された腫瘍生物学について解説する。残りの5回は、各臓器における従来および最新の診断、治療方法および予後について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (9 岡本 芳晴/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 腫瘍学各論2 (消化器)、(2) 腫瘍学各論3 (泌尿器)、(3) 腫瘍学各論4 (呼吸器他)、(4) 腫瘍学各論5 (骨の腫瘍)</p> <p>(23 大崎 智弘/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 腫瘍学総論1 (腫瘍細胞の特徴)、(2) 腫瘍学総論2 (腫瘍の診断・治療)、(3) 腫瘍学総論3 (腫瘍と免疫)、(4) 腫瘍学各論1 (体表の腫瘍)</p>	双方向授業 オムニバス方式
		スペシャリスト特別演習	岐阜大学 神経科学・神経症候学特別演習	<p>(概要) 神経伝達物質、神経栄養因子の進化的変遷、哺乳類における特性について、これまでの研究成果や国際論文の通読を通じて理解する。これを土台として、伴侶動物の特殊な神経疾患の臨床症状を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (48 齋藤 正一郎/8回) 以下の項目について演習を行う。(1) 神経伝達物質・神経栄養因子 概論、(2) 神経栄養因子 分子構造、(3) 神経栄養因子 生化学的特性、(4) 神経栄養因子 形態学的分布、(5) 神経栄養因子 遺伝学的特性、(6) 病態における神経栄養因子の動態、(7) 神経栄養因子投与療法、(8) 総合討論</p> <p>(51 神志那 弘明/7回) 以下の項目について演習を行う。(1) 特殊な中枢神経疾患の症候学 概論、(2) 特殊な中枢神経疾患の症候学 各論、(3) 特殊な中枢神経疾患の症候学 各論、(4) 特殊な脊髄疾患の症候学 各論、(5) 特殊な末梢神経疾患の症候学 概論、(6) 特殊な神経根疾患の症候学、(7) 特殊なミオパチーの症候学</p>	学生移動 オムニバス方式
			岐阜大学 難治性疾患病態生理特別演習	<p>(概要) 臨床的に問題となっている難治性疾患を対象として、その病態生理を論理的に考察する方法を学ぶ。特に、消化管の異常を取り上げ、不明な機序をこれまで習得してきた知識を使って考察する。消化管の疾患に焦点を絞り演習に取り組む。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (42 志水 泰武/8回) 以下の項目について演習を行う。(1) 炎症性腸疾患の成り立ち、(2) 疫学的な文献情報の収集、(3) 収集した文献情報の取りまとめ、(4) プレゼンテーション資料の作成、(5) プレゼンテーションと討議、(6) 成因に関する文献情報の収集、(7) 収集した文献情報の取りまとめ、(8) 総合討論</p> <p>(55 椎名 貴彦/7回) 以下の項目について演習を行う。(1) プレゼンテーション資料の作成、(2) プレゼンテーションと討議、(3) 過敏性腸症候群の成り立ち、(4) 病態生理に関する文献情報の収集、(5) 収集した文献情報の取りまとめ、(6) プレゼンテーション資料の作成、(7) プレゼンテーションと討議</p>	学生移動 オムニバス方式

スペシャリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシャリスト特別演習	岐阜大学	電気生理学実験特別演習	<p>(概要) 生態の機能評価に用いられる実験方法のうち、電気生理学的手法に関わる演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (49 松山 勇人/5回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) 電気生理学的手法の一般、(2) 細胞内膜電位測定法の原理、(3) 細胞内膜電位測定法に用いる標本の作製方法、(4) 細胞内膜電位測定法によるデータ取得、(5) 細胞内膜電位測定法により得られたデータの解析手法</p> <p>(41 海野 年弘/10回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) 細胞膜電流測定法の原理、(2) 細胞膜電流測定法によるデータ取得、(3) ホールセルパッチクランプ法、(4) ホールセルパッチクランプ法に用いる標本の作製法、(5) ホールセルパッチクランプ法により得られたデータの解析、(6) ホールセルパッチクランプ法を用いた膜電位測定法、(7) シングルチャネルパッチクランプ法、(8) シングルチャネルパッチクランプ法の注意点、(9) シングルチャネル解析方法、(10) まとめ</p>	学生移動 オムニバス方式
			岐阜大学	比較腫瘍学特別演習	<p>(概要) 本演習は基盤的教育科目での腫瘍学特別演習の上に成り立ち、犬および猫の腫瘍性疾患で比較的発生がまれであるが、重要と考えられる疾患や、診断、治療において重要なポイントについて演習を行う。本演習の目的は、腫瘍性疾患について基本的な知識を習得している学生が、さらに知識を深め、日常的に遭遇する多くの腫瘍に対して正しい知識を習得することである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (50 酒井 洋樹/8回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) 腫瘍の病理組織学的診断、(2) 腫瘍の細胞学的診断、(3) 消化管腫瘍の細胞学的診断、(4) 消化管腫瘍の病理組織学的診断、(5) 泌尿器系腫瘍の細胞学的診断、(6) 泌尿器系腫瘍の病理組織学的診断、(7) 内分泌腫瘍の病理組織学的診断、(8) 内分泌腫瘍の細胞学的診断</p> <p>(43 森 崇/7回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) 消化管腫瘍の治療の実際(リンパ腫、腺癌)、(2) 消化管腫瘍の治療の実際(消化管間質腫瘍)、(3) 泌尿器系腫瘍の治療の実際、(4) 内分泌腫瘍の治療の実際(副腎腫瘍、下垂体腫瘍)、(5) 内分泌腫瘍の治療の実際(甲状腺癌、インスリノーマ)、(6) 放射線治療の原理、(7) 放射線治療の実際</p>	学生移動 オムニバス方式
			岐阜大学	獣医分子内科学特別演習	<p>(概要) 獣医内科学を専門とする高度獣医療研究者を養成するための特別演習として、特に伴侶動物の先天性血液凝固異常、免疫介在性皮膚疾患、内分泌異常に焦点を当て、分子レベルでの病態発生機序、先端的な診断法および治療法をテーマに演習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (35 鬼頭 克也/5回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) 止血機構、(2) 先天性血小板異常、(3) 先天性血液凝固異常、(4) 先天性血栓傾向、(5) その他の先天性一次止血異常</p> <p>(45 前田 貞俊/5回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) 肥満細胞とIgE、(2) 自己抗体、細胞傷害性リンパ球の産生、(3) アレルギー性皮膚疾患、(4) 自己免疫性皮膚疾患、(5) 分子標的治療</p> <p>(57 西飯 直仁/5回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) インスリン抵抗性の病態、(2) アディポカインと肥満、(3) アディポカインと疾患、(4) グルココルチコイドとインスリン抵抗性、(5) グルココルチコイドと筋萎縮</p>	学生移動 オムニバス方式

スペシヤリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシヤリスト特別演習	岐阜大学	<p>獣医外科・麻酔学特別演習</p> <p>(概要) 小動物外科疾患に対する診断法や治療法は近年急速に発展している。そこで各小動物外科疾患について最近の診断法や治療法を深く理解させる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (36 山添 和明/6回) 以下の項目について演習を行う。(1) 消化器疾患、(2) 泌尿器・生殖器疾患、(3) 体表・体腔の疾患、(4) 呼吸器・循環器疾患、(5) 運動器疾患1(骨疾患)、(6) 運動器疾患2(関節疾患)</p> <p>(46 渡邊 一弘/5回) 以下の項目について演習を行う。(1) 歯科口腔疾患の画像診断、(2) 猫の歯科疾患、(3) 口腔内腫瘍の診断と治療、(4) 顎骨骨折の診断と治療、(5) 歯内疾患の診断と治療</p> <p>(58 柴田 早苗/4回) 以下の項目について演習を行う。(1) 消化器外科・生殖器外科・泌尿器外科疾患の麻酔、(2) 形成外科、整形外科疾患の麻酔、(3) 呼吸器・循環器外科疾患の麻酔、(4) 歯科口腔外科疾患の麻酔</p>	学生移動 オムニバス方式
			岐阜大学	<p>生殖再生医療学特別演習</p> <p>再生医療(幹細胞研究の歴史、再生医療の歴史、細胞製剤に関連する法律など)および生殖医療の両者について文献抄読すると共に、再生医療の生殖医療への応用に関する研究について理解を深める。</p>	学生移動
			岐阜大学	<p>トランスレーショナルリサーチ特別演習</p> <p>トランスレーショナル研究を理解するために、まず対象となる動物を理解する。また、ここで生じる問題を議論する。次に、トランスレーショナル研究に広く用いられているミニプタの飼養管理、繁殖管理を学ぶ。さらに、それらの生殖・発生工学的な手技を学ぶ。加えて、トランスレーショナル研究は、単に獣医・畜産学から医・生物学へ向う研究ではないことを理解する。最後に、これからのトランスレーショナル研究の方向を示唆し、獣医学の担うべき役割を議論する。</p>	学生移動
			鳥取大学	<p>組織形態学特別演習</p> <p>(概要) 個体発生における上皮系組織および間葉系組織についての理解を深めるために、器官の発生やその異常に関する最新の科学論文を精読し、その内容についてのプレゼンテーションを行う。</p> <p>はじめに、組織学および発生学に関連するテーマを設定し、最新の知見を検索する。次に、その研究の背景や解析手法、得られた成果、結果から導くことができる事象についてプレゼンテーション資料を作成、紹介した後、質疑応答を行い、上皮系組織および間葉系組織を包括的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 保坂 善真/8回) 以下の項目について演習を行う。(1) 細胞分化と間葉系組織、(2) 文献の検索(間葉系組織)、(3) 解析手法の理解(間葉系組織)、(4) 結果の予測と解釈(間葉系組織)、(5) 考察の理解(間葉系組織)、(6) 発表資料の作成(間葉系組織)、(7) 発表、質疑応答(間葉系組織)、(8) 総括</p> <p>(13 割田 克彦/7回) 以下の項目について講義を行う。(1) 細胞分化と上皮系組織、(2) 文献の検索(上皮系組織)、(3) 解析手法の理解(上皮系組織)、(4) 結果の予測と解釈(上皮系組織)、(5) 考察の理解(上皮系組織)、(6) 発表資料の作成(上皮系組織)、(7) 発表、質疑応答(上皮系組織)</p>	学生移動 オムニバス方式

スペシャリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシャリスト特別演習	鳥取大学	獣医生体機能学特別演習	最近公表された神経系や分泌系を始めとする細胞生理・機能薬理的な学術論文や総説を教材とし、生体の恒常性や破綻によって生じる細胞機能変化やそれによって生じる病態及び薬物治療の基礎的概念について理解し、議論を深めることを目標とする。 生体の恒常性維持を制御する分子の理解とその破綻によって生じる病態、及び治療薬の作用機序について、最新の原著論文、総説を教材として用い、精読した上で口頭発表により紹介する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	学生移動
			鳥取大学	遺伝情報制御学特別演習	難治性疾患に対する治療法（再生医療や遺伝子治療等）の開発には遺伝情報の理解が欠かせない。本演習では、内分泌中枢「下垂体」を題材に発生、細胞分化、疾患および治療に関わる最新知見を抄読し、遺伝情報制御と治療の関係を理解する。 下垂体の構造と機能を解説し、第2回以降は以下のテーマに関する最新論文を抄読して議論する。 最新論文1：下垂体の発生に関する原著論文 最新論文2：下垂体の幹細胞に関する原著論文 最新論文3：下垂体疾患に関する原著論文 最新論文4：下垂体と再生医療に関する原著論文	学生移動
			鳥取大学	実験動物医学専門医養成特別演習	動物実験計画申請書の作成を模擬的に行うことにより、計画の立案と申請書類の書き方および申請書作成に際して注意すべきポイントについて学ぶ。さらにこれらを自身で審査することにより、実験計画について申請と審査の両方向からの視点から全体像を理解する。 動物実験を行う上で注意すべき点を理解するために、本演習では特に3R、麻酔・安楽死、動物種と系統および実験動物の感染症に注目して動物実験計画申請書を作成すると共に、模擬的な審査を行う。 上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で行う。	学生移動共同
			鳥取大学	獣医内科診断治療学特別演習	動物における呼吸循環器系の内科疾患の特定難病における画像解析、血行動態解析、血液生化学的解析、遺伝子診断と治療法に関する最新の診断法と治療技術の演習を実施し、特定難病や遺伝性疾患の高度な診断と治療が可能となる能力の養成を目標とする。 呼吸循環器疾患の特定難病、特に肺高血圧症、心筋症および血栓症に主眼を置いた診断法および治療法に関する各種基本的技術の習得のための演習を実施する。 診断法では心臓超音波検査、心血行動態解析、心不全バイオマーカー、心臓と肺血管リモデリング関連因子の解析、血液生化学検査、血栓症関連因子の解析、血小板機能解析および遺伝子解析について、最新情報に基づいた特異的な診断技術の演習を実施し、各特定難病の治療方法のプログラムの演習を行う。 (1 日笠 喜朗) 主として演習を行う。 (29 辻野 久美子) 血液生化学的解析	学生移動共同（一部）
			鳥取大学	獣医感染症内科学特別演習	伴侶動物に対して使用される抗菌薬の種類と実際的な使用方法について解説を行うとともに、実際の細菌感染症症例に対する診断から治療（主として抗菌療法）に至る過程を習得するための演習を行う。 各抗菌薬の特徴や対象となる微生物や感染症について解説する。また、実際の感染症症例のデータなどを交えて、理想的な抗菌療法のあり方に関する考察・検討を行う。さらに、臨床上問題となる多剤耐性菌感染症に対する抗菌療法やその他の必要とされる対応についても学ぶ。	学生移動

スペシャリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシャリスト特別演習	鳥取大学	神経機能評価学特別演習	神経疾患に対する客観的機能評価法として、特発性てんかんに対する脳波検査、四肢の運動失調に対する筋電図検査、脊髄疾患に対する体性感覚誘発電位等をテーマに、文献ならびに症例の検査データを用いた演習を行う。 各週ごとに設定した神経機能検査に関する文献を抄読し、内容をまとめたプレゼンを行う。各プレゼン内容をもとに討論し、課題の抽出と解決方法をまとめる。さらに、実際の症例の検査データを解析し、診断プロセスについて討論する。	学生移動
			鳥取大学	画像診断学特別演習	(概要) MRI機器の基本構成及びMRI検査の各種撮像モードの原理について解説する。特に各モードのパルスシーケンスの詳細について解説する。また各撮像モードの臨床的応用例について実際の症例を用いて説明していく。 MRI装置の各部位の名称その構成要素について理解する。さらにMRI信号について理解する。各種パルスシーケンスの成り立について解説する。(spin echo、fast spin echo (ターボspin echo)、gradient echo、steady-state MR sequences、echo planar imaging (EPI)、拡散強調 (DMI) など)。 (オムニバス/全15回) (12 今川 智敬/10回) MRI各モードのパルスシーケンスの詳細と特殊撮像モードについて担当する。 (32 山下真路/5回) MRIの基本構成および各種撮像モードの基本原理について解説する。	学生移動 オムニバス方式
			鳥取大学	腫瘍治療学特別演習	(概要) 具体的な症例を元に、各臓器における各種腫瘍の診断および治療法に関して、腫瘍に関する最新の国内外の基礎および臨床研究の成果報告を引用しつつ、最適な腫瘍の診断および治療法の選択に対する理解を深める。 本演習の最初の7回は腫瘍の診断および腫瘍の治療方法について、残りの8回は各臓器の腫瘍において、数症例のプロフィール、検査結果を元に、今後必要な検査や治療方法および予後について最新の論文を引用しながら議論し、どのような治療方法を選択すべきかを議論する。 (オムニバス方式/全15回) (9 岡本 芳晴/8回) 以下の項目について演習を行う。(1) 体表の腫瘍、(2) 消化器の腫瘍、(3) 肝臓・脾臓の腫瘍、(4) 呼吸器の腫瘍、(5) 泌尿生殖器の腫瘍、(6) 内分泌の腫瘍、(7) 骨の腫瘍、(8) 中枢神経の腫瘍 (23 大崎 智弘/7回) 以下の項目について演習を行う。(1) 腫瘍の診断、(2) 腫瘍に対する外科手術、(3) 腫瘍に対する化学療法、(4) 腫瘍に対する放射線治療、(5) 腫瘍に対する化学療法、(6) 腫瘍に対する免疫療法、(7) 腫瘍に対する光線力学療法	学生移動 オムニバス方式
研究推進科目	研究推進特別実験	岐阜大学	動物組織薬理学特別実験	顔面神経麻痺モデル動物を素材とし、その作製法、傷害の評価法から、傷害部位の研究のための組織採材法、遺伝子解析法、形態学的検索法、パッチクランプ法による重篤度解析、そしてその評価法について習得する。 履修学生に対し担当教員を決定する。		

研究推進科目	研究推進特別実験	岐阜大学	難治性疾患病態生理特別実験	難治性消化管疾患として、炎症性腸疾患に併発する消化管運動異常、特に炎症から回復した後に持続的に認められる運動異常を取り上げ、その原因を究明する実験を行う。課題設定、実験の立案、実験条件の設定のための予備実験の実施、本実験の実施、データのまとめと解析、プレゼンテーションまで実施する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
		岐阜大学	腫瘍学研究推進特別実験	動物病院にて、実際の症例を診ることで知識を深める。また、一般的な病理形態学的解析方法、病理材料をもとにした分子生物学的解析法を学ぶ。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
		岐阜大学	獣医感染症学特別実験	担当教員の研究室で取り扱っている感染症をモデルとして、解析の基盤的技術を習得する。最終的には、受講者の研究計画立案、研究遂行に役立てることを最終目標とする。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
		岐阜大学	病原性ウイルス生態学特別実験	ブタに常在し、時に下痢症を起こすロタウイルスを対象に、ブタ糞便からのウイルスの検出、分離、同定、解析を行う。また、ブタ血清を用いて血清疫学調査を行う。これら調査結果から、ロタウイルスの自然界での生態について考察し、解析結果を含め口頭発表を行う。さらに、未知のウイルスを想定して、次世代シーケンサーを用いた解析についても学修する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
		岐阜大学	公衆衛生学特別実験	食品、および環境由来の感染症に関わる獣医公衆衛生学の実験、解析に必要な手技を学ぶ。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
		岐阜大学	環境と感染症特別実験	飼育動物と野生動物の飼育・生息環境ならびに感染症に関わるの解析を通して、感染症の拡散及び分布要因や飼育・生息環境への影響を解明するための実験を行う。課題設定、実験・調査計画の立案、実験・調査条件の設定のための予備実験・調査の実施、本実験・調査の実施、データのまとめと解析、プレゼンテーションまで実施する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
		岐阜大学	難治性内科疾患研究推進特別実験	伴侶動物の難治性内科疾患に焦点を当て、分子レベルでの病態発生機序、先端的な診断法および治療法に関する基礎的および発展的な事項について実験する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
		岐阜大学	獣医麻酔外科学研究推進特別実験	獣医麻酔外科学基盤特別実験から得られた結果についてディスカッションし、発展的な研究計画を立案する。その研究計画を元に実験を実施し、得られた成果をまとめる。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
		岐阜大学	産業動物臨床応用学特別実験	実際の事例をもとに研究テーマを模索するとともに、問題解決までの流れを思考、計画、実行、評価、修正といった一連の作業によって研究能力の質的向上を促す。 履修学生に対し担当教員を決定する。	

研究推進科目	研究推進特別実験	鳥取大学	組織形態学特別実験	<p>生細胞を用いた研究の基礎となる細胞培養技術や各種分子の検出法、細胞への遺伝子導入法を学び、将来的に自身の研究に活かせる知識と実験手技を身に付けるための実験を行う。</p> <p>研究テーマを立案・検討し、そのテーマに関する情報検索を行ったのち、実験計画と方法を設定する。続いて、株化細胞や初代培養細胞を用いて実験を実施し、データの計測と解析を行う。本特別実験では、タンパク機能の解析に用いられる分子生物学的なアプローチ法についても取り扱う。最後に結果を検討し、実験結果を総括する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	獣医生体機能学特別実験	<p>本実験では生体機能調節に関わる細胞分子メカニズムについて、特に神経機能を中心に形態学的、機能生理学及び病態薬理学的な解析を行い、新知見を得ることを目的とする。そのため細胞生理・薬理学的技術を体得し、その解析方法について学習し、得られた結果についてプレゼンテーションを行うと共に、レポートにまとめ発表する。</p> <p>神経系の生理機能や病態薬理学的解析のため、神経細胞に発現しているタンパク質の機能や薬物反応などについて、形態学的手法、電気生理学的手法並びに細胞生化学的実験技術について実習することにより新知見を得ることを目指す。これらの実験技術を体得し、実験データについてプレゼンテーションとレポート作成を行う。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	獣医神経病理学特別実験	<p>動物および人の神経系疾患の病理発生に関する実験を行うことにより、病理形態学的評価法（病理組織学的、免疫組織学的、電子顕微鏡的、分子生物学的評価法等）を習得する。</p> <p>神経系疾患（感染症、代謝性疾患など）に関する実験の研究テーマを立案する。過去の文献をもとに情報収集を行い、実験計画を設計をする。続いて、実験動物を用いて実験を行い、病理学的解析を行う。最後に結果について考察する。</p> <p>履修学生に対して担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	実験動物生殖工学特別実験	<p>現在遺伝子改変動物を用いた研究は実験動物学部分野において必須である。このことから本特別実験では特にトランスジェニックマウスの作製に関する手技について実際に体験することにより、遺伝子改変動物に関する理解をより深めることを目的とする。</p> <p>トランスジェニックマウス作製のためのDNAコンストラクトの設計及び構築を行い、マウス胚への遺伝子導入及び胚移植を行う。さらに遺伝子導入されたマウス個体をファウンダーとして確立するまでの手技を習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	微生物学特別実験	<p>課題探求の研究に伴う実験に関する技能及び実験手技を身につけるため、微生物を使用する実験及び感染実験を行うとともに、結果を分かりやすく公表するための図表の作成を英文により行う。</p> <p>上皮細胞及びマクロファージ系の株化細胞を用いた培養細胞接種試験により細菌の付着性及び侵入性を検討する。さらに、発育鶏卵接種試験及び動物実験により接種後の菌の動態及び遺伝学性性状を解析する。また、細菌に感染するウイルスであるバクテリオファージに関する基礎実験及び応用に関する実験を実施する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	

研究推進科目	研究推進特別実験	鳥取大学	鳥類感染症学特別実験	<p>鳥類における感染症学分野で学位論文作成に必要な応用的実験技術やその背景となる理論を実技を通して理解し習得する。</p> <p>鳥類における感染症学分野での学位論文作成に必要な、病原体の分離や輸送、野生動物を用いた感染実験、捕獲などの応用系実験技術や背景にある理論や法律による規制等を実技を通して教授する。また、得られた成績の解析技術について習得させる。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	獣医内科診断治療学特別実験	<p>動物における呼吸循環器系の内科疾患の特定難病における基礎的および応用的な実験を実施し、特定疾患や難病、特に肺高血圧症、心筋症および疼痛・ストレス症状に対する病態および診断法と治療法を理解させるとともに、新たな診断治療技術の開発や評価を学ぶ。</p> <p>呼吸循環器疾患の特定難病、特に肺高血圧症、心筋症および疼痛・ストレスに主眼を置いた診断法と治療法に関する基礎的および応用的なアプローチによる実験を実施する。計画では、肺高血圧症モデル、心筋症モデルおよびストレス・疼痛モデル動物の作成方法を修得する。次いで、それぞれのモデル動物を用いた心臓超音波検査、心行動態解析、心不全バイオマーカー検査、心臓と肺血管リモデリング関連因子の解析、血液生化学検査、行動学的評価を実施し、各種診断と各疾患の評価を修得する。さらに、その評価法に基づいた各特定難病の治療実験を実施し、治療プロトコルの開発を修得させる。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	獣医繁殖学特別実験	<p>家畜における繁殖障害の診断技術を習得するとともに、検査結果に対する解析能力を養成する。また、生殖工学の基本的技術の習得を実験で行う。</p> <p>産業動物及び伴侶動物の繁殖障害と生殖工学に関する臨床面での対応能力の習得を目標とする。</p> <p>牛、馬、豚、犬及び猫について、家畜繁殖障害概論（繁殖機能と繁殖障害）、繁殖障害（発情周期・妊娠期・産褥期における検査法、診断、治療、ケーススタディ）及び家畜生殖工学概論を中心に実験を実施する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	難病診断治療学特別実験	<p>腫瘍をはじめとする難病の診断および治療法に関する知識を養成する。診断においては各種画像診断機器を用いて画像解析方法を学習する。また、治療においては各種解析装置を用いて細胞および組織レベルでの治療効果の解析方法について学習する。これらの診断・治療効果の解析方法を学んだ上で、論文作成に関する基本的な手法について学ぶ。</p> <p>本実験の最初の8回は、腫瘍をはじめとする難病に関する診断に関して各種画像診断機器を用いた画像解析法を習得し、その画像読影・解析方法について学習する。中間の10回は、in vitroおよびin vivo実験において各種解析装置を用いて治療効果の判定方法について学習する。残りの12回は論文の作成方法について学習する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
	演習科目	岐阜大学	プロGRESSセミナーI	<p>研究計画立案のもとになる学術情報収集、実現可能な研究計画、実験手技の検討、実験結果の解析、結論の導き方、等について、それぞれプレゼンテーションを行い、指導教員との討論を繰り返すことで、研究内容全般について自己点検を行う。最後に論文作成に関する指導を行う。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	

研究推進科目	演習科目	鳥取大学	プログレスセミナー I	<p>研究遂行に必要な高度専門知識を教授し、さらに学位論文研究の実験データに関するプレゼンテーションを行い、主指導教員および第一副指導教員による指導を受ける。</p> <p>研究計画立案のもとになる学術情報収集、実現可能な研究計画、実験手技の検討、実験結果の解析、結論の導き方、等について、それぞれプレゼンテーションを行い、指導教員との討論を繰り返すことで、研究内容全般について自己点検を行う。最後に論文作成に関する指導を行う。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		岐阜大学	プログレスセミナー II	<p>研究計画立案のもとになる学術情報収集、実現可能な研究計画、実験手技の検討、実験結果の解析、結論の導き方、等について、それぞれプレゼンテーションを行い、指導教員との討論を繰り返すことで、研究内容全般について自己点検を行う。最後に論文作成に関する指導を行う。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	双方向授業
		鳥取大学	プログレスセミナー II	<p>研究遂行に必要な高度専門知識を教授し、さらに学位論文研究の実験データに関するプレゼンテーションを行い、第二副指導教員による指導を受ける。</p> <p>研究計画立案のもとになる学術情報収集、実現可能な研究計画、実験手技の検討、実験結果の解析、結論の導き方、等について、それぞれプレゼンテーションを行い、指導教員との討論を繰り返すことで、研究内容全般について自己点検を行う。最後に論文作成に関する指導を行う。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	双方向授業
アドバンスト教育科目		岐阜大学	国内特別実践演習 I	<p>調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査方法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	国内特別実践演習 I	<p>各スペシャリスト養成プログラムに関連する国、地方公共団体、民間の試験・研究機関等において、現地の研究活動に参加することで実践的課題解決能力を醸成する。また、国内で開催される学会等に出席し、研究発表を行う。</p> <p>調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		岐阜大学	国内特別実践演習 II	<p>調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥取大学	国内特別実践演習 II	<p>国内特別実践演習 I に引き続き、国内の試験・研究機関において、現地の研究活動に参加することで実践的課題解決能力をさらに高める。また、国内で開催される学会等に出席し、研究発表を行う。</p> <p>調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	

アドバンスト教育科目	岐阜大学	海外特別実践演習 I	調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
	鳥取大学	海外特別実践演習 I	各スペシャリスト養成プログラムに関連する海外の公的機関ならびに民間企業等の試験・研究機関において、現地の研究活動に参加することで実践的課題解決能力を醸成する。また、海外で開催される学会等へ出席し、研究発表を行う。 調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
	岐阜大学	海外特別実践演習 II	調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
	鳥取大学	海外特別実践演習 II	海外特別実践演習 I に引き続き、国外の試験・研究機関において、現地の研究活動に参加することで実践的課題解決能力をさらに高める。また、海外で開催される学会等へ出席し、研究発表を行う。 調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
	岐阜大学	ジョイントワーク ショップ演習	プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンテーション技術について指導するとともに、海外の研究者と情報交換するための語学力養成を行う。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
	鳥取大学	ジョイントワーク ショップ演習	海外で開催されるジョイントワークショップへ出席して研究発表を行うとともに、国外の研究者との交流を図り、各専門分野に関する最新の学術情報を収集する。 プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンテーション技術について指導するとともに、海外の研究者と情報交換するための語学力養成を行う。 履修学生に対し担当教員を決定する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(共同獣医学研究科共同獣医学専攻/鳥取大学)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
研究科共通科目	研究倫理・知的財産特論	生命科学分野の研究に携わる研究者として必要な倫理観、および知的財産の活用、知的財産マネジメントに必要な知識を講述する。生命科学分野全般および獣医学関連分野を取り巻く倫理的問題とその対応、研究者として理解すべき動物実験および動物福祉のあり方、基礎研究から臨床研究へのトランスレーションリサーチにおける倫理指針、研究者、技術者として知っておかなければならない知的財産の基礎知識と知的財産マネジメント、著作権や特許等に関連する法令について講述する。	双方向授業	
	学際領域特別演習	大学院で学ぶ者として基本的な事項の習得を目指す授業である。また、他大学の教員や学生と交流し、研究内容を知ることにより、視野をひろげ、創造力を深める。岐阜および鳥取両大学の配置学生が一堂に会して研究計画の発表を行う。主指導及び副指導教員だけでなく他分野の教員からの助言・指導も受ける。また、獣医学関連分野に関わる大学院生にとって基本的な事項に関する内容を講述する。 (8 山口 剛士) 両大学が交互に開講する。 (41 海野 年弘) 両大学が交互に開講する。	集中	
基盤的教育科目	基盤特別講義	獣医解剖学基盤特別講義	脊椎動物の生体を形成する細胞、組織、器官の各レベルでの発生、分化、形態形成の過程とその機構を理解する。また、各細胞、組織、器官間の機能的関連についても講義する。 はじめに、生体を構成する様々な細胞（一般細胞、配偶子）について講義する。その後、組織（上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織）、およびそれらが形成する器官の特徴について説明する。最後に、細胞や組織間で行われている相互作用（インタラクション）の特徴について講義をし、細胞、組織、器官の発生、分化、形成を包括的に理解する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
		基礎獣医機能学基盤特別講義	脊椎動物の器官、組織、細胞レベルにおける形態、生理機能及び薬物反応メカニズムについて、基盤となる概念を学習する。本講義では、これらの内容を理解するための基礎的実験技術についても解説する。 脊椎動物における神経系、内分泌系及び循環器系の特徴とその生理機能並びに薬理作用機序を理解することにより、正常動物の生理機能から薬物反応まで幅広い知識を習得させる。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
		細胞分化制御学基盤特別講義	動物の成長や生殖等を制御するホルモンの合成・分泌器官「下垂体」の細胞構成とその成り立ちについて学ぶ。特に、多様な幹・前駆細胞からホルモン産生細胞を始め下垂体の全細胞が構築されていく仕組み（細胞分化）を理解する。 下垂体の発生過程における細胞構成の劇的な変化を概説する。また、下垂体における幹・前駆細胞の多様性やどの細胞がどのような調節を受けて下垂体に存在する全ての細胞へと分化していくか、各回毎に別の細胞に注目して解説する。さらに、下垂体疾患に対する再生医療の可能性について概説する。	双方向授業
		獣医感染病理学基盤特別講義	動物の感染症を中心に病理学的所見・類似疾患と鑑別ポイントを概説し、感染病理学の基盤的知識を習得させることを目的とする。パワーポイントスライドを活用した講義形式により、代表的な動物の感染症について説明する。特に、循環器（特に心臓・血管）、呼吸器（特に肺）、消化器（特に腸と肝臓）、免疫器官（特に脾臓とリンパ節）、泌尿器（特に腎臓）、神経系（特に脳脊髄）に病変を形成する疾患とその特徴について解説する。 履修学生に対して担当教員を決定する。	双方向授業

基盤的教育科目	基盤特別講義	各種実験動物の感染性疾患・非感染性疾患についての基本的知識をはじめ、特に近年国内外で問題となっている疾病について講義を行う。また、それら疾病の制御のための方法や飼育管理・施設管理について多角的に解説する。 各種実験動物の感染性疾患や非感染性疾患について基礎知識を学ぶ。また、特に近年国内外で問題となっている疾病やその発生状況等について把握する。各種疾病の診断方法や病理について理解する。疾病防御と関連づけて、実験動物の飼育管理法の実際について学ぶ。さらに、実験動物の微生物コントロールの意義や方法について学び、特に人獣共通感染症のリスクと対策について理解を深める。	双方向授業
	実験動物学基盤特別講義	本講義では、動物実験を行う際に必要な基本的な技術や知識について学ぶ。実験動物に関する愛護や倫理などの重要な項目に関しては、上記に加え最新の知見についても紹介する。これらを体系的に学習することにより、動物実験を行う上で必要な事柄について理解を深めることを目的とする。 実験動物の愛護や3Rに代表される倫理を学ぶことで、動物実験を取り巻く社会状況を理解する。また各種実験動物の特性を理解し、適正な動物の取り扱いや動物実験とそれに関わる知識を習得する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
	細菌学基盤特別講義	動物と密接に関わる細菌について、分類・型別・ビルレンス因子・遺伝学・抗菌薬耐性等に関する最新の知見を概説し、細菌感染症の発生との関連を論考する。 細菌に関する近年のトピックスを講義する。目まぐるしく再編成が続く細菌分類学の変遷及び現状、宿主動物における病原性に関係する因子として注目される付着機構及び宿主動物に影響を及ぼす蛋白質分子の分泌機構、正常菌叢と宿主動物との関係、病態解明の基盤となる解析手法、抗菌薬耐性、分子疫学的解析法等について解説する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
	鳥類感染症学基盤特別講義	鳥類は、病原微生物の宿主および媒介動物として重要な役割を果たしている。本講義では鳥類のウイルス感染症を例に、病態発現の分子機構と分子疫学に関する基礎および応用、その解析手法について講述する。 鳥類のウイルス感染症を概説し、いくつかの具体例を通し宿主寄生体関係の分子基盤、病原性発現に関与する寄生体および宿主因子の解明に至る解析手法を紹介すると共に得られた成績の実例を示し、そこから得られる情報や解釈について考える。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
	動物感染症予防学基盤特別講義	産業動物の健康状態には、多種多様な病原微生物による感染症が影響をおよぼす。産業動物の生産性を維持・促進するために、飼育現場では消毒薬やワクチン等の動物用医薬品が利用されている。本講義では、飼養衛生管理における、動物用医薬品等を用いた感染症予防策ならびに感染源対策について学ぶ。 獣医薬事関連法規および動物用医薬品の有効性と安全性の確保に関する制度について教示した後、消毒薬による疾病予防、産業動物の生体防御機構および主要な感染性疾患の感染源や感染経路など動物感染症予防に関する基本的要因について教授する。	双方向授業
	ウイルスおよびプリオンによる人獣共通感染症基盤特別講義	人獣共通感染症は人と動物の両者に感染する病原体によるものである。近年問題となっている新興・再興感染症には多くの人獣共通感染症が含まれることもあり、公衆衛生上重要視される。本講義では、人獣共通感染症のなかでも、特にウイルスおよびプリオンによって引き起こされるものについて講義する。 講義では各回において1つの人獣共通感染症を取り上げ、病原体の性状・生態、感染・伝播経路、症状、予防や治療法についての解説する。	双方向授業
	動物感染症学基盤特別講義	動物の感染症の中で、昨今特に社会的に大きな影響を与えている疾病に焦点を当て、疾病自体の概説に加え、これまでの発生の経緯や今後の対応における獣医師の役割について考える。 各回の講義では、取り上げる感染症の基本的情報を概説すると共に、本内容に関するDVDや実際の報道（新聞、インターネット記事など）を参照して理解を深める。加えて、報道内容を一般のおよび専門的双方の立場から検討し、各感染症のコントロールのために果たすべき獣医師の役割について理解する。	双方向授業

基盤的教育科目	基盤特別講義	獣医寄生虫病学基盤特別講義	寄生虫の大まかな分類、形態、発育環、およびその伝播方法と宿主体内における生存戦略について学ぶ。寄生虫病学分野では、原生動物から節足動物に至る多種多様な分類群の生物が含まれるため、寄生虫の生活環と宿主との関係について、一般論を理解する。寄生虫の基礎的な分類、形態、発育環の多様性について学び、それらの伝播方法と宿主体内での寄生生態について理解する。さらに、それらの寄生虫による病害発生の機序やその対策についての考え方を身につける。	双方向授業
		獣医診断治療学基盤特別講義	動物における特定の内科的疾患における診断法と治療法に関する基礎および臨床的事項について学ぶ。特に、特定難病を理解し、内科診断および治療薬の有効性を理解する。 動物の内科的疾患の病態生理・生化学ならびにその診断法と治療法に関する基礎および臨床的事項について講述する。特に、生活習慣病、老年病、呼吸循環器病、腎臓病の最新情報および特定の難病として肥満、高脂血症、発作性神経障害および神経内分泌疾患について講義する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
		家畜生殖工学基盤特別講義	産業動物、伴侶動物及び実験動物の生殖工学に関する基本的知識を習得する。また、生殖工学に関する最近の知見について、国内外の文献等を使用して講義を行う。 産業動物、伴侶動物及び実験動物の生殖工学の理解を深めることを目標とする。 牛、馬、豚、犬、猫及び実験小動物について、精子、卵子及び胚（受精卵）を用いた生殖工学技術を解説する。精子については性別別及び顕微授精、卵子については卵胞発育、卵子成熟及びクローニング、胚（受精卵）については低温保存及び胚移植を解説する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
		難病診断治療学基盤特別講義	腫瘍をはじめとする難病に関する基礎および臨床研究の成果が報告されている最新の国内外の研究論文を引用しつつ、パワーポイント等を用いてプレゼンし、各種疾患に対する基礎的および最新の診断および治療法について講義する。 本講義の最初の2回は、腫瘍をはじめとする難病に関する診断に関して、一般的な各種画像診断技術の理論、適応症例、読影および画像解析方法について解説する。残りの6回は、主に腫瘍に関する治療に関して、いわゆる3大治療以外の各種治療法についてその理論、治療方法および適応症例について解説する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業
基盤特別演習	獣医解剖学基盤特別演習	基礎獣医学の一分野である解剖学（組織学、発生学、細胞学を含む）の内容について理解を深めるために生体の細胞、組織、器官の発生、再生、修復および組織内（間）のインタラクションに関する科学論文や総説を精読し、それらについてのプレゼンテーションを行う。 はじめに、解剖学に関するテーマを設定し、最新の知見を検索する。続いて、その研究の背景や、解析手法、得られた成果、結果から導くことができる事象についてプレゼンテーション資料を作成し、紹介した後に質疑応答を行う。さらに、その内容についてのレポートを作成し、解剖学に関する知識を深める。 履修学生に対し担当教員を決定する。		
		基礎獣医機能学基盤特別演習	基礎生理学及び基礎薬理学的内容について理解し、議論を深めるため、細胞生理やシグナル伝達機構および薬物反応に関する学術論文や総説を教材として用い、それらを精読した後にプレゼンテーションを行う。 論文の内容を理解し、プレゼンテーションを行うことにより、最新の科学的知見を理解する能力とそれらを説明する能力を修得する。本演習では、生理学・薬理学領域の最新の学術論文あるいは総説を精読し、その内容を紹介するためプレゼンテーション資料を作成し、個別に発表と質疑応答を行う。更に、その内容についてのレポートを作成する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
		獣医感染病理学基盤特別演習	動物の感染症についての獣医病理学的解析を中心とした過去の研究報告ならびに最新の研究報告を講読して、受講者が取り組む研究計画へ活かすことを目指す演習である。 動物感染症・人獣共通感染症についての学術論文の講読と内容に関する討議を演習形式で行い、受講者自身が取り組む研究への応用を立案すること、また他者の研究内容に触れて、広い視野を持って課題を解決する能力を養う。 履修学生に対して担当教員を決定する。	

基盤的教育科目	基盤特別演習	実験動物学基盤特別演習	<p>本演習では、動物実験を行う上で基本的かつ重要な項目である実験動物の管理と運営、動物愛護および法令に関する指針についてディスカッション方式で学ぶ。特に本演習では、近年その重要度が増している実験動物の獣医学的ケアの重要性について理解することを目的とする。</p> <p>実験動物の適性な管理や動物愛護および倫理について学ぶと共に、動物実験を取り巻く法令、規範および原則について学ぶ。特に動物実験を行う際に求められる獣医師の役割について、獣医学的ケアの観点から考察する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		細菌学基盤特別演習	<p>細菌学に関する最新のトピックス及び情報を題材とした英文資料を講読し、その内容を発表し批判的検討を加えることにより、英語による論理的思考及び学術的論考の基礎を涵養する。</p> <p>細菌の分類、型別、病原因子、抗菌薬耐性、バクテリオファージに関する各英文資料（総説、原著論文、単行本等）の内容を、それぞれ3回の授業において学生がスライド等を用いて発表し、教員が内容の理解のため助言指導する。また、資料の内容に対する批判的検討を行う。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥類感染症学基盤特別演習	<p>鳥類を宿主とする寄生体の病態発現や分子疫学に関する基礎および応用的研究の状況をおよび分子生物学解析法について講述し、受講学生は模擬データを用いた解析等を通し実践的な力を身につける。</p> <p>鳥類を宿主とする寄生体の侵襲による病態発現や分子疫学に関する基礎および応用的研究技術について、近年の事例をもとに実際の解析手法を紹介する。受講学生は得られた成績を考察し、実践的な解析手法を学ぶ。授業では、できるだけ多くの事例を通し病原体の取扱いや分子生物学解析法を実践的に教授する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		獣医診断治療学基盤特別演習	<p>小動物臨床分野における最新の診断法と治療技術の演習を実施し、特定難病や遺伝性疾患の高度な診断と治療が可能となる能力を養成する。</p> <p>生活習慣病、老年病、循環器病、神経病における診断法と治療法に関する演習を行う。特に、特定難病や遺伝性疾患である心筋症、肥満の血液検査法、生化学的検査法、遺伝子診断法、超音波診断法、ラジオイムノアッセイの演習を行う。また、難治性てんかんに対する内科診断と治療法に関する演習を実施する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		家畜生殖工学基盤特別演習	<p>産業動物、伴侶動物及び実験動物の生殖工学の基礎及び応用的な演習である。生殖工学を利用した獣医学的観点から、生殖工学による学術的、産業的なメリット/デメリット及び改善や開発が必要な技術について討議、議論（演習）を行う。</p> <p>産業動物、伴侶動物及び実験動物の生殖工学手法について議論により理解を深めることを目標とする。</p> <p>家畜生殖工学概論、家畜生殖工学の技術解説、家畜生殖工学の応用事例、家畜及び実験動物における生殖工学技術の最新の知見と獣医領域の展望について、精子、卵子及び胚（受精卵）を対象として演習を実施する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		難病診断治療学基盤特別演習	<p>腫瘍をはじめとする難病に関して、最新の国内外の研究論文を用いて基礎実験および臨床データについてパワーポイント等を用いて討論し、各種疾患ごとに適切な診断および治療法を選択できるように理解を深める。</p> <p>本演習の最初の4回は、腫瘍をはじめとする難病に関する診断に関して、一般的な各種画像診断技術の基礎および臨床研究について議論する。残りの11回は、主に腫瘍に関する治療に関して、いわゆる3大治療以外の各種治療法について基礎および臨床研究について議論する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	

基盤的教育科目	基盤特別実験	獣医解剖学基盤特別実験	<p>生体組織の形態学的解析に必要な標本作製のための技術や原理を理解し、習得する。また、目的に適った検索技術を選択し実践できる能力を養成する。</p> <p>おもに光学顕微鏡用（一般染色、特殊染色、免疫組織化学、in situ ハイブリダイゼーション）の試料の作成、検出方法の原理や技術を学ぶ。また、電子顕微鏡用試料（走査型電顕）の作成もおこなう。その後、得られた組織標本の観察、計測、解析を行い、組織標本作成の原理や一連の流れを理解し、技術を習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		基礎獣医機能学基盤特別実験	<p>生体より摘出した組織や細胞を用いて、生理機能や薬物応答を調べることにより、新たな生理活性や薬理活性を探索する基礎的能力を養成する。これらの手法を理解・修得することにより、個体レベルでの生理学的及び薬理学的機能についての理解を醸成する。</p> <p>本実験では、主に脊椎動物より分離した組織や単離細胞を用いて、それらの生理機能や薬物反応についての基本技術を理解し、習得する。得られた結果について、データ解析、プレゼンテーション及びレポートを作成し、基礎生理・薬理学知識と論文作成のための能力向上を図る。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		獣医感染病理学基盤特別実験	<p>動物の感染症の病原体を動物または培養細胞へ接種する、材料の保存・採取の方法、標本作成、染色の方法について学習・実践して、基本的手技を習得させることを目的とする。</p> <p>感染病原体を動物（または培養細胞）に接種する方法、材料採取の方法、免疫組織化学的あるいは細胞染色の方法について実際に作業を行い、それらの基本手技を習得する。さらに病原体が有する病原性を調べるために必要な方法について、受講者自身の考えをまとめさせ、それを実現するための方法と問題点について討議することを通じて、感染症の制圧のための基盤的技術と思考力を養う。</p> <p>履修学生に対して担当教員を決定する。</p>	
		実験動物学基盤特別実験	<p>動物実験を適切に行う為には、実験動物の取り扱い（ハンドリング）から各種実験動物の解剖学的な構造など、幅広い技術が要求される。これらのことから、実験動物に関する一連の手技について実習形式で学習することにより、適切な動物実験技術を体得する。特にマウスを中心としたげっ歯類に関する実験動物の保定や麻酔等、基本的な実験手技を習得する。また実験動物の一般的な微生物学的検査に加え、特に発生工学技術を実施することにより、動物実験に関する手技全体について理解する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		細菌学基盤特別実験	<p>細菌学実験に関する基礎的技能及び手技を身につけるため実験を行うとともに、結果を分かりやすく公表するための図表の作成を行い結果について考察する。</p> <p>湿熱滅菌・乾熱滅菌・ガス滅菌等の原理及び適用、無菌操作の意義、各種培地の調製法、感染性疾患の仮想的集団事例を設定し臨床検体及び環境検体からの病原細菌の分離、分離菌株の血清型別・DNA型別に基づく疫学解析法、薬剤感受性試験及び抗菌薬耐性の菌株間伝達並びにその遺伝学的解析法等に関する実験を実施し、実験結果について討論する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		鳥類感染症学基盤特別実験	<p>鳥類における感染症学分野で学位論文作成に必要な基礎的実験技術やその背景となる理論を実技を通して理解し習得する。</p> <p>鳥類感染症学分野で必要とされる、病原体の基本的取扱いや感染実験、関連法規、病原体遺伝子の検出、その解析などの実験技術やその背景となる理論について、実技を通して教授する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		獣医診断治療学基盤特別実験	<p>動物の内科的疾患の診断と治療に関する基礎的および応用的な実験を行い、特定疾患や難病に対する病態および診断法と治療法を理解させるとともに、新たな診断治療技術の開発や評価能力を学ぶ。</p> <p>動物の内科的疾患の診断と治療に関する基礎的および応用的なアプローチによる実験を実施する。特に、生活習慣病、老年病、高脂血症、循環器病、腎臓病、神経病の最新情報、特定難病や遺伝性疾患である肺高血圧症、心筋症、高コレステロール血症、ストレス関連因子について実験する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	

基盤的教育科目	基盤特別実験	家畜生殖工学基盤特別実験	<p>家畜における生殖工学手技の習得を行う。生殖細胞の採取・培養、生殖細胞の凍結保存技術、胚の作製、卵子・胚の操作など、基礎から比較的高度な手技や方法についての技術の習得を実験で行う。生殖工学の基礎的及び一般的技術の習得を目標とする。</p> <p>生殖細胞（精子、卵子、胚）の取扱い、精子の検査、卵子・胚の培養及び検査、精子・卵子・胚の低温保存（冷蔵、凍結）及びマイクロマニピュレータを使用する顕微操作を中心に実験を実施する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		難病診断治療学基盤特別実験	<p>腫瘍をはじめとする難病に関する診断方法の基礎と特殊診断方法についてその技術を習得する。また、新規治療法を開発する上で、必要な基礎的な実験室の使用法、試薬の調整方法および実験動物の取り扱い方法を理解した上で、in vitroおよびin vivo実験における実験手技を習得する。</p> <p>本実験の最初の8回は、腫瘍をはじめとする難病に関する診断に関して実験動物を用いて各種画像の撮影方法、読影および解析方法を習得する。残りの11回は、in vitroおよびin vivo実験において、治療法および解析装置を用いて治療効果の判定方法を習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
スペシャリスト養成科目	家畜衛生・公衆衛生科目群	スペシャリスト養成コア科目	<p>（概要）家畜伝染病や大規模食中毒等の発生予防と家畜伝染病発生時の防疫や大規模食中毒等が発生時に、リーダーとして適切に対処するために必要となる家畜衛生および公衆衛生分野の技術と知識の基礎を講述する。家畜衛生については、寄生虫やウイルスを原因とする疾病、野生動物と疾病との関わり、臨床と家畜衛生について実例を挙げ解説する。公衆衛生分野については、主に国内や地方自治体による公衆衛生行政について講述する。</p> <p>本講義では、主に以下の4項目に関する事項を教授する。</p> <p>(1) 動物用医薬品、(2) 問題となる感染症制御の基礎、(3) 感染症伝播における野生動物の役割と制御、(4) 国内の動物衛生や公衆衛生行政の概要</p> <p>（オムニバス方式／全8回） （8 山口 剛士／2回） 以下の項目について講義を行う。(1) 国内の動物衛生、(2) 野生動物と家畜衛生 （21 笛吹 達史／1回） 以下の項目について講義を行う。(1) 動物用医薬品と家畜衛生 （18 金 京純／1回） 以下の項目について講義を行う。(1) 寄生虫・衛生害虫と家畜衛生 （38 大場 恵典／1回） 以下の項目について講義を行う。(1) 臨床と家畜衛生 （6 伊藤 壽啓／2回） 以下の項目について講義を行う。(1) 国内の公衆衛生行政概要、 (2) 地方自治体における公衆衛生行政 （8 山口 剛士・6 伊藤 壽啓／1回）（共同） 以下の項目について講義を行う。(1) 総括</p>	双方向授業 オムニバス方式・共同（一部）
		家畜衛生・公衆衛生特別講義Ⅱ	<p>家畜伝染病や大規模食中毒等の発生予防と家畜伝染病発生時の防疫や大規模食中毒等発生時に、リーダーとして適切に対処するために必要となる家畜衛生および公衆衛生分野での技術と知識を地方自治体の協力を得て実施する実践的演習を通して習得する。</p> <p>本演習は、主に以下の5項目について教授する。</p> <p>(1) 病原体の適切な取扱い、(2) 農場での飼養衛生管理基準の実際、(3) 家畜伝染病発生時における対応、(4) 食中毒原因菌やウイルスの適切な取扱い、(5) 大規模食中毒発生時における適切な対応</p> <p>上記の内容を5名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
		スペシャリスト特別講義	<p>家畜の繁殖機能、繁殖障害の診断と治療を多角的に講義する。繁殖機能の講義では、生殖器の構造と機能、内分泌、雌の繁殖生理、雄の繁殖生理、交配・受精・着床、妊娠と分娩に関する最新の知見を解説する。繁殖障害の講義では、最新の診断法と治療法を解説する。</p> <p>産業動物及び伴侶動物の繁殖疾患の診断および病態解明の理論や技術を理解することを目標とする。</p> <p>牛、馬、豚、犬及び猫について、臨床繁殖の理論と技術（繁殖生理・繁殖機能、繁殖障害・不妊症治療・繁殖機能の人為的調整）を講義する。</p>	双方向授業

スペシヤリスト養成科目	家畜衛生・公衆衛生科目群	スペシヤリスト特別講義	高病原性鳥インフルエンザ特別講義	感染症発生時における基本的対処と感染症制御の基本的な考え方を紹介すると共に、高病原性鳥インフルエンザの国内発生を事例として、原因ウイルスの性状、迅速診断技術や封じ込めの考え方を概説する。講義の中では家禽だけでなく野鳥や動物園動物における本病発生時の封じ込めについても事例をもとに解説する。 感染症発生時における基本的対処と感染症制御の基本的な考え方について、高病原性鳥インフルエンザの国内発生例をもとに、原因ウイルスの性状、迅速診断技術や封じ込めの考え方を概説する。	双方向授業
			動物感染症予防医薬品学特別講義	産業動物の生産性に影響する多様な感染性疾患に対し、日本では、種々のワクチン製剤が認可され、予防対策に活用されている。本講義では、畜産業における感染症予防の重要性を理解するため、これらワクチン製剤について学ぶ。 日本における動物用医薬品の製造販売承認、再審査や再評価などの許認可制度につづき、牛、豚、馬、鶏、魚類等の産業動物用に認可された、ウイルス感染症や細菌感染症のワクチン製剤について、それらの開発にいたった経緯、製法、使用方法から副作用報告の状況まで教示する。	双方向授業
			感染症の制圧特別講義	人類はこれまで様々な感染症と対峙し、一部についてはその制圧やコントロールに成功している。感染症対策の歴史における法制度の整備や診断体制の確立の変遷を理解し、今後感染症の撲滅に与える能力を有する人材の育成を目指す。 本講義では各感染症との人類の戦いの歴史に触れ、今後撲滅が期待される疾病について、その意義や戦略を考える。前半では現在までにコントロールされてきた感染症について概説する。後半では、現在撲滅に向けて対応が試みられている疾病を取り上げ、講義に加えて受講者に能動的に対策を考えさせる機会を設ける。	双方向授業
			獣医寄生虫病学特別講義	獣医臨床、および公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、診断、治療、予防および宿主の防御機構について理解する。また、寄生虫による病害発生の機序、流行の現状と疫学、実践されている様々な対策法について学ぶ。 家畜および人獣共通寄生虫の重要種について、それらの病原性、診断、治療および対策について学び、人や家畜の病原体としての重要性だけでなく、生物の多様性、様々な生存・伝播戦略を宿主の行動や食物連鎖とともに理解する。	双方向授業
			牛病学特別講義	牛の個体診療において重要でありながら省かれることの多い「臨床検査」に関して、細胞診、画像診断法（X線検査、超音波検査、CT検査、MRI検査、内視鏡検査）、バイオプシー検査を中心に解説し、また二次診療病院における手術法についても紹介する。 各講義時間ごとにスライドを用いて講義を行う。講義には実際の症例情報を用い、質疑応答形式の座学で講義を進める。各講義ごとの配布資料を事前に配り、予習・復習を行ってもらおう。	双方向授業
スペシヤリスト特別演習	獣医繁殖学特別演習	（概要）産業動物及び伴侶動物の繁殖機能及び繁殖障害に関する最新の知見について、国内外の文献等を使用して学術的、産業的なメリット／デメリット及び改善や開発が必要な技術について討議、議論（演習）を行う。 産業動物及び伴侶動物の繁殖機能と繁殖疾患の知識をアップデートして議論により理解を深めることを目標とする。 牛、馬、豚、犬及び猫の繁殖機能（発情周期、生殖周期、発情、妊娠）及び繁殖障害に関する最新の知見について、論文講読により演習を実施する。 （オムニバス／全15回） （10 菱沼 貢／11回） 家畜の繁殖機能及び繁殖障害総論、馬、豚、犬及び猫の繁殖機能及び繁殖障害に関する演習を実施する。(1) 家畜の繁殖機能及び繁殖障害総論、(2) 馬の繁殖機能に関する最近の知見、(3) 馬の繁殖障害に関する最近の知見、(4) 豚の繁殖機能に関する最近の知見、(5) 豚の繁殖障害に関する最近の知見、(6) 犬の繁殖機能に関する最近の知見（発情周期）、(7) 犬の繁殖機能に関する最近の知見（生殖周期）、(8) 犬の繁殖障害に関する最近の知見（発情）、(9) 犬の繁殖障害に関する最近の知見（妊娠）、(10) 猫の繁殖機能に関する最近の知見、(11) 猫の繁殖障害に関する最近の知見 （30 西村 亮／4回） 牛の繁殖機能及び繁殖障害に関する演習を実施する。(1) 牛の繁殖機能に関する最近の知見（発情周期）、(2) 牛の繁殖機能に関する最近の知見（生殖周期）、(3) 牛の繁殖障害に関する最近の知見（発情）、(4) 牛の繁殖障害に関する最近の知見（妊娠）	学生移動 オムニバス方式		

スペシヤリスト養成科目	家畜衛生・公衆衛生科目群	スペシヤリスト特別演習	<p>高病原性鳥インフルエンザ特別演習</p> <p>鳥インフルエンザウイルス感染症の診断、分離・同定および分離ウイルスの輸送、BSL3施設での操作など、実社会で実際に行われている作業について、セミナー参加、見学およびシミュレーションを通し体験的に習得する。</p> <p>高病原性鳥インフルエンザの診断、分離・同定および分離ウイルスの輸送について、BSL3施設での操作など、実社会で実際に行われている作業について、セミナー参加、見学およびシミュレーション作業を行う。受講学生は、これらの理論と実際を体験的に学ぶ。</p> <p>上記の内容を2名の教員が分担せず共同で行う。</p>	学生移動 共同
		獣医寄生虫病学特別演習	<p>獣医臨床、および公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、診断、治療、予防および宿主の防御機構について理解する。また、寄生虫による病害発生の機序、流行の現状と疫学、実践されている様々な対策法について学ぶ。</p> <p>獣医臨床および公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、診断、治療、予防、および宿主の防御機構について学ぶ。各種寄生虫の環境および宿主動物における発育、宿主間の伝播様式について学び、人や家畜の病原体としての重要性だけでなく、生物の多様性、様々な生存・伝播戦略を宿主の行動や食物連鎖とともに理解する。</p>	学生移動
		牛病学特別演習	<p>牛臨床現場における実践演習として、鳥取大学動物医療センターで診断した症例の臨床データを基に診断・治療のプロトコルを立てる。また、実際の症例がある場合には、診断過程や治療過程を実践してもらう。</p> <p>(1) 各講義時間ごとにスライドを用いて、質疑応答形式の座学で講義を進める。各講義ごとの配布資料を事前に配り、予習・復習を行ってもらう。(2) 実際の症例が来院した場合には、画像検査を含め、実際に診療に参加する。(3) 論文作成技術の向上をめざし、産業動物臨床学に関連した論文をピックアップし、レビュー形式でその内容をまとめる。</p>	学生移動
	One Health特別講義II	<p>（概要）One Healthに関連する多様な課題のうち食糧供給、化学物質、環境衛生、野生動物、薬剤耐性菌、寄生虫性疾患について概説し、これらの課題に対応する方策のひとつとしてのリスクアナリシスの概念を概説する。</p> <p>One Healthに関連する諸課題として、食糧供給、化学物質、環境衛生、野生動物、薬剤耐性菌、寄生虫性疾患を取り上げ概説する。また、これらの解決に向けた方策のひとつとしてのリスクアナリシスの概念について論考する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） （5 森田 剛仁／2回） 以下の項目について講義を行う。(1) One Healthと化学物質、(2) One Healthと環境衛生</p> <p>（4 村瀬 敏之／3回） 以下の項目について講義を行う。(1) One Healthと薬剤耐性菌、(2) One Healthと寄生虫性疾患、(3) リスクアナリシス</p> <p>（53 大屋 賢司／1回） 以下の項目について講義を行う。(1) One Healthと野生動物</p> <p>（52 伊藤 直人／1回） 以下の項目について講義を行う。(1) One Healthと食糧供給</p> <p>（4 村瀬 敏之・5 森田 剛仁／1回）（共同） 以下の項目について講義を行う。(1) 授業のまとめ</p>	双方向授業 オムニバス方式・ 共同（一部）	

スペシヤリスト養成科目	One Health科目群	スペシヤリスト養成コア科目	<p>(概要) One Healthに関する最新のトピックス及び情報を題材とした英文を講読し、その内容を発表し批判的検討を加えることにより、論理的思考及び学術的論考の基礎を涵養する。また、病原体を取り扱う施設・設備を実際に使用し、実践的能力を身につける。One Healthに関係する諸課題のうち、食糧供給、環境衛生、人獣共通感染症、薬剤耐性菌に関する各英文資料(総説、原著論文等)の内容を、それぞれ3回の授業において発表し、教員が内容の理解のため助言指導する。また、資料の内容に対する批判的検討を行う。また、病原体を取り扱う施設・設備を実際に使用し、仕様や原理を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4 村瀬 敏之/9回) 以下の項目について演習を行う。(1) 食料供給とOne Healthに関する課題の把握と検討する文献資料の選択、(2) 食料供給とOne Healthに関する文献資料の内容の発表、(3) (2)の文献資料に関する批判的検討、(4) 薬剤耐性菌に関する課題の把握と検討する文献資料の選択、(5) 薬剤耐性菌に関する文献資料の内容の発表、(6) (5)の薬剤耐性菌に関する文献資料に関する批判的検討、(7) 安全キャビネットの使用に関する演習、(8) P3施設の使用に関する演習、(9) 病原体の輸送に関する演習</p> <p>(5 森田 剛仁/6回) 以下の項目について演習を行う。(1) 環境衛生とOne Healthに関する課題の把握と検討する文献資料の選択、(2) 環境衛生とOne Healthに関する文献資料の内容の発表、(3) (2)の文献資料に関する批判的検討、(4) 人獣共通感染症に関する課題の把握と検討する文献資料の選択、(5) 人獣共通感染症に関する文献資料の内容の発表、(6) 人獣共通感染症に関する文献資料に関する批判的検討</p>	オムニバス方式
		スペシヤリスト特別講義	<p>(概要) 獣医病理学的知識を応用して、各種動物感染症ならびに人獣共通感染症の病理学的重要事項について学習し、感染症の制圧に貢献するスペシヤリストの養成を目的とした講義である。パワーポイントスライド、学術論文、インターネットを活用した講義形式により、代表的な動物の感染症・人獣共通感染症の特徴について説明する。また類似疾患の病理学的な鑑別ポイントについて解説するとともに、グローバルな視点で最新の感染症の流行状況やその対策についてリアルタイムに学習・考察する。</p> <p>(オムニバス形式/全8回) (17 寸田 祐嗣/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) イントロダクション(本講義の目的;講義の進め方を説明)、(2) 狂犬病の特徴とその問題点、最新の研究知見、(3) インフルエンザの特徴とその問題点、最新の研究知見、(4) 結核の特徴とその問題点、最新の研究知見</p> <p>(5 森田 剛仁/4回) 以下の項目について講義を行う。(1) プリオン病の特徴とその問題点、最新の研究知見、(2) 新興感染症の最新の例(出血熱、ジカ熱など)、(3) 感染性因子による腫瘍性疾患の最新の知見、(4) まとめと総合討論</p>	双方向授業 オムニバス方式
		ウイルス工学特別講義	<p>ウイルス感染症における感染機構ならびに病原性発揮機構の最新の知見を概説するとともに、ウイルスを用いた組換えウイルス作出技術に関する知識およびその倫理的な運用方法について論考する。感染症対策には原因病原体の特徴を詳しく理解する必要がある。本講義では微生物学からさらに発展した感染理論および病原性発揮機構を解析するための工学的手法を解説する。ウイルス実験に必須な培養細胞技術と無菌操作およびウイルス培養、遺伝子増幅、リバースジェネティクス法を用いた組換え体作出およびその検証について具体的事例を交えながら講義する。</p>	双方向授業
		新興・再興細菌感染症学特別講義	<p>細菌を原因とする、新しく出現した、あるいは再び発生数が増加している感染症(新興・再興感染症)の特徴、主な疾患の原因菌の特徴、注目される抗菌薬耐性機構に関する最新の知見を概説するとともに、早期診断及び蔓延防止対策について論考する。新興・再興感染症は、新しく出現した、あるいは再び発生数が増加している感染症である。多くは人獣共通のウイルス感染症であるが、細菌が原因のものも存在する。本講義では、おもな新興・再興細菌感染症ならびに注目される薬剤耐性菌及びその耐性機構を概説する。加えてこれらの疾患の診断法、サーベイランス、発生や病原体の検出に係る情報共有のネットワークの構築に関する最近の状況を解説する。</p>	双方向授業

スペシャリスト養成科目	One Health 科目群	スペシャリスト特別講義	<p>代表的な人獣共通感染症であるインフルエンザを題材として、その公衆衛生上の重要性を生態学および環境学的側面から理解し、そこから感染予防対策上の問題点を抽出して、その解決策を導き出す能力を修得する。</p> <p>典型的なウイルス性人獣共通感染症であるインフルエンザを代表例として、比較ウイルス学的観点から、その原因ウイルスの病原性獲得変異機構、宿主域制限因子の分子基盤、パンデミックウイルスの出現予測や流行リスク分析、バイオテロ問題まで、最新情報をもとに解説する。</p>	双方向授業
		ウイルス性人獣共通感染症の発生、診断と対策特別講義	<p>近年、鳥インフルエンザ、重症急性呼吸器症候群 (SARS)、牛海綿状脳症 (BSE) 等、人にとっては新たな病原体による人獣共通感染症が多数出現し、大きな問題となっている。本講義では、なかでもウイルス感染による人獣共通感染症について、過去の発生を具体例として取りあげて学習する。</p> <p>講義では各回において1つのウイルス性人獣共通感染症を取りあげる。学術論文等から得た具体的な情報を基に、過去の発生事例における状況、疫学、診断、対策等について学習する。</p>	双方向授業
		スペシャリスト特別演習	<p>獣医病理学的知識を応用して、感染症の診断・制圧に貢献するためのスペシャリストを目指すための演習である。</p> <p>組織標本と正立顕微鏡、バーチャルスライドシステムを活用して組織病変を実際に観察して、病理組織学的所見を記録し、考慮すべき診断名を挙げる演習を行う。さらに、確定診断のために必要な特殊検査や鑑別すべき疾患を含めて、説明する演習を行う。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。</p>	学生移動 共同
		感染症対策に関するOne Health特別演習	<p>(概要) 学生が本籍を置く大学でない相手大学の教員研究室に滞在することにより、One Healthに基づく感染症対策の取組を実践する上での課題を整理する際に必要とされる客観的なデータ解釈、論理的思考、批判的検討に係る能力を涵養する。</p> <p>以下の事項を演習により実施する。</p> <p>(1) 感染性微生物の取扱いに関する演習を行う。(2) 獣医学・医学関連機関等が公表する感染症の統計データの解析を行う。(3) 科学雑誌に公表されている感染症対策に関する論文を題材に、論理構成やデータ提示方法の改善点を検討する。(4) One Healthに基づく感染症対策における課題の整理を行う。(5) 上記課題解決に向けた対策や研究の立案を行う。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (4 村瀬 敏之/7回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) 感染性微生物の取扱い：バイオセーフティー、(2) 感染性微生物の取扱い：輸送、(3) 細菌感染症対策関連論文の講読、(4) 細菌感染症対策関連論文からみた課題抽出、(5) 感染症対策における課題の整理、(6) 感染症対策における課題解決に向けた対策の立案、(7) (6)の発表および討論</p> <p>(16 尾崎 弘一/8回)</p> <p>以下の事項について演習を行う。(1) 感染性微生物の取扱い：バイオセキュリティ、(2) 感染症関連統計データの収集、(3) 感染症関連統計データの解析、(4) 感染症関連統計データからみた課題抽出、(5) ウイルス感染症対策関連論文の講読、(6) ウイルス感染症対策関連論文からみた課題抽出、(7) 感染症対策における課題解決に向けた研究計画の立案、(8) (7)の発表および討論</p>	学生移動 オムニバス方式

<p>スペシヤリスト養成科目</p>	<p>One Health 科目群</p>	<p>スペシヤリスト特別演習</p> <p>鳥インフルエンザの確定診断特別演習</p>	<p>(概要) 昨今、野生の水鳥で鳥インフルエンザの事例が報告されており、各自治体の獣医師が発見当初の対応をする場合がある。本演習ではこのような事態に対処するために必要な手技を身に付ける。感染実験を行うにあたって必要な知識を講義で学んだ後、BSL2施設内で、鶏を用いたウイルス感染実験を、防護服の着用などBSL3を模した要領で行う。本実験を通して、ウイルスの迅速診断法や分離法等について学ぶ。受講者は結果を「模擬的な確定診断」として、レポートに纏めて提出する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 伊藤 壽啓/2回) 感染実験を行うにあたって必要な知識を講義する。(1) 感染実験を行うに当たってのガイダンス、(2) 感染実験室の使用法</p> <p>(28 曾田 公輔/6回) BSL2施設内で、鶏を用いたウイルス感染実験を、防護服の着用などBSL3を模した要領で行う。(1) 鳥類へのウイルス接種、(2) スワブの採材法、(3) 迅速診断キットの使用法、(4) 鳥類の解剖、(5) 臓器乳剤の作成法、(6) 検体の輸送</p> <p>(19 伊藤 啓史/7回) ウイルスの迅速診断法や分離法等について習得させる。(1) 発育鶏卵を用いたウイルス分離、(2) 赤血球凝集試験、(3) 赤血球凝集阻止試験、(4) NI試験 (抗原抗体反応)、(5) NI試験 (発色反応および判定)、(6) 遺伝子検査法 (ウイルスRNA抽出およびRT-PCR法)、(7) 遺伝子検査法 (HA開裂部位のアミノ酸配列の決定)</p>	<p>学生移動 オムニバス方式</p>
<p>難病治療・創薬科目群</p>	<p>スペシヤリスト養成コア科目</p>	<p>難病治療・創薬特別講義Ⅱ</p>	<p>(概要) 獣医学を基盤とする基礎研究の成果を動物のみならずヒト臨床へ応用させ、その結果生じたヒトおよび獣医臨床領域における問題点をさらに基礎研究へとフィードバックさせる能力を備えたトランスレーショナルリサーチ養成に特化した内容を学習する。細胞から生体までを取り扱う基礎獣医学的観点を始めとして、先端獣医臨床へと応用できる講義を受講することにより、トランスレーショナルリサーチの理解とその能力を醸成させる。特に、生体の様々な調節機構を理解し、それらを基盤として臨床診断および治療へと結びつけるための最新の知識を修得させる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (2 保坂 善真/1回) 機械的ストレスが生体機能に及ぼす影響について講述する。 (14 北村 直樹/1回) 生体内の水分調節機構について、生理機能と病態について講述する。 (3 太田 利男/1回) 神経および感覚受容器の障害によって発現する感覚異常について、その発現機序と治療標的について講述する。 (11 竹内 崇/1回) ミルク由来の多機能タンパク質の作用機序ならびに創薬への応用性について講述する。 (10 菱沼 貢/1回) 哺乳動物において発生する種々の生殖器疾患とその薬物治療について講述する。 (9 岡本 芳晴/1回) 温熱化学療法をはじめとする最新のがん治療法について講述する。 (1 日笠 喜朗/1回) 心筋症等の循環器疾患の新たな診断方法ならびにその治療方法について講述する。 (12 今川 智敬/1回) CTおよびMRIを応用した最新の画像診断技術による腫瘍の診断法について講述する。</p>	<p>双方向授業 オムニバス方式</p>

<p>スペシヤリスト養成科目</p>	<p>難病治療・創薬科目群</p>	<p>スペシヤリスト養成コア科目</p> <p>難病治療・創薬特別演習</p>	<p>(概要) 分子・細胞レベルから個体レベルを扱う中で身につけた生命現象を総合的に把握する力を基盤に、獣医療の高度化を推進し、高度診療拠点機能を通じて難治性疾患治療に関わるリーダーとして分野を超えて問題を探究、解決し、異分野を橋渡しする能力を備えたトランスレーショナルリサーチャー養成のための演習を実施する。</p> <p>この演習では基礎獣医学的視点から細胞や個体を俯瞰し、最先端臨床研究へと結びつけることが出来る幅広い範囲を網羅し、基礎から臨床研究への架け橋となる内容を理解する。特に薬物治療・創薬に必要な薬物の特性と病態への影響を中心に、様々な病態への応用性について理解を深めさせる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (13 割田 克彦／1回) がん細胞に特異的な代謝機能の変化を応用した新たながん制御方法について理解させる。 (27 樋口 雅司／1回) 下垂体幹細胞の起源ならびにその分化機序について理解させる。 (14 北村 直樹／1回) 体性感覚ニューロンと感覚器官の機能評価について理解させる。 (15 高橋 賢次／1回) 種々の細胞増殖因子の作用と病態への関与について理解させる。 (22 原田 和記／1回) 動物用抗菌剤の活性評価を目的とした薬理パラメータの意義について理解させる。 (29 辻野 久美子(兼)／1回) アトピー性皮膚炎自然発症モデルを用いた病態解析方法について理解させる。 (23 大崎 智弘／1回) がんに対する光線力学的診断と治療法について理解させる。 (24 伊藤 典彦／1回) 新規色素性角膜炎の治療法について理解させる。 (25 東 和生／1回) キッチン質を利用した生体材料の開発とその評価法を理解させる。 (12 今川 智敬／1回) MRI撮像の原理と特殊撮像方法について理解させる。 (30 西村 亮(兼)／1回) 黄体の生理機能に基づいた繁殖障害制御法を理解させる。 (11 竹内 崇／2回) (1) 慢性腎不全モデル動物を用いた病態評価法について理解させる。(2) 総合討論 (24 柄 武志／1回) 病態発現における薬剤耐性遺伝子と病原性について理解させる。 (31 村端 悠介(兼)／1回) 吸入麻酔における麻薬性鎮痛薬の有効性を理解させる。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>スペシヤリスト特別講義</p>	<p>組織形態学特別講義</p>	<p>(概要) 脊椎動物の発生過程において、上皮系組織と間葉系組織を構成する細胞は正常な形態形成に重要な役割を演じている。本講義では、上皮系組織および間葉系組織に焦点を当て、正常な形態形成の過程とその機構を理解する。また、個体の正常発生からの逸脱についても最新の知見を交えて講義を行う。</p> <p>はじめに、上皮系組織および間葉系組織の全体像を講義する。続いて、これらの組織が形成する器官の特徴について説明する。さらに、個体の発生異常について形態学的、分子生物学的な視点から詳説し、上皮系および間葉系の両組織に関する総合的な理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (2 保坂 善真／4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 個体発生における間葉系組織、(2) 間葉系組織の形態学的特徴、(3) 間葉系組織と器官形成、(4) 正常発生における上皮間葉転換の役割</p> <p>(13 割田 克彦／4回) 以下の項目について講義を行う。(1) 個体発生における上皮系組織、(2) 上皮系組織の形態学的特徴、(3) 上皮系組織と器官形成、(4) 形態異常に関わる因子</p>	<p>双方向授業 オムニバス方式</p>

スペシヤリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシヤリスト特別講義	<p>獣医生体機能学特別講義</p> <p>生体機能の恒常性は様々な組織や細胞によって維持されている。特に、神経細胞や分泌細胞は神経伝達物質やホルモンを介して恒常性の維持に重要な役割を演じている。多くの疾患や病態発現は恒常性の乱れが原因であり、その原因や分子メカニズムは解明されつつあるものの、未だ不明な点も多い。本講義では、神経系や内分泌系が持つ生理機能や薬物応答に焦点を当て、恒常性制御における生理機構、シグナル伝達機構及び治療薬などを含む薬理作用メカニズムについて遺伝子レベルから個体レベルにわたる基礎的内容から最新の情報までを教授する。</p> <p>生体には体内環境の恒常性を維持するため、また種々の外部環境からの刺激に応答するための神経系や内分泌系が働いている。これらの生理機能を理解するための分子基盤とその解析法について概説し、更に、恒常性を回復させる薬物応答の基となるシグナル伝達機構について論理的に理解し、研究への応用へと進展させる。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	双方向授業
			<p>遺伝情報制御学特別講義</p> <p>遺伝情報を調べる分子生物学的解析法は基礎獣医学から臨床獣医学まで不可欠である。本講義では遺伝子の構造、発現および機能解析法について原理と手順を学び、実際の研究や診断における使用例を理解する。</p> <p>分子生物学の基礎を概説する。また、遺伝子の構造、発現およびその調節ならびに機能の解析に利用されている分子生物学的解析法の原理を各回一つの手法を取り上げて解説するとともに、実際の疾患を例にして診断や治療への応用について概説する。</p>	双方向授業
			<p>実験動物医学専門医養成特別講義</p> <p>実験動物分野における獣医師の果たす役割は大きく、要求される業務内容も日々増加している。そのため動物実験に関する基礎的な内容のみならず、より高度な知識等が現場では要求される。以上のことから本講義では特に、実験動物医学専門医を養成することを目的として授業を行う。</p> <p>動物実験において特に重要な実験動物代替法や3Rに関する問題点について検討すると共に、関連法規や基準についても検討する。また実験動物の感染症と疾患についてより理解を深めると共に、発生工学的手法に関する専門的な知識について学ぶ。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で行う。</p>	双方向授業 共同
			<p>疾患モデル動物学特別講義</p> <p>疾患モデル動物の概念とその作出方法や主な疾患モデル動物の特徴や応用について講義を行う。また、近年の生命科学分野で主流となっている遺伝子改変動物の作製技術やその管理についての詳細と実例を解説する。</p> <p>疾患モデル動物の概念と作出法等について総論を学ぶ。また、腫瘍・免疫・代謝等に関連する代表的な疾患モデル動物の特徴や応用について理解する。発生工学的手法の基本について学び、トランスジェニック・ノックアウト・ゲノム編集等、各種の遺伝子改変技術について理解し、その実例を知る。これら遺伝子改変動物を用いた実験に関連する法令・規則や実際の飼養管理方法について理解する。</p>	双方向授業
			<p>獣医内科診断治療学特別講義</p> <p>小動物臨床分野における特定難病の原因と病態を理解させ、先端的な診断法および治療法を学ぶことにより、臨床分野における難病研究と診断および治療法のスペシャリストを養成することを目標とする。</p> <p>呼吸循環器疾患の特定難病の原因、病態、診断法および治療法に関する基礎および臨床的事項についての講義を行なう。特に肺高血圧症、心筋症および血栓症については、重点的に最新情報を講義するとともに、それらの特異的な診断法および治療法について講義する。</p>	双方向授業
			<p>獣医感染症内科学特別講義</p> <p>伴侶動物の細菌感染症に対する抗菌治療に際して、必要となる薬剤耐性菌（特に多剤耐性菌）に関する知識と抗菌薬の科学的根拠に基づいた使用方法について講義を行う。</p> <p>伴侶動物における薬剤耐性菌に関する最新知見について講義する。また、抗菌薬の薬物動態学-薬力学（PK/PD）理論についても紹介し、その応用法についても説明する。さらに、薬剤耐性菌に対する対策として、抗菌薬の適正使用や慎重使用、院内感染対策についても講義する。</p>	双方向授業
			<p>神経機能評価学特別講義</p> <p>神経疾患における神経機能の客観的評価方法について概説する。具体的には感覚誘発電位、視覚誘発電位、聴覚誘発電位、末梢神経電動速度などの電気生理学的手法をベースに、病態を正確に把握するための神経機能評価と疾患ごとの特徴について理解する。</p> <p>中枢神経系、末梢神経系、運動器および感覚器の異常を検出するための電気生理学的手法として、感覚誘発電位、視覚誘発電位、聴覚誘発電位、脳膜電位、神経伝導速度、誘発筋電図および脳波の原理について講述し、客観的診断プロセスを修得する。</p>	双方向授業

スペシヤリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシヤリスト特別講義	<p>獣医眼科疾患を8回に分け講義する。各疾患領域を体系的網羅的に解説する。さらに、大学病院の専門外来に来院された実際の症例を題材にする。現病歴と初診時所見を提示した後、受講者も加わり診断の確定、加療計画の策定をすすめる。</p> <p>最初に、対象疾患の理解に必要な眼の構造と機能を概説する。加えて各種動物間に存在する相違を比較する。続いて、各疾患を体系的網羅的に解説する。受講者とともに組み立てる症例提示では、客観的事実に基づき論理的に診断を確定する。さらに、診断された疾患に有効な加療計画を策定する。現病歴・症状・検査所見(結果)と診断・加療計画(考察)を明確に分離することを心がける。必要に応じて、各疾患に関連する最新の知見が書かれた論文を紹介する。</p>	双方向授業
		腫瘍治療学特別講義	<p>(概要) 腫瘍細胞の特徴とその診断治療法ならびに免疫学的特徴について概説した後、腫瘍細胞と動物の各臓器における腫瘍に対して、最新の国内外の基礎および臨床研究の成果報告を引用しつつ、パワーポイント等を用いてプレゼンし、各種腫瘍に対する基礎的および最新の診断および治療法について講義する。</p> <p>本講義の最初の3回は、総論として新規に解明された腫瘍生物学について解説する。残りの5回は、各臓器における従来および最新の診断、治療方法および予後について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (9 岡本 芳晴/4回)</p> <p>以下の項目について講義を行う。(1) 腫瘍学各論2(消化器)、(2) 腫瘍学各論3(泌尿器)、(3) 腫瘍学各論4(呼吸器他)、(4) 腫瘍学各論5(骨の腫瘍)</p> <p>(23 大崎 智弘/4回)</p> <p>以下の項目について講義を行う。(1) 腫瘍学総論1(腫瘍細胞の特徴)、(2) 腫瘍学総論2(腫瘍の診断・治療)、(3) 腫瘍学総論3(腫瘍と免疫)、(4) 腫瘍学各論1(体表の腫瘍)</p>	双方向授業 オムニバス方式
		スペシヤリスト特別演習	<p>(概要) 個体発生における上皮系組織および間葉系組織についての理解を深めるために、器官の発生やその異常に関する最新の科学論文を精読し、その内容についてのプレゼンテーションを行う。</p> <p>はじめに、組織学および発生学に関連するテーマを設定し、最新の知見を検索する。次に、その研究の背景や解析手法、得られた成果、結果から導くことができる事象についてプレゼンテーション資料を作成、紹介した後、質疑応答を行い、上皮系組織および間葉系組織を包括的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 保坂 善真/8回)</p> <p>以下の項目について演習を行う。(1) 細胞分化と間葉系組織、(2) 文献の検索(間葉系組織)、(3) 解析手法の理解(間葉系組織)、(4) 結果の予測と解釈(間葉系組織)、(5) 考察の理解(間葉系組織)、(6) 発表資料の作成(間葉系組織)、(7) 発表、質疑応答(間葉系組織)、(8) 総括</p> <p>(13 割田 克彦/7回)</p> <p>以下の項目について講義を行う。(1) 細胞分化と上皮系組織、(2) 文献の検索(上皮系組織)、(3) 解析手法の理解(上皮系組織)、(4) 結果の予測と解釈(上皮系組織)、(5) 考察の理解(上皮系組織)、(6) 発表資料の作成(上皮系組織)、(7) 発表、質疑応答(上皮系組織)</p>	学生移動 オムニバス方式
		獣医生体機能学特別演習	<p>最近公表された神経系や内分泌系を始めとする細胞生理・機能薬理学的な学術論文や総説を教材とし、生体の恒常性や破綻によって生じる細胞機能変化やそれによって生じる病態及び薬物治療の基礎的概念について理解し、議論を深めることを目標とする。</p> <p>生体の恒常性維持を制御する分子の理解とその破綻によって生じる病態、及び治療薬の作用機序について、最新の原著論文、総説を教材として用い、精読した上で口頭発表により紹介する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	学生移動
		遺伝情報制御学特別演習	<p>難治性疾患に対する治療法(再生医療や遺伝子治療等)の開発には遺伝情報の理解が欠かせない。本演習では、内分泌中枢「下垂体」を題材に発生、細胞分化、疾患および治療に関わる最新知見を抄読し、遺伝情報制御と治療の関係を理解する。</p> <p>下垂体の構造と機能を解説し、第2回以降は以下のテーマに関する最新論文を抄読して議論する。</p> <p>最新論文1:下垂体の発生に関する原著論文 最新論文2:下垂体の幹細胞に関する原著論文 最新論文3:下垂体疾患に関する原著論文 最新論文4:下垂体と再生医療に関する原著論文</p>	学生移動

スペシヤリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシヤリスト特別演習	<p>動物実験計画申請書の作成を模擬的に行うことにより、計画の立案と申請書類の書き方および申請書作成に際して注意すべきポイントについて学ぶ。さらにこれらを自身で審査することにより、実験計画について申請と審査の両方向からの視点から全体像を理解する。動物実験を行う上で注意すべき点を理解するために、本演習では特に3R、麻酔・安楽死、動物種と系統および実験動物の感染症に注目して動物実験計画申請書を作成すると共に、模擬的な審査を行う。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で行う。</p>	学生移動共同
		獣医内科診断治療学特別演習	<p>動物における呼吸循環器系の内科疾患の特定難病における画像解析、血行動態解析、血液生化学的解析、遺伝子診断と治療法に関する最新の診断法と治療技術の演習を実施し、特定難病や遺伝性疾患の高度な診断と治療が可能となる能力の養成を目標とする。呼吸循環器疾患の特定難病、特に肺高血圧症、心筋症および血栓症に主眼を置いた診断法および治療法に関する各種基本的技術の習得のための演習を実施する。診断法では心臓超音波検査、心血行動態解析、心不全バイオマーカー、心臓と肺血管リモデリング関連因子の解析、血液生化学検査、血栓症関連因子の解析、血小板機能解析および遺伝子解析について、最新情報に基づいた特異的な診断技術の演習を実施し、各特定難病の治療方法のプログラムの演習を行う。</p> <p>(1 日笠 喜朗) 主として演習を行う。 (29 辻野 久美子) 血液生化学的解析</p>	学生移動共同 (一部)
		獣医感染症内科学特別演習	<p>伴侶動物に対して使用される抗菌薬の種類と実際的な使用方法について解説を行うとともに、実際の細菌感染症症例に対する診断から治療(主として抗菌療法)に至る過程を習得するための演習を行う。</p> <p>各抗菌薬の特徴や対象となる微生物や感染症について解説する。また、実際の感染症症例のデータなどを交えて、理想的な抗菌療法のあり方に関する考察・検討を行う。さらに、臨床上問題となる多剤耐性菌感染症に対する抗菌療法やその他の必要とされる対応についても学ぶ。</p>	学生移動
		神経機能評価学特別演習	<p>神経疾患に対する客観的機能評価法として、特発性てんかんに対する脳波検査、四肢の運動失調に対する筋電図検査、脊髄疾患に対する体性感覚誘発電位等をテーマに、文献ならびに症例の検査データを用いた演習を行う。</p> <p>各週ごとに設定した神経機能検査に関する文献を抄読し、内容をまとめたプレゼンを行う。各プレゼン内容をもとに討論し、課題の抽出と解決方法をまとめる。さらに、実際の症例の検査データを解析し、診断プロセスについて討論する。</p>	学生移動
		画像診断学特別演習	<p>(概要) MRI機器の基本構成及びMRI検査の各種撮像モードの原理について解説する。特に各モードのパルスシーケンスの詳細について解説する。また各撮像モードの臨床的応用例について実際の症例を用いて説明していく。</p> <p>MRI装置の各部位の名称その構成要素について理解する。さらにMRI信号について理解する。各種パルスシーケンスの成り立について解説する。(spin echo、fast spin echo (ターボspin echo)、gradient echo、steady-state MR sequences、echo planar imaging (EPI)、拡散強調 (DMI) など)。</p> <p>(オムニバス/全15回) (12 今川 智敬/10回) MRI各モードのパルスシーケンスの詳細と特殊撮像モードについて担当する。</p> <p>(32 山下真路/5回) MRIの基本構成および各種撮像モードの基本原理について解説する。</p>	学生移動オムニバス方式

スペシヤリスト養成科目	難病治療・創薬科目群	スペシヤリスト特別演習	<p>(概要) 具体的な症例を元に、各臓器における各種腫瘍の診断および治療法に関して、腫瘍に関する最新の国内外の基礎および臨床研究の成果報告を引用しつつ、最適な腫瘍の診断および治療法の選択に対する理解を深める。</p> <p>本演習の最初の7回は腫瘍の診断および腫瘍の治療方法について、残りの8回は各臓器の腫瘍において、数症例のプロフィール、検査結果を元に、今後必要な検査や治療方法および予後について最新の論文を引用しながら議論し、どのような治療方法を選択すべきかを議論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (9 岡本 芳晴/8回) 以下の項目について演習を行う。(1) 体表の腫瘍、(2) 消化器の腫瘍、(3) 肝臓・脾臓の腫瘍、(4) 呼吸器の腫瘍、(5) 泌尿生殖器の腫瘍、(6) 内分泌の腫瘍、(7) 骨の腫瘍、(8) 中枢神経の腫瘍</p> <p>(23 大崎 智弘/7回) 以下の項目について演習を行う。(1) 腫瘍の診断、(2) 腫瘍に対する外科手術、(3) 腫瘍に対する化学療法、(4) 腫瘍に対する放射線治療、(5) 腫瘍に対する免疫療法、(6) 腫瘍に対する免疫療法、(7) 腫瘍に対する光線力学療法</p>	学生移動 オムニバス方式
研究推進科目	研究推進特別実験	腫瘍治療学特別演習	<p>生細胞を用いた研究の基礎となる細胞培養技術や各種分子の検出法、細胞への遺伝子導入法を学び、将来的に自身の研究に活かせる知識と実験手技を身に付けるための実験を行う。</p> <p>研究テーマを立案・検討し、そのテーマに関する情報検索を行ったのち、実験計画と方法を設定する。続いて、株化細胞や初代培養細胞を用いて実験を実施し、データの計測と解析を行う。本特別実験では、タンパク機能の解析に用いられる分子生物学的なアプローチ法についても取り扱う。最後に結果を検討し、実験結果を総括する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		組織形態学特別実験	<p>本実験では生体機能調節に関わる細胞分子メカニズムについて、特に神経機能を中心に形態学的、機能生理学及び病態薬理学的な解析を行い、新知見を得ることを目的とする。そのため細胞生理・薬理学的技術を体得し、その解析方法について学習し、得られた結果についてプレゼンテーションを行うと共に、レポートにまとめ発表する。</p> <p>神経系の生理機能や病態薬理学的解析のため、神経細胞に発現しているタンパク質の機能や薬物反応などについて、形態学的手法、電気生理学的手法並びに細胞生化学的実験技術について実習することにより新知見を得ることを目指す。これらの実験技術を体得し、実験データについてプレゼンテーションとレポート作成を行う。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		獣医生体機能学特別実験	<p>動物および人の神経系疾患の病理発生に関する実験を行うことにより、病理形態学的評価法(病理組織学的、免疫組織学的、電子顕微鏡的、分子生物学的評価法等)を習得する。</p> <p>神経系疾患(感染症、代謝性疾患など)に関する実験の研究テーマを立案する。過去の文献をもとに情報収集を行い、実験計画を設計をする。続いて、実験動物を用いて実験を行い、病理学的解析を行う。最後に結果について考察する。</p> <p>履修学生に対して担当教員を決定する。</p>	
		獣医神経病理学特別実験	<p>現在遺伝子改変動物を用いた研究は実験動物学部分野において必須である。このことから本特別実験では特にトランスジェニックマウスの作製に関する手技について実際に体験することにより、遺伝子改変動物に関する理解をより深めることを目的とする。</p> <p>トランスジェニックマウス作製のためのDNAコンストラクトの設計及び構築を行い、マウス胚への遺伝子導入及び胚移植を行う。さらに遺伝子導入されたマウス個体をファウンダーとして確立するまでの手技を習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
		実験動物生殖工学特別実験	<p>課題探求の研究に伴う実験に関する技能及び実験手技を身につけるため、微生物を使用する実験及び感染実験を行うとともに、結果を分かりやすく公表するための図表の作成を英文により行う。</p> <p>上皮細胞及びマクロファージ系の株化細胞を用いた培養細胞接種試験により細菌の付着性及び侵入性を検討する。さらに、発育鶏卵接種試験及び動物実験により接種後の菌の動態及び遺伝学性状を解析する。また、細菌に感染するウイルスであるバクテリオファージに関する基礎実験及び応用に関する実験を実施する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	

研究推進科目	研究推進特別実験	鳥類における感染症学分野で学位論文作成に必要なとなる応用的実験技術やその背景となる理論を実技を通して理解し習得する。鳥類における感染症学分野での学位論文作成に必要なとなる、病原体の分離や輸送、野生動物を用いた感染実験、捕獲などの応用系実験技術や背景にある理論や法律による規制等を実技を通して教授する。また、得られた成績の解析技術について習得させる。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
	獣医内科診断治療学特別実験	動物における呼吸循環器系の内科疾患の特定難病における基礎的および応用的な実験を実施し、特定疾患や難病、特に肺高血圧症、心筋症および疼痛・ストレス症状に対する病態および診断法と治療法を理解させるとともに、新たな診断治療技術の開発や評価を学ぶ。 呼吸循環器疾患の特定難病、特に肺高血圧症、心筋症および疼痛・ストレスに主眼を置いた診断法と治療法に関する基礎および応用的なアプローチによる実験を実施する。計画では、肺高血圧症モデル、心筋症モデルおよびストレス・疼痛モデル動物の作成方法を修得する。次いで、それぞれのモデル動物を用いた心臓超音波検査、心血行動態解析、心不全バイオマーカー検査、心臓と肺血管リモデリング関連因子の解析、血液生化学検査、行動学的評価を実施し、各種診断と各疾患の評価を修得する。さらに、その評価法に基づいた各特定難病の治療実験を実施し、治療プロトコルの開発を修得させる。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
	獣医繁殖学特別実験	家畜における繁殖障害の診断技術を習得するとともに、検査結果に対する解析能力を養成する。また、生殖工学の基本的技術の習得を実験で行う。 産業動物及び伴侶動物の繁殖障害と生殖工学に関する臨床面での対応能力の習得を目標とする。 牛、馬、豚、犬及び猫について、家畜繁殖障害概論（繁殖機能と繁殖障害）、繁殖障害（発情周期・妊娠期・産褥期における検査法、診断、治療、ケーススタディ）及び家畜生殖工学概論を中心に実験を実施する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
	難病診断治療学特別実験	腫瘍をはじめとする難病の診断および治療法に関する知識を養成する。診断においては各種画像診断機器を用いて画像解析方法を学習する。また、治療においては各種解析装置を用いて細胞および組織レベルでの治療効果の解析方法について学習する。これらの診断・治療効果の解析方法を学んだ上で、論文作成に関する基本的な手法について学ぶ。 本実験の最初の8回は、腫瘍をはじめとする難病に関する診断に関して各種画像診断機器を用いた画像解析法を習得し、その画像読影・解析方法について学習する。中間の10回は、in vitroおよびin vivo実験において各種解析装置を用いて治療効果の判定方法について学習する。残りの12回は論文の作成方法について学習する。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
演習科目	プロGRESSセミナーⅠ	研究遂行に必要な高度専門知識を教授し、さらに学位論文研究の実験データに関するプレゼンテーションを行い、主指導教員および第一副指導教員による指導を受ける。 研究計画立案のもとになる学術情報収集、実現可能な研究計画、実験手技の検討、実験結果の解析、結論の導き方、等について、それぞれプレゼンテーションを行い、指導教員との討論を繰り返すことで、研究内容全般について自己点検を行う。最後に論文作成に関する指導を行う。 履修学生に対し担当教員を決定する。	
	プロGRESSセミナーⅡ	研究遂行に必要な高度専門知識を教授し、さらに学位論文研究の実験データに関するプレゼンテーションを行い、第二副指導教員による指導を受ける。 研究計画立案のもとになる学術情報収集、実現可能な研究計画、実験手技の検討、実験結果の解析、結論の導き方、等について、それぞれプレゼンテーションを行い、指導教員との討論を繰り返すことで、研究内容全般について自己点検を行う。最後に論文作成に関する指導を行う。 履修学生に対し担当教員を決定する。	双方向授業

アドバンスト教育科目	国内特別実践演習 I	<p>各スペシャリスト養成プログラムに関連する国、地方公共団体、民間の試験・研究機関等において、現地の研究活動に参加することで実践的課題解決能力を醸成する。また、国内で開催される学会等に出席し、研究発表を行う。</p> <p>調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
	国内特別実践演習 II	<p>国内特別実践演習 I に引き続き、国内の試験・研究機関において、現地の研究活動に参加することで実践的課題解決能力をさらに高める。また、国内で開催される学会等に出席し、研究発表を行う。</p> <p>調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
	海外特別実践演習 I	<p>各スペシャリスト養成プログラムに関連する海外の公的機関ならびに民間企業等の試験・研究機関において、現地の研究活動に参加することで実践的課題解決能力を醸成する。また、海外で開催される学会等に出席し、研究発表を行う。</p> <p>調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
	海外特別実践演習 II	<p>海外特別実践演習 I に引き続き、国外の試験・研究機関において、現地の研究活動に参加することで実践的課題解決能力をさらに高める。また、海外で開催される学会等に出席し、研究発表を行う。</p> <p>調査・研究を実施する学外機関との打ち合わせを通じて、解決すべき課題の核心部分を抽出し、その課題に対するアプローチ、調査手法、データの解析、公表へのプロセスを総合的かつ実践的に習得する。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	
	ジョイントワークショップ演習	<p>海外で開催されるジョイントワークショップに出席して研究発表を行うとともに、国外の研究者との交流を図り、各専門分野に関する最新の学術情報を収集する。</p> <p>プレゼンテーションのための資料を作成し、プレゼンテーション技術について指導するとともに、海外の研究者と情報交換するための語学力養成を行う。</p> <p>履修学生に対し担当教員を決定する。</p>	